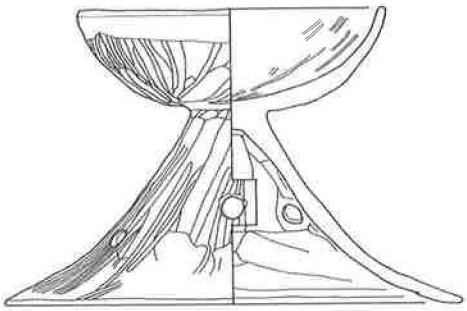
元総社蒼海遺跡群（56）
元総社蒼海遺跡群（61）
元総社蒼海遺跡群（72）
元総社蒼海遺跡群（73）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



元総社蒼海遺跡群（61）Ⅱ－24号住居跡出土高坏

２０１４．３

前橋市教育委員会

１　元総社蒼海遺跡群（61）調査区全景（西から）

２　元総社蒼海遺跡群（61）調査区全景（北西から）

口絵 2

3　元総社蒼海遺跡群（61）H－4号住居跡（北から）

4　元総社蒼海遺跡群（61）H－4号住居跡出土遺物

はじめに

関東平野の北西部に群馬県は位置し、前橋市はその中央、上毛三山のひとつ名峰赤城を背にし、利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。豊かな自然環境にも恵まれ、２万年前から人々が生活を始め、縄文時代の遺跡も、市内の随所に存在します。

古代において前橋台地は、広大な穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であったことから、横浜に至る街道は「日本のシルクロード」とも呼ばれ、横浜港からは前橋シルクの名で海外に輸出され、近代日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群（56）・（61）・（72）・（73）は、上野国府推定区域や上野国分僧寺・国分尼寺などの施設を擁する古代上野国の中枢地域であり、多くの注目が集まっております。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出・確認はかないませんでしたが、縄文時代の竪穴住居跡をはじめ、古墳時代から平安時代にいたる多くの竪穴住居跡を調査しました。今回の調査成果をはじめとしてこれまでの調査成果の蓄積は、国府や国府のまちの姿を再現するための資料と考えております。残念ながら、現状のままでの保存が困難なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進められことができました。また、記録的な猛暑そして寒風の中、発掘調査担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成26年３月

前橋市教育委員会
教育長　佐　藤　博　之

例　　言

1　本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（56）・（61）・（72）・（73）の発掘調査報告書である。

2　調査主体は、前橋市教育委員会管理部文化財保護課である。

3　発掘調査の要項は次のとおりである。

調　査　場　所	群馬県前橋市元総社町1614番地１　ほか
発 掘 調 査 期 間	平成25年７月10日～平成25年12月10日
整理・報告書作成期間	平成25年12月11日～平成26年３月７日
発 掘 ・ 整 理 担 当 者	藤坂和延

4　本書の原稿執筆・編集は藤坂が行った。

5　発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。
神山早苗・佐藤簡詳・関根その子・高橋民雄・武井洋子・中澤光江・中林美智子・奈良精一・平林しのぶ・町田保則・茂木昭弘・山川明男

6　発掘調査で出土した遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1　挿図中に使用した北は、座標北である。

2　挿図に国土交通省国土地理院発行の１：200,000地形図(宇都宮、長野)、１：25,000地形図(前橋)、１：2,500前橋市現形図を使用した。

3　遺跡の略称は、25A130-155・25A130-160・25A130-171・25A130-172である。

4　遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。
H…古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡　C…方形周溝墓　T…竪穴状遺構　W…溝跡　A…道路状遺構
D…土坑　P…ピット・貯蔵穴　X…性格不明遺構　O…風倒木跡

5　遺構・遺物の実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。
遺構　全体図…１/200・住居跡・竪穴状遺構・溝跡・土坑・ピット…１/60　竈・炉平・断面図…１/30
遺物　土器・鉄製品…１/３、１/４　石器・石製品・土製品…１/１、１/３　鉄器・鉄製品…１/２
瓦…１/６

6　計測値については、（　）は現存値、［　］は復元値を表す。

7　セクション注記と遺物観察表の色調については、新版標準土色帳（小山・竹原 1967）を基準とした。

8　遺構平面図の----------は推定線を表す。

9　スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

遺構平面図	焼　土…	粘土…	
遺構断面図	構築面…		
遺物実測図	須恵器断面…	灰釉陶器断面…	灰釉陶器表面…
	緑釉陶器断面…	内黒…	粘土、たたき…
	いぶし焼成…	煤、炭化物付着…	石；煤、被熱痕…

10　主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。
As-B　（浅間Ｂ軽石：供給火山・浅間山、1108年）
Hr-FP　（榛名二ッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、６世紀中葉）
Hr-FA　（榛名二ッ岳渋川テフラ：供給火山・榛名山、６世紀初頭）
As-C　（浅間Ｃ軽石：供給火山・浅間山、４世紀前半）

目　　次

はじめに
例言・凡例
目次・図版目次・挿図目次・表目次

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1

Ⅱ　遺跡の位置と環境
1　遺跡の立地 …… 1
2　歴史的環境 …… 1

Ⅲ　調査の方針と経過
1　調査方針 …… 7
2　調査経過及び概要 …… 7

Ⅳ　元総社蒼海遺跡群（56）・（61）
1　調査区の概要 …… 13
2　基本層序 …… 13
3　縄文時代の出土遺物 …… 13
4　弥生時代の出土遺物 …… 14
5　古墳時代～平安時代の遺構と遺物 …… 14
(1)　竪穴住居跡 …… 14
(2)　方形周溝墓 …… 18
(3)　溝跡・竪穴状遺構・土坑・ピット …… 18
6　中近世の遺構と遺物 …… 20

Ⅴ　元総社蒼海遺跡群（72）
1　調査区の概要 …… 49
2　基本層序 …… 49
3　遺構と遺物 …… 49
(1)　竪穴住居跡 …… 49
(2)　溝　　跡 …… 49

Ⅵ　元総社蒼海遺跡群（73）
1　調査区の概要 …… 55
2　基本層序 …… 55
3　遺構と遺物 …… 55

写真図版
抄　　録
奥　　付

図　　版

口絵 1　元総社蒼海遺跡群（61）調査区全景（西から）
2　元総社蒼海遺跡群（61）調査区全景（北西から）
3　元総社蒼海遺跡群（61）H－4号住居跡(北から)
4　元総社蒼海遺跡群（61）H－4号住居跡出土遺物
PL. 1　元総社蒼海遺跡群（61）調査区全景
2　元総社蒼海遺跡群（61）H－1号住居跡
元総社蒼海遺跡群（61）H－2号住居跡
元総社蒼海遺跡群（61）H－3号住居跡
元総社蒼海遺跡群（61）H－4号住居跡
3　元総社蒼海遺跡群（61）H－4号住居跡・竈
元総社蒼海遺跡群（61）H－5号住居跡・竈
元総社蒼海遺跡群（61）H－5・7・8号住居跡
元総社蒼海遺跡群（61）H－7号住居跡・竈
元総社蒼海遺跡群（61）H－9号住居跡・竈
4　元総社蒼海遺跡群（61）H－10号住居跡
元総社蒼海遺跡群（61）H－10号住居跡・竈
元総社蒼海遺跡群（61）H－11号住居跡
元総社蒼海遺跡群（61）H－12号住居跡
元総社蒼海遺跡群（61）H－13号住居跡
元総社蒼海遺跡群（61）H－14・15号住居跡
元総社蒼海遺跡群（61）H－16号住居跡
5　元総社蒼海遺跡群（61）H－18号住居跡
元総社蒼海遺跡群（61）H－19号住居跡
元総社蒼海遺跡群（61）H－20号住居跡)
元総社蒼海遺跡群（61）H－21号住居跡
元総社蒼海遺跡群（61）H－21号住居跡・竈
H－21号住居跡遺物出土状況
元総社蒼海遺跡群（61）H－22号住居跡
元総社蒼海遺跡群（61）H－23・24号住居跡
6　元総社蒼海遺跡群（61）C－1号方形周溝墓
C－1号方形周溝墓遺物出土状況
元総社蒼海遺跡群（61）W－1号溝跡
元総社蒼海遺跡群（61）W－2号溝跡
7　元総社蒼海遺跡群（61）W－2号溝跡土層堆積状況
元総社蒼海遺跡群（61）T－1号竪穴状遺構
元総社蒼海遺跡群（61）T－2～4号竪穴状遺構
元総社蒼海遺跡群（61）T－5号竪穴状遺構
元総社蒼海遺跡群（61）T－6号竪穴状遺構
元総社蒼海遺跡群（61）D－1号土坑
元総社蒼海遺跡群（61）D－2号土坑
元総社蒼海遺跡群（61）D－3号土坑
8　元総社蒼海遺跡群（61）D－5号土坑
元総社蒼海遺跡群（61）D－6号土坑
元総社蒼海遺跡群（61）I－1号井戸跡
元総社蒼海遺跡群（72）H－1号住居跡
元総社蒼海遺跡群（73）調査区全景
9　縄文土器・石器、弥生土器
10　元総社蒼海遺跡群（61）出土遺物（1）
11　元総社蒼海遺跡群（61）出土遺物（2）
元総社蒼海遺跡群（72）出土遺物

挿　　図

Fig. 1　元総社蒼海遺跡群位置図……2
2　周辺遺跡図……4
3　元総社蒼海遺跡群（56）（61）（72）（73）調査区位置図とグリッド設定図……8
4　元総社蒼海遺跡群（56）（61）基本層序……13
5　元総社蒼海遺跡群（56）（61）全体図・H－1……25
6　元総社蒼海遺跡群（56）（61）H－1……25
7　元総社蒼海遺跡群（56）（61）H－2、H－3……26
8　元総社蒼海遺跡群（56）（61）H－4……27
9　元総社蒼海遺跡群（56）（61）H－5、H－7、H－8……28
10　元総社蒼海遺跡群（56）（61）H－9、H－10、H－11……29
11　元総社蒼海遺跡群（56）（61）H－11、H－12……30
12　元総社蒼海遺跡群（56）（61）H－13……31
13　元総社蒼海遺跡群（56）（61）H－14、H－15……32
14　元総社蒼海遺跡群（56）（61）H－16、H－17、H－18……33
15　元総社蒼海遺跡群（56）（61）H－19、H－20、H－21……34
16　元総社蒼海遺跡群（56）（61）H－21、H－22……35
17　元総社蒼海遺跡群（56）（61）H－23、H－24、C－1……36
18　元総社蒼海遺跡群（56）（61）W－1、W－2……37
19　元総社蒼海遺跡群（56）（61）T－1～6……38
20　元総社蒼海遺跡群（56）（61）D－1～5、I－1……39
21　元総社蒼海遺跡群（56）（61）縄文時代・弥生時代出土遺物……40
22　元総社蒼海遺跡群（56）（61）H－1、H－3、H－4出土遺物……41
23　元総社蒼海遺跡群（56）（61）H－7、H－9、H－10～13出土遺物……42
24　元総社蒼海遺跡群（56）（61）H－14、H－15、H－18、H－21、H－22、C－1、W－2出土遺物……43
25　元総社蒼海遺跡群（56）（61）W－2、I－1出土遺物……44
26　元総社蒼海遺跡群（56）（61）T－1・2・3・4、I－1出土遺物……45
27　元総社蒼海遺跡群（72）基本層序……49
28　元総社蒼海遺跡群（72）調査区全体図……50
29　元総社蒼海遺跡群（72）H－1、W－1出土遺物……50
30　元総社蒼海遺跡群（72）H－1出土遺物……51
31　元総社蒼海遺跡群（73）基本層序……55
32　元総社蒼海遺跡群（73）調査区全体図……55

表

Tab. 1　元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表……5
Tab. 2　元総社蒼海遺跡群（56）・（61）住居跡等一覧表……21
Tab. 3　元総社蒼海遺跡群（56）・（61）土坑一覧表……21
Tab. 4　元総社蒼海遺跡群（56）・（61）古墳・奈良・平安時代出土遺物観察表……22
Tab. 5　元総社蒼海遺跡群（72）出土土器観察表……49

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、13年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に渡って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成25年７月　日付けで、前橋市長　山　本　龍（区画整理第二課）より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、７月10日に現地での発掘調査を開始するに至った。

遺跡名称は区画整理事業名を採用し、過年度に発掘調査を実施した遺跡と区別するための数字を付し、それぞれ「元総社蒼海遺跡群（56）」（遺跡コード：25Ａ155）・「元総社蒼海遺跡群（61）」（遺跡コード：25Ａ160）・「元総社蒼海遺跡群（72）」（遺跡コード：25Ａ171）・「元総社蒼海遺跡群（73）」（遺跡コード：25Ａ172）とした。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

１　遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯という４つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山噴火によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。台地の東部は、広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高３ｍ～５ｍを測り、段丘崖上は桑畑を主とした畑地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約３㎞の地点、前橋市元総社町地内に所在している。南東へ約１㎞の所に上野国総社神社があり、すぐ西には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号線、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に走り、東側には市道大友・石倉線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には田畑が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

２　歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群と山王廃寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割を利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連綿と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地域が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の稲作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

Fig. 1　元総社蒼海遺跡群位置図

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡の北東に広がる総社古墳群が挙げられる。総社古墳群を代表するものには、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ横穴式両袖型の石室が築造された前方後円墳の総社二子山古墳、両袖型横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内古墳最終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳があり、この地域と中央との関係を考えるうえで重要な意味をもつ古墳群といえる。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王廃寺跡(放光寺）がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鴟尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。なお、平成18年度から５カ年計画で「山王廃寺範囲内容確認調査」が実施され、平成18年度では「講堂」の版築基壇や「回廊」の北東根石、平成19年度では「金堂」の版築基壇や「回廊」の西側根石が、平成20年度では「塔」の基壇とその周辺部が確認された。さらに平成21年度では「推定中門」と「西側南側回廊」の周辺部が、平成22年度は北西隅の回廊と接するように「基壇建物跡」と「北方建物郡」が確認された。

奈良・平安時代になると、上野国府、国分僧寺、国分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的・経済的・文化的中心地としての様相を呈してくる。律令期における国司の政治活動拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、元総社地区に置かれたとされる。

国府に関連する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元総社小学校校庭遺跡や「國厨」「曹司」「国」「邑厨」等と書かれた墨書土器や人形が出土した元総社寺田遺跡などがある。また、国府域の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された閑泉樋遺跡や元総社蒼海遺跡群（7）（9）（10）と南北方向の溝跡が検出された元総社明神遺跡の調査成果により、国府域の東北外郭線が想定されるに至った。さらに、周辺遺跡からは、官人が用いたと考えられる円面硯、巡方(腰帯具)、緑?陶器も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代から部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、塀等が確認されている。さらに、国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と南西隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺、国分尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺・尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物群が検出されている。

また、群馬町（現高崎市）の調査等により、本遺跡から約1.5㎞南の地点にＮ―64°―Ｅ方向の東山道（国府ルート)があることが推定されている。推定日高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を国府方面へ延長したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元年(1429)、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有し県内でも最古級に位置づけられる。しかも、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の縄張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの縄張りに沿って造られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた総社・元総社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元総社地区は注目される地域の一つである。元総社蒼海土地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われている。これにより、手付かず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。

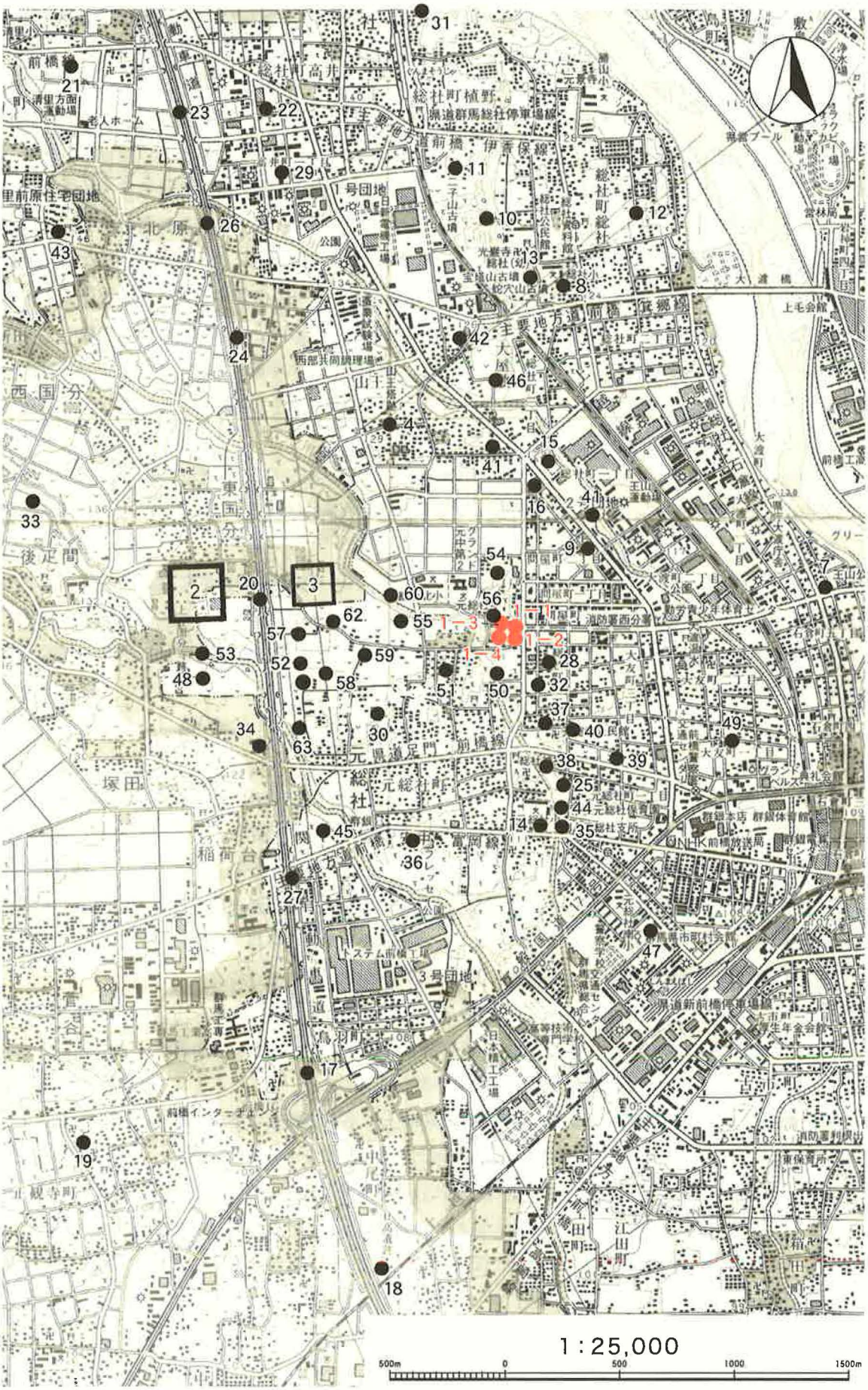


Fig. 2　周辺遺跡図

Tab. 1　元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
1－1	元総社蒼海遺跡群（56）	2013	本報告書所収遺跡
1－2	元総社蒼海遺跡群（61）	2013	本報告書所収遺跡
1－3	元総社蒼海遺跡群（72）	2013	本報告書所収遺跡
1－4	元総社蒼海遺跡群（73）	2013	本報告書所収遺跡
2	上野国分寺跡	1980～88	奈良：金堂基壇・塔基壇
3	上野国分尼寺跡	(1999)	奈良：西南隅・東南隅築垣
4	山王廃寺跡	(1974)	奈良：塔心礎・根巻石・金堂基壇・講堂版築・回廊礎石
7	王山古墳	1972	古墳：前方後円墳（6ｃ中）
8	蛇穴山古墳	1975	古墳：方墳（8ｃ初）
9	稲荷山古墳	1988	古墳：円墳（6ｃ後半）
10	愛宕山古墳	1996	古墳：円墳（7ｃ初）
11	総社二子山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（6ｃ末～7ｃ初）
12	遠見山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（5ｃ後半）
13	宝塔山古墳	未調査	古墳：方墳（7ｃ末）
14	元総社小学校校庭遺跡	1962	平安：掘立柱建物跡・柱穴群・周濠跡
15	産業道路東遺跡	1966	縄文：住居跡
16	産業道路西遺跡	1969	縄文：住居跡
17	中尾遺跡（事業団）	1976	奈良・平安：住居跡
18	日高遺跡（事業団）	1977	弥生：水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農具、平安：条里制水田跡
19	日高遺跡（高崎市）	(1978)	弥生：水田跡
19	正観寺遺跡Ⅰ～Ⅳ（高崎市）	1979～81	弥生：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
20	上野国分僧寺・尼寺中間地域(事業団)	1980～83	縄文：住居跡・配石遺構、弥生：住居跡・方形周溝墓、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構
21	清里南部遺跡群・Ⅲ	1980	縄文：ピット、奈良・平安：住居跡・溝跡
22	中島遺跡	1980	奈良・平安：住居跡
23	下東西遺跡（事業団）	1980～84	縄文：屋外埋甕、弥生：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・柵列、中世：住居跡・溝跡
24	国分境遺跡（事業団）	1990	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、
24	国分境Ⅱ遺跡	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
24	国分境Ⅲ遺跡（群馬町）	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中世：土壙墓
25	元総社明神遺跡Ⅰ～ⅩⅢ	1982～96	古墳：住居跡・水田跡・堀跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：住居跡・溝跡
26	北原遺跡（群馬町）	1982	縄文：土坑・集石遺構、古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡
27	鳥羽遺跡（事業団）	1978～83	古墳：住居跡・鍛冶場跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡（神殿跡）
28	閑泉樋遺跡	1983	奈良・平安：溝跡
29	柿木遺跡・Ⅱ遺跡	1983,1988	奈良・平安：住居跡・溝跡
30	草作遺跡	1984	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：井戸跡
31	桜ヶ丘遺跡		弥生：住居跡
	桜ヶ丘遺跡Ⅱ遺跡	1985,87	奈良・平安：住居跡
32	閑泉樋南遺跡	1985	古墳：住居跡、奈良・平安：溝跡
33	後疋間遺跡Ⅰ～Ⅲ（群馬町）	1985～87	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：道路状遺構
34	塚田村東遺跡（群馬町）	1985	平安：住居跡
35	寺田遺跡	1986	平安：溝跡
36	天神遺跡・Ⅱ遺跡	1986,88	奈良・平安：住居跡
37	屋敷道路・Ⅱ遺跡	1986,95	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：堀跡・石敷遺構
38	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1987	古墳：住居跡、平安：住居跡・溝跡・地下式土坑
39	堰越遺跡	1987	奈良・平安：住居跡・溝跡
40	堰越Ⅱ遺跡	1988	平安：住居跡
41	昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡	1988	奈良・平安：住居跡
42	村東遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：堀跡
43	熊野谷遺跡	1988	縄文：住居跡、平安：住居跡・溝跡
	熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1989	平安：住居跡
44	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ(事業団)	1988～91	古墳：水田跡・溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
45	弥勒遺跡・Ⅱ遺跡	1989,95	古墳：住居跡、平安：住居跡
46	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅵ	1992～2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡・地下式土坑・溝跡
47	元総社稲葉遺跡	1993	縄文：土坑、平安：住居跡・瓦塔
48	上野国分寺参道遺跡	1996	古墳：住居跡、平安：住居跡
49	大友宅地添遺跡	1998	平安：水田跡
50	総社閑泉明神北遺跡	1999	古墳：畠跡・水田跡・溝跡、中世：溝跡
	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、平安：住居跡・溝跡
	総社閑泉明神北Ⅴ遺跡	2004	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡
	元総社蒼海遺跡群（7）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡
	元総社蒼海遺跡群（9）・(10)	2006	縄文：竪穴住居跡、古墳：竪穴住居跡、奈良・平安：竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・土坑、中世：溝跡
51	元総社宅地遺跡1～23トレンチ	2000	古墳：住居跡、平安：住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶場跡・溝跡・道路状遺構、中世：溝跡、近世：住居跡
52	元総社小見遺跡	2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝・道路状遺構
53	元総社西川遺跡（事業団）	2000	古墳：住居跡・畠跡、奈良・平安：住居跡・溝跡
54	総社甲稲荷塚大道西遺跡	2001	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：畠跡、近世：溝跡

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
54	総社甲稲荷塚大道西II遺跡	2001	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、近世：溝跡
55	元総社小見内III遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡
	元総社小見内VI遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：井戸跡
	元総社蒼海遺跡群（12）	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：井戸跡
56	総社甲稲荷塚大道西III遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡・溝跡
	総社閑泉明神北III遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	総社甲稲荷塚大道西IV遺跡	2003	古墳：畠跡、中世：畠跡
57	元総社小見II遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：溝跡・道路状遺構
	元総社小見IV遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
	元総社小見V遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡
	元総社小見VI遺跡	2004	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	元総社蒼海遺跡群（4）	2005	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
58	元総社小見III遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・道路状遺構
	元総社草作V遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
59	元総社小見内IV遺跡	2002	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：土壙墓
	元総社小見内VIII遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：竪穴状遺構
	元総社小見内IX遺跡	2004	奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
	元総社小見内X遺跡	2004	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡・粘土採掘坑、中世：溝跡・土壙墓
	元総社蒼海遺跡群（2）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・土壙墓
	元総社蒼海遺跡群（6）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・土壙墓
	元総社蒼海遺跡群（11）	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
60	元総社北川遺跡（事業団）	2002～04	古墳：水田跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中近世：掘立柱建物跡、水田跡、火葬墓
61	稲荷塚道東遺跡（事業団）	2003	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・竈構築材採掘痕・井戸跡
62	元総社小見内VII遺跡	2003	
	元総社蒼海遺跡群（1）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・土壙墓
	元総社蒼海遺跡群（5）	2005	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：周溝状遺構・土壙墓
63	元総社蒼海遺跡群（8）	2006	奈良・平安：住居跡
—	元総社蒼海遺跡群（3）・元総社小見VII遺跡	2005	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
—	元総社蒼海遺跡群（13）	2008	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡・溝跡、中世：溝跡・土壙墓
—	元総社蒼海遺跡群（14）	2008	古墳：住居跡・水田跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：溝跡、竪穴状遺構・井戸跡
—	元総社蒼海遺跡群（15）	2008	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡
—	元総社蒼海遺跡群（16）	2008	奈良・平安：住居跡・畠跡、中世：溝跡
—	元総社蒼海遺跡群（17）	2008	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・竪穴状遺構、中世以降：土壙墓・井戸跡、不明：住居跡・溝跡
—	元総社蒼海遺跡群（18）	2008	平安：住居跡
—	元総社蒼海遺跡群（19）	2008	古墳：小区画水田路、中世：井戸跡
—	元総社蒼海遺跡群（20）	2008	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・竪穴状遺構・溝跡、中世：土壙墓・溝跡
—	元総社蒼海遺跡群（21）	2009	中世：蒼海城の堀跡・盛土状遺構
—	元総社蒼海遺跡群（22）	2009	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
—	元総社蒼海遺跡群（23）	2009	古墳：住居跡、平安：土坑、中世：蒼海城の堀跡
—	元総社蒼海遺跡群（24）	2009	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・竪穴状遺構、中世：方形竪穴・井戸跡
—	元総社蒼海遺跡群（25）	2009	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：南宋～元時代の青白磁梅瓶２個体
—	元総社蒼海遺跡群（27）	2009	奈良・平安：住居跡、中世：蒼海城の堀跡
—	元総社蒼海遺跡群（28）	2009	古墳：住居跡、平安：住居跡
—	元総社蒼海遺跡群（29）	2009	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：蒼海城の堀跡
—	元総社蒼海遺跡群（30）	2009	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：堀跡、土壙墓
—	元総社蒼海遺跡群（31）	2010	古墳：住居跡、中世：蒼海城の堀跡
—	元総社蒼海遺跡群（34）	2010	奈良・平安：住居跡、中世：溝跡・土壙墓・土坑
—	元総社蒼海遺跡群（35）	2010	縄文：住居跡、奈良・平安：住居跡　中世：蒼海城の堀跡
—	元総社蒼海遺跡群（36）	2010	古墳：畠跡　平安：住居跡、水田跡、中世：土坑、蒼海城の堀跡
—	元総社蒼海遺跡群（37）	2011	古墳：住居跡、平安：溝跡、中世：土坑、ピット、竪穴状遺構
—	元総社蒼海遺跡群（38）	2011	古墳～奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
—	元総社蒼海遺跡群（39）	2012	古墳：住居跡、奈良・平安：溝跡・土坑、中世：井戸
—	元総社蒼海遺跡群（40）	2012	縄文：住居跡、古墳～奈良・平安：住居跡・鍛冶遺構、中世：井戸
—	元総社蒼海遺跡群（41）	2012	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・鍛冶工房跡、中世：掘立柱建物跡・溝跡・井戸
—	元総社蒼海遺跡群（43）	2012	奈良・平安：住居跡・溝跡
—	元総社蒼海遺跡群（44）	2012	奈良：住居跡・溝跡、中近世：堀跡・土坑墓・井戸
—	元総社蒼海遺跡群（45）	2012	古墳：住居跡・溝跡・堀跡、中近世：土坑墓・井戸
—	元総社蒼海遺跡群（46）	2012	平安：住居跡、中世：井戸
—	元総社蒼海遺跡群（47）	2012	中近世：柱列跡・溝跡・井戸跡
—	元総社蒼海遺跡群（49）	2012	平安：住居跡、中世：井戸・土坑
—	元総社蒼海遺跡群（50）	2012	縄文：住居跡、古墳～奈良・平安：住居跡

※　調査年度の欄の（　）は調査開始年度を示す。
※　遺跡名の欄の（事業団）は（公益財団法人）群馬県埋蔵文化財調査事業団を表す。

Ⅲ　調査方針と経過

1　調査方針

委託された調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う道路建設予定地が主たる調査地であるため、幅６ｍほどの極めて狭長なトレンチ状の調査区が中心となっている。本報告書で報告する遺跡の総調査面積は1,760㎡である。

遺構番号は、遺跡ごとに付番することとし、(61) Ｈ－１号住居跡、(72) Ｈ－１号住居跡のように遺構の前に必ず遺跡名に付した数字を付すこととした。

グリッド座標については国家座標（日本測地系）Ｘ＝＋44000・Ｙ＝－72200を基点（Ｘ０・Ｙ０）とする４ｍピッチのものを使用し、蒼海遺跡群(61)においては、西から東へＸ36、37、38…、北から南へＹ138、139、140…と付番し、グリッド呼称は北西杭の名称を使用した。

ちなみに、この蒼海遺跡群（61）のＸ277・Ｙ104の公共座標は以下のとおりである。

日本測地系	Ｘ＝＋43,584.000		Ｙ＝－71,092.000
緯　　度	36°25′13″	経　　度	139°02′14″
真北方向角	＋０°28′35″	縮尺係数	0.99996384

調査方法については、表土掘削・遺構確認・方眼杭等設置・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真ので行うこととした。このうちの遺構確認については、基本的に As-C・Hr-FP 軽石と As-B 軽石が混入する土層を手がかりにした。

図面作成は、平板・簡易遣り方測量を用い、遺構平面図は原則として１/20、住居跡竈は１/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録を記載しながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2　調査経過及び概要

現地調査は平成25年７月１日から12月10日まで行った。

本年度実施した調査地は12ヵ所で、それぞれ「元総社蒼海遺跡群（51）」（遺跡コード：25Ａ130-149）・「元総社蒼海遺跡群（52）」（遺跡コード：25Ａ130-150）・「元総社蒼海遺跡群（53）」（遺跡コード：25Ａ130-151）・「元総社蒼海遺跡群（54）」（遺跡コード：25Ａ130-153）・「元総社蒼海遺跡群（55）」（遺跡コード：25Ａ130-154）・「元総社蒼海遺跡群(56)」（遺跡コード：25Ａ130-151）・「元総社蒼海遺跡群(61)」（遺跡コード：25Ａ130-160）・「元総社蒼海遺跡群(66)」（遺跡コード：25Ａ130-165）・「元総社蒼海遺跡群(67)」（遺跡コード：25Ａ130-166）・「元総社蒼海遺跡群(68)」（遺跡コード：25Ａ130-167）・「元総社蒼海遺跡群(72)」（遺跡コード：25Ａ130-171）・「元総社蒼海遺跡群（73）」（遺跡コード：25Ａ130-172）とした。（以後「元総社蒼海遺跡群」を省略して付された数字のみで表記する）

調査班は２班で構成し、１班は（51）・(52)・(53)・(54)・(55)・(56)・(66)・(67)・(68) の９遺跡を調査。２班は（61）・(72)・(73) の３遺跡を調査した。

なお、(56) および (61) は工事の兼ね合いから調査が２時期に分かれたところから、遺構番号もそれぞれの連番で付した。そのため同一遺構が別の遺構番号で調査されることとなった。報告書作成にあたり、混乱を避ける意味合いから、(61) の遺構番号に統一した。（遺物への注記はそれぞれの遺構番号で実施した。）

以下その対照表を記す。

Fig. 3　元総社蒼海遺跡群（56）（61）（72）（73）

調査区位置図とグリッド設定図

(56)　H－1　H－2　H－3

(61)　H－11　H－17　H－12

また、(61) の竪穴住居跡は、H－6が欠番となった。

蒼海遺跡群（56）は蒼海遺跡群の北東部あたり、古墳時代から平安時代の竪穴住居跡が3軒検出された。

蒼海遺跡群（61）は蒼海遺跡群（56）の南に近接する。遺構の密度は高く、古墳時代から平安時代の竪穴住居跡22軒と、竪穴状遺構6基、土坑5基、溝跡2条、中世末の土壙墓1基、中世の井戸跡1基であった。

蒼海遺跡群（72）は蒼海遺跡群の北東部で、平安時代の竪穴住居跡が1軒、溝1条が検出された。

蒼海遺跡群（73）は蒼海遺跡群の北東部で、時期不明の道状遺構1条と、近年まで使用していたと推定できる井戸1基であった。

それぞれの、遺跡において、遺構精査後、記録図面の作成・記録写真の撮影を実施し、埋め戻し等を行い調査を終了した。

12月16日に現場事務所の撤収・機材等の撤収作業を実施し、文化財保護課庁舎に戻った。出土遺物・図面・写真等の整理作業及び報告書作成にあたり、本報告書の発行をもってすべての作業を終了した。

Ⅳ　元総社蒼海遺跡群（56）・（61）

1　調査区の概要

本報告書において報告する４つの調査区のうち最大の調査区で、調査面積は蒼海遺跡群（56）（61）を合わせて631㎡を図る。蒼海遺跡群の北東部、元総社公民館の北北東約160ｍに位置する。蒼海遺跡群（56）の北は平成23年度調査の蒼海遺跡群（38）15区が近接する。調査区の西方で東流する牛池川が大きく流路を南方に変える。その屈曲部から東方約160m、標高は118m前後である。検出された遺構は古墳時代から奈良・平安時代にかけての竪穴住居跡23軒、竪穴状遺構６基、方形周溝墓１基、溝跡２条、土坑５基が検出されたほか、中世末から近世初頭に比定できる土壙墓１基等がある。出土した遺物は遺構に伴って土師器・須恵器等が出土したほか、縄文土器・石器、弥生式土器破片の出土があった。

特筆される遺構としては、５世紀の方形周溝墓があげられる。

2　基本層序

Ⅰ層　黒褐色土　現耕作土。砂質土。

Ⅱ層　黒褐色土　粒度の大きい砂質土。As-C、Hr-FP を混入。

Ⅲ層　黒褐色土　Ⅱ層より漸移的に変化する。砂の粒度は細かくなる。混入する As-C、Hr-FP は少なくなり、総社砂層起因の砂質土のブロックが混入し始める。

Ⅳ層　暗褐色土　Ⅲ層より漸移的に変化する。砂の粒度はさらに細かくなる。混入する As-C さらに少なくなる。

Ⅴ層　暗褐色土　総社砂層を起因とする。砂質土層。

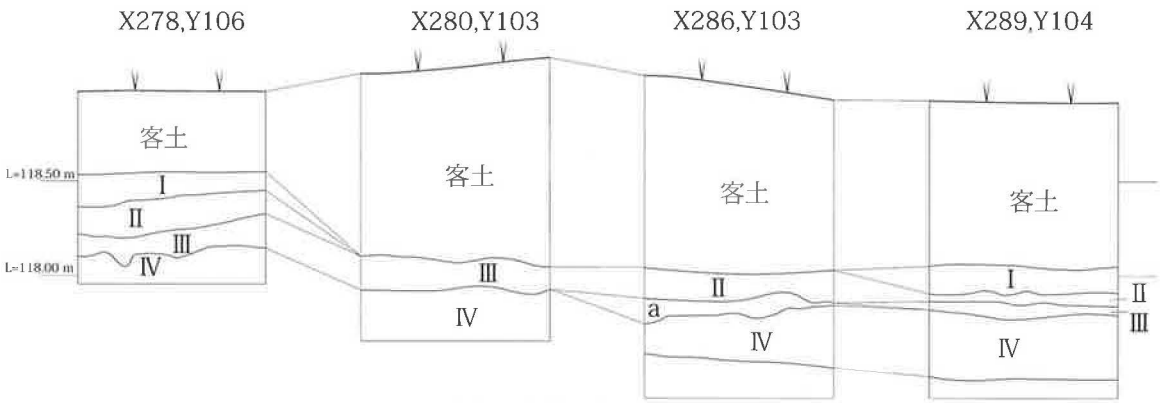


Fig. 4　元総社蒼海遺跡群（56）（61）基本層序

3　縄文時代の出土遺物

縄文時代は遺構の検出はないものの、当該期の遺物が出土している。

Ｊ１～Ｊ３は前期中葉・諸磯式土器の破片で、Ｊ１は細かい RL 縄文を斜位に施す。Ｊ２は斜位の刻みを施す浮線を横位に施す胴部破片。Ｊ３は大きく外反する口縁部破片で、平行沈線を横位に施す。頸部には、半裁竹管で連続して刺突する隆帯を横位に施す。Ｊ４からＪ８は中期前葉の土器片で、Ｊ４は RL 縄文を施された口縁部破片。Ｊ５は LR 縄文を施された浅鉢土器の破片。Ｊ６も浅鉢土器の口縁部破片で、口唇部下位には沈線を横位に一条廻らせる。Ｊ７は隆帯を沈線により区画し、その下位には鋭い沈線で三角形の区画を施す。Ｊ８は口縁部破片で肥厚する口縁部の下に沈線を横位に施し、竹管による連続刺突で逆「ハ」の字状の矢羽文様を施す。Ｊ９～Ｊ14はいずれも中期後葉・加曾利Ｅ式期の土器破片で、Ｊ９は沈線による横位区画内を RL 縄文で充填する。Ｊ10は

胴部破片で、垂下する蛇行沈線とLR縄文を施す。J11はRL縄文を斜位に施す胴部破片。J12は口縁部文様帯の破片で、隆帯区画内を縦位の沈線で充塡する。J13は垂下する平行沈線とRL縄文を施された胴部下位の破片。J14は緩い円弧を描き垂下する沈線内をLR縄文で充塡する、胴部下位の破片。

当該期の石器は、打製石斧1点4、石鏃1点が出土している。J15は短冊形の打製石斧で、刃部は欠損している。残存長7.3cm、最大幅4.4cm、厚さ1.4cm、重量は74gである。J16は凹基無茎の石鏃で、長2.1cm、幅1.3cm、厚さ0.2cm、重量0.5gである。

4　弥生時代の出土遺物

弥生時代も遺構の検出はないものの、当該期の壺型土器の破片が出土している。概ね、中期後半の土器の様相を呈する。

Y1・Y2はいずれも頸部から短く外反する壺型土器の口縁部の破片で、櫛歯状工具による平行沈線を横位に施し、そこから櫛歯状工具で平行沈線を垂下させる。Y3は壺型土器の頸部およびそこから外反する口縁部にかけての破片で、頸部には2本の沈線で横位の区画を作出し、その区画内は細い沈線による方形の区画文を描く。下部にはLRの細かい縄文を施す。補修孔が認められる。Y4は壺型土器の大きく外反する口縁部の破片で口唇部にはLR縄文を施す。補修孔も認められる。Y5は壺型土器の頸部破片で、下位はやや肥厚して櫛歯状工具による平行沈線を斜位の格子状に施す。Y6は壺型土器の頸部から胴部にかけての破片で、2条の沈線により横位の区画を作出し、区画内にはLR縄文を施す。Y7は壺型土器の胴部破片で、櫛歯状工具による平行沈線を斜位の格子状に施す。Y8・Y9は壺型土器の胴部上位から頸部にかかる部位の破片で櫛歯状工具による簾状文を横位に施し、その下位には三角形の区画を描く。Y10は口縁部下位から胴部中位にかけての破片で、頸部には2条の沈線による横位の区画作出し、区画内はやや肥厚してLR縄文で充塡する。胴部は櫛歯状の工具でナデ調整後ミガキを施す。

5　古墳時代～平安時代の遺構と遺物

(1)　竪穴住居跡

H－1号住居跡（Fig.6、PL.2）

位置　X275・276、Y104グリッド　**主軸方向**　N－86°－E　**形状等**　隅丸方形　東西(0.62)m、南北(1.680)m　壁現高　2cm　**面積**　(4.86)m²　**床面**　竈及びその前面のみの検出であるため、床面の詳細な状況はわからない。　**竈**　東壁の南寄り　主軸方向　N－87°－E　全長71cm、最大幅60cm　**壁周溝**　未検出　**重複**　H－2と重複し、本住居跡が新しい。　**出土遺物**　轆轤整形・高台椀、土師器・甑　**時期**　出土遺物から10世紀

H－2号住居跡（Fig.7、PL.2）

位置　X275・276、Y103～105グリッド　**主軸方向**　N－65°－E　**形状等**　隅丸方形　東西(3.96)m、南北3.9m　壁現高23.0cm　**面積**　(9.67)m²　**床面**　**竈・炉**　未検出。　**壁周溝**　未検出　**ピット**　P1　長軸34cm、短軸34cm、深さ10.5cm　**重複**　H－1と重複し、本住居跡が古い。　**出土遺物**　なし　**時期**　覆土の状況から5世紀台

H－3号住居跡（Fig.7、PL.2）

位置　X276・277、Y105・106グリッド　**主軸方向**　N－105°－E　**形状等**　隅丸方形　東西2.80m、南北3.72m　壁現高26cm　**面積**　[10.48m²]　**床面**　ほぼ平坦で、カマド前面に硬化面が確認できた。　**竈**　東壁中央南寄り　**壁周溝**　未検出　**ピット**　P1　長軸22cm、短軸20cm、深さ17.5cm　**重複**　なし　**出土遺物**　轆轤整形・高台椀・坏　**時期**　出土遺物から10世紀後半

Ｈ－４号住居跡（Fig.８、PL.２・３）

位置　X276～278、Y104・105グリッド　**主軸方向**　N－55°－E　**形状等**　東西に長いやや歪んだ隅丸長方形　東西4.5m、南北3.4m、壁現高49.5cm　**面積**　[13.85m²]　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　南東隅　主軸方向　N－94°－E　全長110cm、最大幅115cm、煙道部長45cm、煙道部幅23cm、燃焼部・焚口長84cm、焚口部幅53cm　**壁周溝**　未検出　**ピット**　Ｐ１　長軸32cm、短軸28cm、深さ35.5cm　**重複**　なし　**出土遺物**　土師器・坏・甕・甑、須恵器　**時期**　出土遺物から５世紀第４四半期　**備考**　焼失住居

Ｈ－５号住居跡（Fig.９、PL.３）

位置　X277・278、Y105・106グリッド　**主軸方向**　N－75°－E　**形状等**　隅丸長方形　東西3.78m　南北3.90m　壁現高39.0cm　**面積**　[14.37m²]　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　東壁中央やや南寄り　主軸方向　N－77°－E　全長115cm、最大幅78cm、煙道部54長cm、煙道部幅39cm、燃焼部・焚口長61cm　**壁周溝**　未検出　**重複**　Ｈ－７、Ｈ－８、Ｔ－１と重複し、Ｈ－７より古く、Ｔ－１より新しい。Ｈ－８とは直接の重複箇所がないために不明。　**出土遺物**　土師器片　**時期**　出土遺物および重複関係から６～７世紀

Ｈ－６号住居跡（欠番）

Ｈ－７号住居跡（Fig.９、PL.３）

位置　X277・278、Y105・106グリッド　**主軸方向**　N－102°－E　**形状等**　南北方向に長い隅丸長方形　東西3.86m、南北(4.36)m、壁現高51.0cm　**面積**　[14.35m²]　**床面**　硬質な総社砂層を掘り込み床面を構築。ほぼ平坦である。　**竈**　東壁中央南寄り　主軸方向　N－108°－E　全長95cm、最大幅78cm　**ピット**　Ｐ１　長軸34cm、短軸32cm、深さ27.5cm　Ｐ２　長軸28cm、短軸20cm、深さ21cm　Ｐ３　長軸30cm、短軸27cm、深さ24.0cm　Ｐ４　長軸52cm、短軸47cm、深さ32cm　**壁周溝**　未検出　**重複**　Ｈ－５、Ｈ－８、Ｔ－１と　**重複**　いずれよりも新しい。　**出土遺物**　轆轤整形・高台椀・坏　**時期**　出土遺物から９紀後半

Ｈ－８号住居跡（Fig.９、PL.３）

位置　X278、Y106グリッド　**主軸方向**　N－80°－E　**形状等**　隅丸長方形　東西(1.28)m、南北(2.9)m、壁現高23.0cm　**面積**　[1.15]m²　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　未検出　**壁周溝**　未検出　**重複**　Ｈ－７と重複し、Ｈ－７より古い。　**出土遺物**　なし　**時期**　重複関係から８世紀代

Ｈ－９号住居跡（Fig.10、PL.３）

位置　X278、Y103グリッド　**竈**　東壁（カマドのみの検出であるため壁の位置関係不明）　主軸方向　N－95°－E　全長82cm、最大幅44cm、焚口部幅30cm　**壁周溝**　なし　**出土遺物**　瓦　**時期**　出土遺物から10紀以降

Ｈ－10号住居跡（Fig.10、PL.４）

位置　X276、277、Y101・102グリッド　**主軸方向**　N－98°－E　**形状等**　隅丸方形　東西(1.0)m、南北3.0m、壁現高16.5cm　**面積**　(2.44)m²　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　東壁中央南寄り　全長108cm、最大幅72cm、煙道部長57cm、煙道部幅31cm、燃焼部・焚口長51cm、焚口部幅52cm　**壁周溝**　未検出　**重複**　Ｃ－１と重複し、Ｃ－１より新しい。　**出土遺物**　轆轤整形・坏　**時期**　出土遺物から11世紀

Ｈ－11号住居跡（蒼海遺跡群（56）Ｈ－１）（Fig.10・11、PL.４）

位置　Ｘ288・289、Ｙ100～102グリッド　**主軸方向**　Ｎ－68°－Ｅ　**形状等**　南北にやや長い隅丸方形　東西4.44ｍ、南北4.70ｍ、壁現高37cm　**面積**　(17.52)㎡　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　東壁中央やや南寄り　主軸方向　Ｎ－72°－Ｅ　全長108cm、最大幅88cm、煙道部長18cm、煙道部幅20cm、燃焼部・焚口長90cm、焚口部幅20cm、燃焼部幅33cm　**ピット**　Ｐ１　長軸52cm、短軸42cm、深さ40.5cm　**貯蔵穴**　Ｐ２　長軸54cm、短軸50cm、深さ８cm　**壁周溝**　未検出　**重複**　Ｈ－12と重複し、Ｈ－12より新しい。　**出土遺物**　土師器・坏・高坏・台付甕、須恵器・坏　**時期**　出土遺物から６世紀第１四半期

Ｈ－12号住居跡（蒼海遺跡群（56）Ｈ－３）（Fig.11、PL.４）

位置　Ｘ288～290、Ｙ100～102グリッド　**主軸方向**　Ｎ－67°－Ｅ　**形状等**　隅丸長方形　東西5.50ｍ、南北(4.70)ｍ　壁現高16.5cm　**面積**　(12.22)㎡　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　東壁南寄り　主軸方向　Ｎ－95°－Ｅ　全長62cm、最大幅86cm、煙道部長19cm、煙道部幅25cm、燃焼部・焚口長43cm、焚口部幅33cm　**壁周溝**　未検出　**ピット**　Ｐ１　長軸42cm、短軸30cm、深さ23.5cm　Ｐ２　長軸22cm、短軸20cm、深さ23.5cm　Ｐ３　長軸42cm、短軸25cm、深さ21.0cm　Ｐ４　長軸36cm、短軸31cm、深さ25.5cm　Ｐ５　長軸42cm、短軸38cm、深さ43cm　Ｐ６　長軸74cm、短軸66cm、深さ73cm　**入口施設**　南壁中央東より　**重複**　Ｈ－11と重複し、Ｈ－11より古い。　**出土遺物**　土師器・坏・甕　**時期**　出土遺物および重複関係から５世紀第４四半期　**備考**　南壁中央東よりに入り口施設あり

Ｈ－13号住居跡（Fig.12　PL.４）

位置　Ｘ287・288、Ｙ101～103グリッド　**主軸方向**　Ｎ－77°－Ｅ　**形状等**　隅丸長方形　東西4.30ｍ、南北(4.64)ｍ　壁現高68.5cm　**面積**　(13.82)㎡　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　東壁　主軸方向　Ｎ－76°－Ｅ　全長116cm、最大幅99cm、煙道部長33cm、煙道部幅35cm、燃焼部長38cm、焚口45cm、焚口部幅39cm、燃焼部幅47cm　**壁周溝**　南・東・西壁　**ピット**　Ｐ１　長軸26cm、短軸23cm、深さ22.5cm　Ｐ２　長軸22cm、短軸22cm、深さ25.5cm　Ｐ３　長軸24cm、短軸20cm、深さ33.5cm　**貯蔵穴**　Ｐ４　長軸96.0cm、短軸88.0cm、深さ65.5cm　**重複**　Ｈ－14と重複し、Ｈ－14より新しい。　**出土遺物**　土師器・坏・台付甕・甕、滑石製紡錘車　**時期**　出土遺物および重複関係から６世紀第四半期

Ｈ－14号住居跡（Fig.13、PL.４）

位置　Ｘ288・289、Ｙ102・103グリッド　**主軸方向**　Ｎ－75°－Ｅ　**形状等**　隅丸方形　東西4.64ｍ、南北4.7ｍ、壁現高47cm　**面積**　[17.92]㎡　**床面**　ほぼ平坦で、中央部・主柱穴で囲まれた範囲には硬化面は確認できた。　**炉・竈**　未検出　**壁周溝**　北・東・西壁　**ピット**　Ｐ１　長軸25cm、短軸20cm、深さ30.5cm　Ｐ２　長軸40cm、短軸34cm、深さ57.0cm　Ｐ３　長軸39cm、短軸32cm、深さ39.5cm　Ｐ４　長軸20cm、短軸17cm、深さ44.0cm　Ｐ６　長軸25cm、短軸20cm、深さ22.0cm　Ｐ７　長軸25cm、短軸20cm、深さ27.5cm　**貯蔵穴**　Ｐ５　長軸54cm、短軸45cm、深さ34cm　**重複**　Ｈ－13、Ｈ－15と重複し、いずれより古い。　**出土遺物**　土師器・坏・高坏　**時期**　出土遺物および重複関係から５世紀第２四半期

Ｈ－15号住居跡（Fig.13、P.４）

位置　Ｘ289・290、Ｙ102・103グリッド　**主軸方向**　Ｎ－69°－Ｅ　**形状等**　北壁がやや歪んだ方形　東西(4.90)ｍ、南北4.6ｍ、壁現高43.0cm　**面積**　(15.97)㎡　**床面**　ほぼ平坦で、南部に硬化面は確認できた。　**炉・竈**　未検出　**壁周溝**　西・南壁　**ピット**　Ｐ１　長軸30cm、短軸25cm、深さ20.5cm　**重複**　Ｈ－14、Ｉ－１と重複し、

H—14より新しく、I—1より古い。 **出土遺物** 土師器・甑 **時期** 出土遺物および重複関係から6世紀代

H—16号住居跡（Fig.14、PL.4）

位置 X288・289、Y104グリッド **主軸方向** N—86°—E **形状等** 隅丸方形 東西3.40m、南北(1.68)m、壁現高34.5cm **面積** (4.99)m² **床面** ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。床下土坑あり。 **炉・竈** 未検出 **壁周溝** なし **重複** なし **出土遺物** 土師器片 **時期** 不明

H—17号住居跡（蒼海遺跡群（56）H—2）（Fig.14）

位置 X290、Y101グリッド **主軸方向** N—82°—E **形状等** 角丸方形 東西(0.34)m、南北(1.20)m 壁現高7.0cm **面積** (0.22)m² **床面** ほぼ平坦で、中央部から南東部にかけて硬化面あり。 **竈** 調査区外に存在するものと思われる。 **壁周溝** なし **重複** なし。 **出土遺物** 土師器片 **時期** 不明

H—18号住居跡（Fig.14、PL.5）

位置 X285～287、Y103・104グリッド **主軸方向** N—73°—E **形状等** 角丸方形 東西(6.90)m、南北(5.32)m、壁現高36cm **面積** (14.15)m² **床面** ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 **竈** 北壁中央やや西寄りから東壁に作り替えしたものと思われる。(土層状況から) 主軸方向 N—16°—W **ピット** P1 長軸38cm、短軸36cm、深さ38cm **貯蔵穴** 未検出 **壁周溝** 北・東壁 **重複** H—19と重複しH—19より古い **出土遺物** 土師器・坏・壺 **時期** 出土遺物から5世紀後半

H—19号住居跡（Fig.15、PL.5）

位置 X285・286、Y103グリッド **主軸方向** N—93°—E **形状等** 角丸方形 東西2.86m、南北(1.42)m 壁現高7.5cm **面積** (3.63)m² **床面** ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 **竈** 東壁 主軸方向 N—88°—E 全長140cm、最大幅32cm **壁周溝** 未検出 **ピット** P1 長軸52cm、短軸51cm、深さ28 **重複** H—18と重複し、H—18より新しい。 **出土遺物** なし **時期** 形状および重複関係より10世紀代

H—20号住居跡（Fig.15、PL.5）

位置 X283・284、Y103グリッド **主軸方向** N—57°—E **形状等** 角丸長方形 東西(2.16)m 南北(2.08)m 壁現高50cm **面積** (2.86)m² **床面** ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 **壁周溝** 東・西・北・南壁 **重複** H—21と重複し、本住居跡が古い。 **出土遺物** なし **時期** 重複関係から5世紀第3四半期以前

H—21号住居跡（Fig.15・16、PL.5）

位置 X282・283、Y103グリッド **主軸方向** N—72°—E **形状等** 角丸長方形 東西(6.36)m、南北(4.34)m、壁現高49cm **面積** (14.40)m² **床面** ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 **竈** 東壁中央南寄り 主軸方向 N—74°—E 全長135cm、最大幅(96)cm、煙道部長17cm、煙道部幅33cm、燃焼部・焚口長118cm、焚口部幅45cm、燃焼部幅50cm **貯蔵穴** P1 長軸74cm、短軸58cm、深さ57cm **壁周溝** 未検出。 **重複** H—20と重複し、本住居跡が新しい **出土遺物** 土師器・坏・壺・甕・甑 **時期** 出土遺物から6世紀第2四半期

H—22号住居跡（Fig.16、PL.5）

位置 X279・280、Y103グリッド **主軸方向** N—65°—E **形状等** 角丸方形 東西(4.76)m 南北(2.40)m 壁現高51.0cm **面積** (5.49)m² **床面** ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 **竈** 未検出。 **壁周**

溝　なし　**重複**　なし　**出土遺物**　土師器・坏　**時期**　出土遺物から５世紀第２四半期

Ｈ－23号住居跡（Fig.17、PL.５）

位置　X276.277　Y96～98グリッド　**主軸方向**　N－87°－E　**形状等**　角丸方形　東西2.36m、南北3.24m、壁現高21.0cm　**面積**　(7.01)㎡　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　東壁中央　主軸方向　N－85°－E　全長64cm、最大幅47cm　**重複**　H－24と重複し、H－24より新しい。　**出土遺物**　土師器片　**時期**　重複関係から５世紀第４四半期以降

Ｈ－24号住居跡（Fig.17、PL.５）

位置　X39～41、Y142～144グリッド　**主軸方向**　N－57°－E　**形状等**　角丸方形　東西4.24m、南北4.32m、壁現高47.5cm　**面積**　17.42㎡　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　南壁中央西寄り主軸方向　N－153°－E　全長77cm、最大幅73cm　**重複**　H－24ｂ　H－24ｃと重複し、いずれより新しい。　**出土遺物**　土師器・高坏　**時期**　出土遺物から５世紀第３四半期

(2)　方形周溝墓

Ｃ－１号方形周溝墓（Fig.17、PL.６）

位置　X276･277　Y100～102グリッド　**主軸方向**　N－62°－E　**形状等**　角丸方形　東西(5.06)m、南北7.8m　最大上幅106cm、最大下幅66cm　壁現高57.5cm　**重複**　H－10、W－１と重複し、いずれより古い。　**出土遺物**　土師器・坩　**時期**　出土遺物から５世紀第２四半期

(3)　溝跡・竪穴状遺構・土坑・ピット

Ｗ－１号溝跡（Fig.18、PL.６）

位置　X275～277、Y100～106グリッド　**形状等**　最大上幅72cm　最大下幅56.0cm　深さ26.5cm　断面底部に狭い平坦面をもつU字状を呈する。　**時期**　不明

Ｗ－２号溝跡（Fig.18、PL.６・７）

位置　X276～278、Y94・95グリッド　**形状等**　最大上幅320cm　最大下幅280cm　深さ28.5cm　断面形箱状を呈する。　**時期**　出土遺物の出土状況から５世紀代　**備考**　覆土上層に遺物包含層がありその出土遺物は５世紀第１四半期から世紀代のものが混在する。

Ｔ－１号竪穴状遺構（Fig.19、PL.７）

位置　X278、Y105グリッド　**主軸方向**　N－80°－E　**形状等**　隅丸方形　東西2.20m、南北2.18m、壁現高53cm　**面積**　[4.42㎡]　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**出土遺物**　土師器・坏・壺　**時期**　出土遺物から５世紀後半

Ｔ－２号竪穴状遺構（Fig.19、PL.７）

位置　X279、Y104グリッド　**主軸方向**　N－69°－E　**形状等**　隅丸方形　東西(2.1)m、南北(1.06)m、壁現高70.5cm　**面積**　[2.01㎡]　**床面**　ほぼ平坦である　**出土遺物**　土師器・壺　**時期**　不明

Ｔ－３号竪穴状遺構（Fig.19、PL.７）

位置　Ｘ279、Ｙ104グリッド　**主軸方向**　Ｎ－70°－Ｅ　**形状等**　隅丸方形　東西1.7m、南北(2.06)m、壁現高70.5cm　**面積**　[2.04m²]　**床面**　ほぼ平坦である　**出土遺物**　須恵器片、土師器片　**時期**　不明

出土遺物　土師器片　**時期**　**不明**

Ｔ－４号竪穴状遺構（Fig.19、PL.７）

位置　Ｘ279、Ｙ104グリッド　**主軸方向**　Ｎ－71°－Ｅ　**形状等**　隅丸方形　東西(2.36)m、南北1.66m、壁現高95cm　**面積**　(3.12)m²　**床面**　ほぼ平坦である　**出土遺物**　土師器片　**時期**　不明

Ｔ－５号竪穴状遺構（Fig.19、PL.７）

位置　Ｘ277・278、Ｙ101・102グリッド　**主軸方向**　Ｎ－67°－Ｅ　**形状等**　隅丸方形　東西(1.80)m、南北2.14m、壁現高58.5cm　**面積**　(2.62)m²　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**出土遺物**　土師器片　**時期**　不明

Ｔ－６号竪穴状遺構（Fig.19、PL.７）

位置　Ｘ280・281、Ｙ103グリッド　**主軸方向**　Ｎ－66°－Ｅ　**形状等**　隅丸方形　東西(1.80)m、南北(0.94)m、壁現高36.0cm　**面積**　(0.80)m²　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**出土遺物**　土師器片　**時期**　不明

Ｄ－１号土坑（Fig.20、PL.７）

位置　Ｘ276、Ｙ106グリッド　**形状等**　楕円形　長軸長106cm、単軸幅98cm、深さ30.0cm　**出土遺物**　なし　**時期**　不明

Ｄ－２号土坑（Fig.20、PL.７）

位置　Ｘ278、Ｙ105グリッド　**形状等**　円形　長軸長104cm、単軸幅100cm、深さ22cm　**出土遺物**　なし　**時期**　不明

Ｄ－３号土坑（Fig.20、PL.７）

位置　Ｘ276・277、Ｙ103・104グリッド　**形状等**　楕円形　長軸長160cm、単軸幅154cm、深さ83.5cm　**出土遺物**　なし　**時期**　不明　**備考**　底面は粒度の大きい砂礫層である。製作途中で放棄された未完成の井戸か。

Ｄ－４号土坑（Fig.20）

位置　Ｘ277・278、Ｙ104グリッド　**形状等**　楕円形　長軸長65cm、単軸幅(20)cm、深さ12cm　**出土遺物**　なし　**時期**　不明

Ｄ－６号土坑（Fig.20、PL.８）

位置　Ｘ280、Ｙ103グリッド　**形状等**　楕円形　長軸長73cm、単軸幅69cm、深さ27.5cm　**出土遺物**　人頭大の礫　**時期**　不明

6　中近世の遺構と遺物

D－5号土坑（Fig.20、PL.8）

位置　X284、Y103グリッド　**主軸方向**　N－92°－E　**形状等**　楕円形　長軸長80cm、単軸幅70cm、深さ65.0cm　**出土遺物**　人骨・銭貨(「開元通寶」・「永楽通寶」（2枚）・「洪武通寶」・「太平通寶」・「＊＊元寶」・(無文線1枚))　**時期**　中世末

I－1号井戸跡（Fig.20、PL.8）

位置　X289・290、　Y102・103グリッド　**形状等**　円形　長軸長2.9m　単軸幅2.7m　深さ(170)cm　ロート状に開口し、ほぼ垂直に掘り込まれる。　**重複**　H－15と重複しH－15より新しい　**出土遺物**　常滑焼・甕破片　**時期**　出土遺物からは中世以降

Tab. 2　住居跡等一覧表

遺構名	位置	規模（m）			面積（m²）	主軸方向	竈		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	壁現高（cm）			位　置	構築材		土師器	須恵器	その他
H－1	X275・276 Y104	(0.62)	(1.68)	2	(4.86)	N－86°－E	東壁南寄り		×	○	○	
H－2	X275.・276 Y103～105	(3.96)	3.90	23	(9.67)	N－65°－E	—		×			
H－3	X276・277 Y105・106	2.8	3.72	26	[10.48]	N－105°－E	東壁南寄り 天井石・支脚あり		×	○	○	
H－4	X276～278 Y104・105	4.5	3.4	49.5	[13.85]	N－55°－E	東南角	粘土	×	○	○	
H－5	X277・278 Y105・106	3.78	3.9	39	[14.37]	N－75°－E	東壁南寄り	粘土	×			
H－7	X277・278 Y105・106	3.86	(4.36)	51	[14.35]	N－102°－E	東壁南寄り		×	○	○	
H－8	X278 Y106	(1.28)	(2.9)	23	[1.15]	N－80°－E	—		×			
H－9	X278 Y103	不明	不明	不明	不明	N－95°－E	東壁支脚あり		×	○		瓦
H－10	X276・277 Y101・102	(1.0)	3.0	16.5	(2.44)	N－98°－E	東壁南寄り 右袖石・支脚あり		×		○	
H－11	X288・289 Y100～102	4.44	4.7	37	(17.52)	N－68°－E	—		×			
H－12	X288～290 Y100～102	5.5	(4.7)	16.5	(12.22)	N－67°－E	東壁南寄り 両袖石あり		×			
H－13	X287・288 Y101～103	4.3	(4.64)	68.5	(13.82)	N－77°－E	東壁南寄り 両袖石あり支脚あり		○			
H－14	X288・289 Y102・103	4.64	4.7	47	[17.92]	N－75°－E	—		○			
H－15	X289・290 Y102・103	(4.9)	4.6	43	(15.97)	N－69°－E	—		○			
H－16	X288・289 Y104	3.4	(1.68)	34.5	(4.99)	N－86°－E	—		×			
H－17	X290 Y101	(0.34)	(1.2)	7	(0.22)	N－82°－E	—		×			
H－18	X285～287 Y103・104	(6.9)	(5.32)	36	(14.15)	N－73°－E	不明		○			
H－19	X285・286 Y103	2.86	(1.42)	7.5	(3.63)	N－93°－E	東壁南寄り		×			
H－20	X283・284 Y103	(2.16)	(2.08)	50	(2.86)	N－57°－E	—		×			
H－21	X282・283 Y103	(6.36)	(4.34)	49	(14.40)	N－72°－E	東壁南寄り 両袖石あり天井石あり	粘土	×			
H－22	X279・280 Y103	(4.76)	(2.4)	51	(5.49)	N－65°－E	—		×			
H－23	X276・277 Y96～98	不明	不明	不明	不明	N－0°－E						
H－24	X276・277 Y96～98	不明	不明	不明	不明	N－15°－W						
T－1	X287 Y105	2.2	2.18	53.0	[4.42]	N－80°－E						
T－2	X279 Y104	(2.1)	(1.06)	70.5	[2.01]	N－69°－E						
T－3	X279 Y104	1.70	(2.06)	70.5	[2.04]	N－70°－E						
T－4	X279 Y104	(2.36)	1.66	95.0	(3.12)	N－71°－E						
T－5	X277・278 Y101・102	(1.8)	2.14	58.5	(2.62)	N－67°－E						
T－6	X280・281 Y103	(1.8)	(0.94)	36.0	(0.80)	N－66°－E						

Tab. 3　土坑・井戸跡等計測表

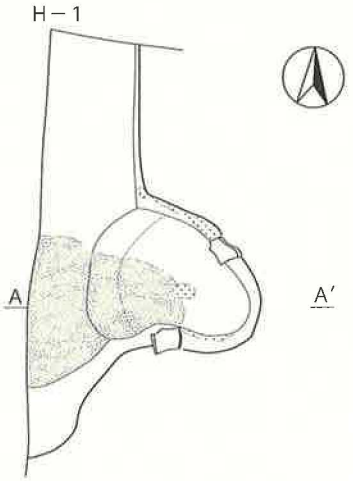
遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備考
D－1	X276, Y106	106	98	30.0	円形		
D－2	X278, Y105	104	100	22.0	円形		
D－3	X276・277, Y103・104	160	154	83.5	円形		
D－4	X277・278, Y104	65	20	12.0	(円形)		
D－5	X284, Y103	80	70	65.0	正方形		
D－6	X280, Y103	73	69	27.5	円形		
I－1	X289・290, Y106・107	290	270	未完堀	不整形		

Tab. 4　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
1	H－1	須恵器 高台椀	①—　②[2.9] ③—	①中粒　②良好 ③10YR8/4浅黄橙　④—	轆轤整形。底部静止糸切り離し後高台。貼り付け。	覆土	
2	H－1	土師器 甕	①—　②(8.3) ③—	①粗粒　②良好 ③7.5YR6/3にぶい褐 ④破片	胴部下位外面縦位ヘラケズリ。その上位はヨコナデ。内面ヨコナデ。	竈1	
3	H－1	土師器 甕	①—　②— ③—	①中粒　②良好 ③5YR6/1橙　④破片	口縁部から胴部上位の破片。口縁部内外面ともヨコナデ。胴部外面斜縦位のヘラケズリ。内面ヘラナデ。	竈2	
4	H－3	土師器 杯	①9.4　②2.4 ③	①中粒　②良好 ③7.5YR7/6橙　④完形	轆轤整形。回転ヘラ切り離し後無調整。底部から円湾気味に立ち上り口唇部はやや外傾する。	2	
5	H－3	須恵器 杯	①[9.6]　②2.5 ③1/4	①中粒　②良好 ③5YR4/6赤褐　④1/4	轆轤整形。回転ヘラ切り離し後無調整。底部から丸みを帯びて立ち上り、口縁部は内湾気味。	覆土	
6	H－3	須恵 高台椀	①12.1　②5.1 ③	①中粒　②良好 ③5YR6/6橙　④ほぼ完形	轆轤整形。底部切り離し後高台貼り付け。体部は内湾して立ち上がる。	3	
7	H－7	土師器 杯	①10.7　②3.4 ③	①中粒　②良好 ③10YR7/4にぶい黄橙 ④ほぼ完形	轆轤形成。無調整回転糸切り離し後、体部内湾気味で立ち上り。	H－5竈・ H－7覆土	
8	H－7	須恵 高台椀	①[11]　②4.6 ③—	①中粒　②良好 ③7.5YR2/1赤黒　④2/3	轆轤整形。底部回転糸切り離し後貼り付け。高台部は外反する。体部は外湾気味に立ち上る。	覆土	
9	H－7	土師高 台椀	①15.6　②7.4 ③—	①粗粒　②良好 ③5YR5/6明赤褐　④2/3	轆轤整形。底部切り離し後、高台貼り付け。体部は、口唇部で外反する。	竈2	
10	H－7	土師器 杯	①12.2　②3.8 ③—	①細粒　②良好 ③7.5YR7/3にぶい橙 ④1/3	轆轤整形。底部回転糸切り離し後一部ヘラ調整。底部から内湾気味に立ち上がる。口唇部は外反気味。	1	
11	H－7	須恵器 杯	①[10.7]　②3.8 ③—	①中粒　②良好 ③7.5YR4/7褐灰　④1/4	轆轤整形。底部、回転糸切り離し後無調整。底部から内湾気味上がり。口唇部は小さく外反する。	竈3	
12	H－9	平瓦	①—　②— ③1.8	①細粒　②良好 ③10YR8/1灰白　④—		竈2	
13	H－10	須恵器 杯	①[9]　②1.7 ③—	①中粒　②良好 ③7.5YR6/6橙　④4/1	轆轤整形。底部回転糸切り離し後無調整。やや上げ底気味。底部から、内湾にして立ち上がり口唇部で外反気味。	竈覆土	
14	H－11	須恵器 身杯	①12　②(3.5) ③—	①中粒　②良好 ③2.5YR5/1黄灰　④1/4	体部外面ヘラケズリ調整。口縁部欠損。丸底。	掘り方	
15	H－11	土師器 杯	①[13.6]　②(4.8) ③—	①粗粒　②良好 ③5YR5/6明赤褐　④1/3	体部内湾気味に立ち上り内斜口縁。底部丸底。体部外部ヘラ削り。体部内面ナデ調整。	掘り方	
16	H－11	土師高 杯	①19　②(7) ③—	①粗粒　②良好 ③5YR6/8橙　④—	杯部は稜線をもち外反して開く。口縁部内外面ともヨコナデ。脚部欠損。	2・3・4	
17	H－11	土師器 高杯	①—　②— ③—	①中粒　②良好 ③2.5YR6/6橙　④—	脚部内面ヨコナデ。杯部外面ヘラケズリ。内面には、ヘラミガキが認められる。	床下覆土	
18	H11	土師器 高杯	①—　②(5.4) ③—	①粗粒　②良好 ③5YR6/8橙　④—	脚部内外面ヨコナデ。体部外面斜位のヘラケズリ。内面ヨコナデ調整後ヘラミガキを施す。	覆土	
19	H－4	土師器 杯	①12.7　②5.5 ③	①中粒　②良好 ③5YR6/8橙　④8/9	体部内湾して立ち上がる。底部丸底。体部外面ヘラケズリ。体部内面ナデ調整。放射線状アンモンを密接して施す。口縁部内外面ヨコナデ。	5	
20	H－4	土師器 杯	①11.4　②6.6 ③	①中粒　②良好 ③2.5YR5/6明赤褐 ④7/8	体部内湾して立ち上がり。底部丸底。体部外面ヘラケズリ。体部内面調整。放射線状アンモン密接して施す。口縁部内外面ヨコナデ。	竈5・H－4覆土	
21	H－4	土師杯	①12.3　②5.4 ③	①中粒　②良好 ③2.5YR 明赤褐 ④ほぼ完形	体部内湾して立ち上がり。底部丸底。体部外面ヘラケズリ。体部内面ナデ調整。放射線状アンモンを密接して施す。口縁部内外面ヨコナデ。	14・覆土	
22	H－4	土師器 杯	①13.5　②5.2 ③	①中粒　②良好 ③5YR6/8橙　④完形	体部は内湾して立ち上がり。底部丸底。体部外面ヘラケズリ。体部内面ナデ調整。放射線状アンモンを密接に施す。	竈3	
23	H－4	土師器 壺	①—　②(10.0) ③	①粗粒　②良好 ③2.5YR3/1黒褐　④—	底部から胴下部のみ。胴下部外面縦位のヘラケズリ。その上部は横位ヘラケズリ。内面ヘラナデ。底部はやや上げ底気味。	1・6・8・ 覆土	
24	H－4	土師器 甕	①15.1　②29.4 ③	①中粒　②良好 ③5YR6/8にぶい橙～1/4 褐灰　④4/5	口縁部は短く外反気味に開く。口縁内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ後ミガキを施す。内面ヘラナデ。底部は平底。粘土付着。	竈6	
25	H－4	土師器 甕	①15.2　②(26.0) ③	①中粒　②良好 ③5YR7/4にぶい橙～5/2 灰褐　④1/2	口縁は、外反気味に開きヨコナデ調整。胴部外面斜位のヘラケズリ後下位にはミガキを施す。内面は横位のヘラナデ。底部は欠損。	3・9・10・ 13・覆土	
26	H－4	土師器 甕	①15.4　②26.2 ③	①中粒　②良好 ③5YR7/6橙　④9/10	口縁部外反気味に開く。内外面ヨコナデ。胴部外面斜位ヘラ削り調整。内面ヘラナデ。底部平底。粘土付着。	竈4	
27	H－4	土師器 甕	①—　②(32.5) ③	①中粒　②良好 ③5YR6/3にぶい褐～1/4 褐灰　④1/2	口縁部は直立して立ち上り、口唇部にかけて外反する。内外面ヨコナデ。胴部は中位で、最大径をもち外面は斜位のヘラケズリ後上位にはヘラミガキを施す。内面ヘラナデ。底部はやや肉厚な平底。	竈2	
28	H－4	土師器 甕	①22.9　②28.6 ③9.2	①中粒　②良好 ③5YR6/4にぶい橙 ④口縁部一部欠損	口縁部外反気味に開く。内外面ともヨコナデ。胴上位外は面縦位のヘラケズリ。内面はヘラナデ。	竈1	
29	H－12	土師器 杯	①[9.6]　②(4.5) ③—	①中粒　②良好 ③5YR5/8明赤褐　④1/3	口縁部と体部との境に稜を有し外傾して立ち上がる。口縁部、内外面ヨコナデ。体部、外面ヘラ削り調整、内部ヨコナデ。底部丸底。	竈掘り方	
30	H－12	土師器 杯	①[14.0]　②(5.0) ③—	①粗粒　②良好 ③5YR5/6明赤褐　④—	口縁部と体部との境に稜を有し外傾にして立ち上がる。口縁部、内外面ヨコナデ。体部、外面ヘラ削り。内部横撫で。底部丸底。	覆土	
31	H－12	土師甕	①(20.0)　②(8.9) ③—	①中粒　②良好 ③7.5YR7/4にぶい橙④—	口縁部より胴体上部。口縁部内外面ともヨコナデ。胴部上位縦位ヘラケズリ。内面ヘラナデ。	6・7	
32	H－12	土製円 版	①3.1　②3.1 ③0.6	①中粒　②良好 ③7.5YR6/4にぶい橙 ④完形		覆土	
33	H－13	土師器 杯	①[14]　②(4.4) ③	①中粒　②良好 ③5YR5/8明赤褐　④1/3	体部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。体部から内湾して立ち上がり口縁部は、内斜口縁。底部丸底。	覆土	
34	H－13	土師器 杯	①13.5　②— ③—	①中粒　②良好 ③2.5YR5/6明赤褐　④—	体部、外面ヘラケズリ。内面ヨケナデ。体部から内湾し、口縁部は内斜口縁。底部欠損。	覆土	
35	H－13	土師器 高杯	①—　②[4.3] — ③—	①中粒　②良好 ③5YR6/6橙　④脚部1/2	脚部内外面ヨコナデ。	覆土	
36	H－13	土師器 杯	①—　②— ③—	①中粒　②良好 ③5YR6/8橙　④—	体部、外面ヘラケズリ。内面ヨケナデ。口縁部内外面ヨコナデ。口縁部直立気味に外傾する。底部欠損。	覆土	
37	H－13	土師器 杯	①[15.8]　②(4.1) ③—	①中粒　②良好 ③2.5YR6/8橙　④破片	体部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ後放射線状にアンモンを施す。	覆土	

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
38	H－13	土師器 甕	①[15]　②(22.5) ③—	①粗粒　②良好 ③10YR8/3浅黄橙　④1/2	口縁部は外反気味に開く。内外面ヨコナデ。胴上部から胴部中位、外面縦位のヘラ削り後縦位のミガキを施す。内面は横位のヘラナデ。胴部下位内面斜位のヘラナデ。	貯覆土	
39	H－13	土師器 甕	①[17.4]　②(7.6) ③—	①中粒　②良好 ③7.5YR7/4にぶい橙～5/2灰褐　④破片	胴部外面ヘラナデ。内面輪積痕が残りヘラナデ。口縁部折り返し内外面ヨコナデで外反気味に開く。	竈1	
40	H－13	紡錘車	①3.1　②3.1 ③1.3	①—　②— ③—　④完形		1	
41	H－14	土師器 杯	①[13]　②(4.9) ③—	①粗流　②良好 ③5YR6/6橙　④2/3	体部は内湾して立ち上がり、口縁部は内斜口縁。底部丸底。体部外面ヘラケズリ。内外面ナデ調整。放射線状にアンモンを密接に施す。	3・覆土	
42	H－14	土師器 杯	①—　②4.3 ③	①粗粒　②良好 ③5YR5/6明赤褐　④1/4	体部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ後ヘラミガキを施す。体部から内湾し立ち上り口縁は内斜する。底部は欠損。	覆土	
43	H－14	土師高 杯	①[19]　②(6.8) ③—	①中粒　②良好 ③5YR5/8明赤褐 ④上台1/6	杯部内外面ヨコナデ。内部にヘラミガキが施されている。口縁部と体部との境に稜を有し、口縁部は外反する。	6	
44	H－14	須恵器 杯	①12.1　②—4.3 ③5.4	①中粒　②良好 ③7.5YR8/4浅黄橙 ④完形	轆轤整形。底部切り離し方法不明。体部は内湾気味に立ち上る。	1	
45	H－15	土師器 甑	①—　②(10.4) ③—	①粗粒　②良好 ③10YR7/4にぶい黄橙 ④—	体部、外面、縦位ヘラケズリ。内面ヘラナデ。	覆土	
46	H－18	土師器 杯	①—　②— ③—	①粗粒　②良好 ③5YR8/8橙　④—	体部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデで内湾して立ち上がる。体部と口縁部との境に稜を有し口縁部内外面ヨコナデ。口唇部欠損。底部丸底。	覆土	
47	H－18	土師器 杯	①[11.6]　②(4.5) ③—	①粗粒　②良好 ③5YR4/8赤褐　④1/4	体部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。体部から内湾して立ち上がり口縁は内斜口縁。	1	
48	H－18	土師器 杯	①[14]　②3.9 ③—	①粗粒　②良好 ③5YR5/6明赤褐　④1/4	体部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。体部から内湾して立ち上がり口縁は内斜口縁。底部丸底。	2	
49	H－18	土師器 壺	①[13]　②— ③	①中粒　②良好 ③5YR6/8橙　④—	口縁部外面縦位ナデの後、口唇部と頸部ヨコナデ。内部ヨコナデ。口縁部は外傾。	5・覆土	
50	H－21	土師器 杯	①[12]　②(5.2) ③—	①粗粒　②良好 ③5YR6/8橙　④1/2	体部、外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。内湾して立ち上り体部と口縁との境に稜を有し口縁内外面ヨコナデ。口縁部は直立して立ち上り口唇部で外反する。	1	
51	H－21	土師器 杯	①12.7　②5.4 ③—	①中粒　②良好 ③5YR6/8橙　④ほぼ完形	体部と口縁部との境に稜線を持つ。底部丸底。体部外面ヘラ削り調整。口縁部はほぼ直立し内外面ヨコナデ。	5	
52	H－21	土師器 杯	①[12.2]　②5.1 ③—	①中粒　②良好 ③5YR6/8橙　④1/2	体部と口縁部との境に稜線を持つ。底部は丸底。体部ハヘラ削り。口縁部は内外面ともヨコナデ。口縁部は直立し、口唇部で小さく外反する。	貯	
53	H－21	土師器 甕	①29　②(8.3) ③—	①中粒　②良好 ③10YR7/4にぶい黄橙 ④—	口縁部は外反して開き段を有する。内外面は横ナデ。胴上部は内外面横位のヘラナデ。	3	
54	H－21	土師器 壺	①—　②(5.2) ③—	①粗粒　②良好 ③7.5YR7/6から2.5YR4/4にぶい赤褐　④底部1/2	胴部内面ヘラナデ、ヘラケズリ。底部上げ底気味の平底。	貯	
55	H－21	土師器 甑	①[22.6]　②(16) ③—	①粗粒　②良好 ③10YR8/2灰白～4/1褐灰 ④口縁部1/5	口縁部外面ヘラ調整後ヨコナデ。内面ヨコナデ。口縁部は胴部上位より外反して立ち上がる。胴部外面縦位ヘラケズリ。内面ヘラナデ。	2	
56	H－22	土師器 杯	①[12]　②4.9 ③—	①粗粒　②良好 ③5YR5/6明赤褐　④1/4	体部外面ヘラケズリ。内面ヘラミガキを施し、体部から内湾し口縁部に至る。底部丸底。	覆上	
57	H－22	土師器 甕	①—　②— ③—	①粗粒　②良好 ③7.5YR7/4にぶい橙 ④—	胴部外部縦位ヘラケズリ。内部ヘラナデ。口縁部は胴部から直線的に立ち上がりやや外反する。	1	
58	H－24	土師器 高杯	①12　②11.9 ③—	①中粒　②良好 ③5YR6/6にぶい橙 ④ほぼ完形	杯部は口縁にかけてふくらみをもって内湾して立ち上がり、口唇部直立気味ヘラミガキを内外面に施す。脚部は大きく外反して開き脚円孔を穿つヘラミガキを外面に施す。	1	
59	方形	土師器 坩	①8.8　②10.1 ③—	①中粒　②良好 ③7.5YR7/4にぶい橙 ④ほぼ完形	胴部は丸味を帯び、口縁部は内湾気味に立ち上る。底部は平底。胴部外面ヘラケズリ。口縁部内外面はヘラナデ’調整後外面ミガキを施し、口縁部ヨコナデ。	1	
60	W－2	土師器 壺	①—　②— ③—	①中粒　②良好 ③2.5YR6/8橙　④—	胴部横位ヘラケズリ後上位にはヘラミガキを施す。内面縦位ヘラナデ。	上層	
61	W－2	土師器 甕	①[14]　②— ③—	①粗粒　②良好 ③5YR6/6橙　④	胴部外面ヘラケズリ。内面ヘラナデ。口縁部内外面ヨコナデ。口縁部は外反気味に立ち上がる。	上層	
62	W－2	土師器 高杯	①[29.0]　②(7.7) ③—	①中粒　②良好 ③5YR6/8橙 ④口縁部2/5	杯部は水平に開き外反気味に立ち上がる。内外面ヨコナデ後ヘラミガキを施す。	上層	
63	W－2	土師器 高杯	①[20]　②— ③—	①中粒　②良好 ③5YR6/8橙　④—	杯部は水平に開き「く」の字に屈曲して、外反気味に開く。	上層	
64	W－2	土師器 壺	①—　②(7.6) ③—	①粗粒　②良好 ③2.5YR5/8明赤褐 ④1/4	胴部は丸味を帯び上位で最大径となる。底部は丸底。口縁部の境には稜線を有し口縁部は外反気味に立ち上る。胴部外面ヘラケズリ。り内面はヘラナデ’調整。	上層	
65	W－2	土師器 杯	①[12.2]　②(5.1) ③—	①中粒　②良好 ③5YR8/6橙　④1/4	体部外面ヘラケズリ。内面放射線状にアンモンを施す。口縁部外面ヨコナデ。体部と口縁部の境に稜を有し口縁部やや直立し外反する。底部丸底。	上層	
66	T－1	土師器 杯	①[13.4]　②(4.8) ③—	①中粒　②良好 ③5YR4/8赤褐　④	体部内湾し、口縁部に至る。内斜口縁。体部外面ヘラケズリ。内面ヘラミガキを施す。	3	
67	T－1	壺	①—　②— ③—	①中粒　②良好 ③5YR5/4にぶい赤褐 ④破片	胴部外面ヘラケズリ。内面ヘラナデ。口縁部内外面ヨコナデ	覆土	
68	T－2・3・4	壺	①[10.0]　②(5.6) ③—	①中粒　②良好 ③5YR6/4にぶい橙　④—	胴部外面ヘラケズリ。内面ヘラナデ。口縁部内外面ヨコナデ。口縁部は直立気味に外傾する。	覆土	
69	I－1	甕	①　② ③	①粗粒　②良好 ③10YR3/3暗赤褐　④			

Fig. 5　元総社蒼海遺跡群（56）（61）全体図・H－1



H-1 竈

1 層　黒褐色砂質層　粘性有、締り強。焼土粒子、Hr -FP。

2 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。焼土粒子、Hr -FP。

3 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。焼土粒子、焼成灰。

4 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。焼土ブロック、焼成灰、カーボン粒子。

5 層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り有。焼成灰。

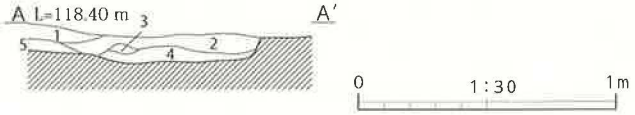
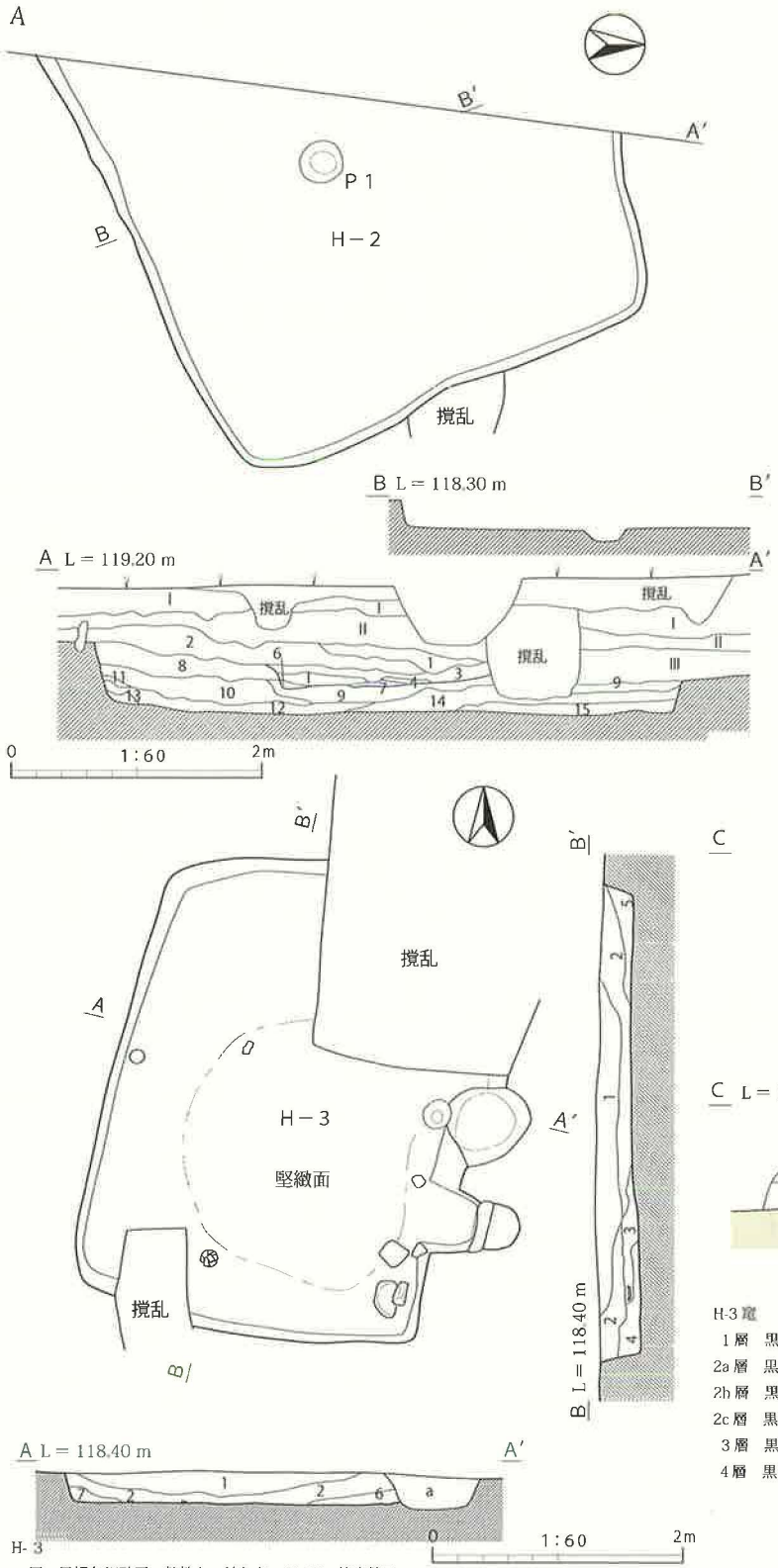


Fig. 6　元総社蒼海遺跡群（56）（61）H－1



H-1・2

(H-1)

1 層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。As-C。

2 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。

3 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。

4 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。焼土ブロック。

5 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。焼石灰（ラミナを呈す）。

6 層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。As-C。

7 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。

(H-2)

8 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。

9 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。

10 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。

11 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。

12 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。

13 層　暗褐色細砂層　粘性弱、締り強。灰白色軽石。

14 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。

15 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。

H-3 竈

1 層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り有。Hr -FP。カーボン粒子。

2a 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。焼土粒子。

2b 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。均質で混入物の少ない層。

2c 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り有。Hr -FP。

3 層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。焼土粒子。

4 層　黒色細砂層　粘性強、締り弱。焼成灰層。

H- 3

1 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り有。Hr-FP。焼土粒子。

2 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。砂質土。Hr -FP。焼土粒子。

3 層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。砂質土。Hr -FP。焼土粒子。

4 層　極暗褐色細砂層　粘性有、締り強。

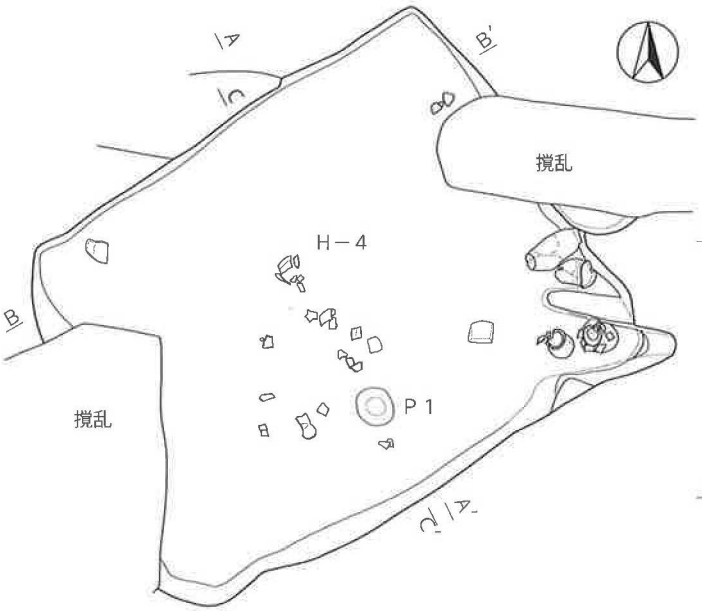
5 層　極暗褐色細砂層　粘性弱、締り強。Hr -FP。

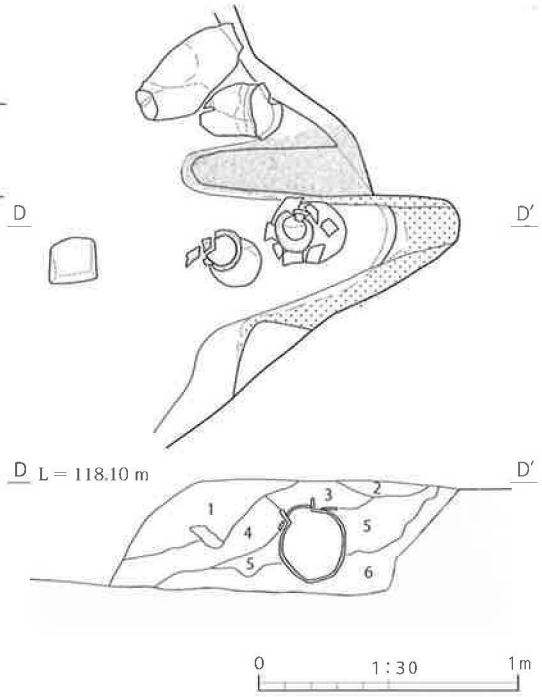
6 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。Hr -FP。

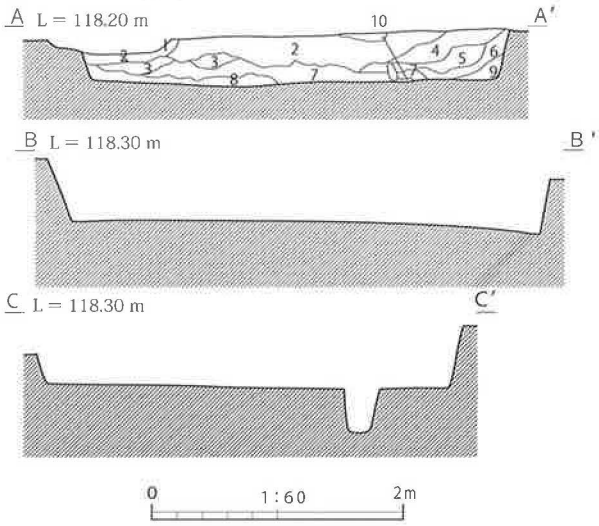
7 層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。Hr -FP。砂質土。カーボン粒子。

a 層　黒褐色細砂層　粘性強、締り強。灰白色軽石。

Fig. 7　元総社蒼海遺跡群（56）（61）H－2、H－3







H-4 竈

1 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。粘土ブロック。Hr -FP。焼土粒子。
2 層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。粘土ブロック。
3 層　極暗褐色細砂層　粘性無、締り強。焼土ブロック。
4 層　明赤褐色細砂層　粘性有、締り強。粘土ブロック。
5 層　暗褐色細砂層　粘性有、締り強。粘土ブロック。
6 層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。粘土ブロック。焼土ブロック。

H-4

1 層　極暗褐色細砂層　粘性無、締り有。Hr -FP。
2 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り有。Hr -FP。
3 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。Hr -FP。
4 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。Hr -FP。
5 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。Hr -FP。焼土ブロック。
6 層　極暗褐色細砂層　粘性有、締り強。焼土ブロック。カーボン粒子
7 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。Hr -FP。
8 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。地水土ブロック。
9 層　極暗褐色細砂層　粘性有、締り強。焼土ブロック。カーボン
ロック。
10 層　極暗褐色細砂層　粘性有、締り強。焼土粒子。カーボン粒子

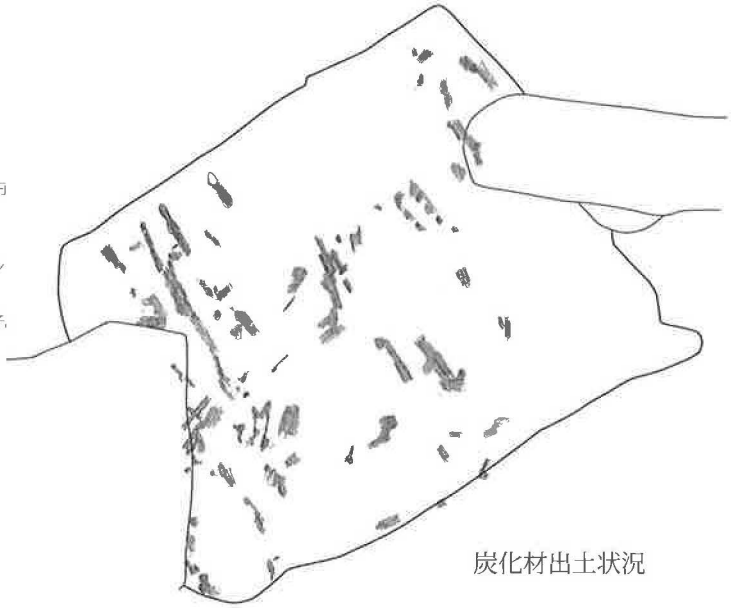
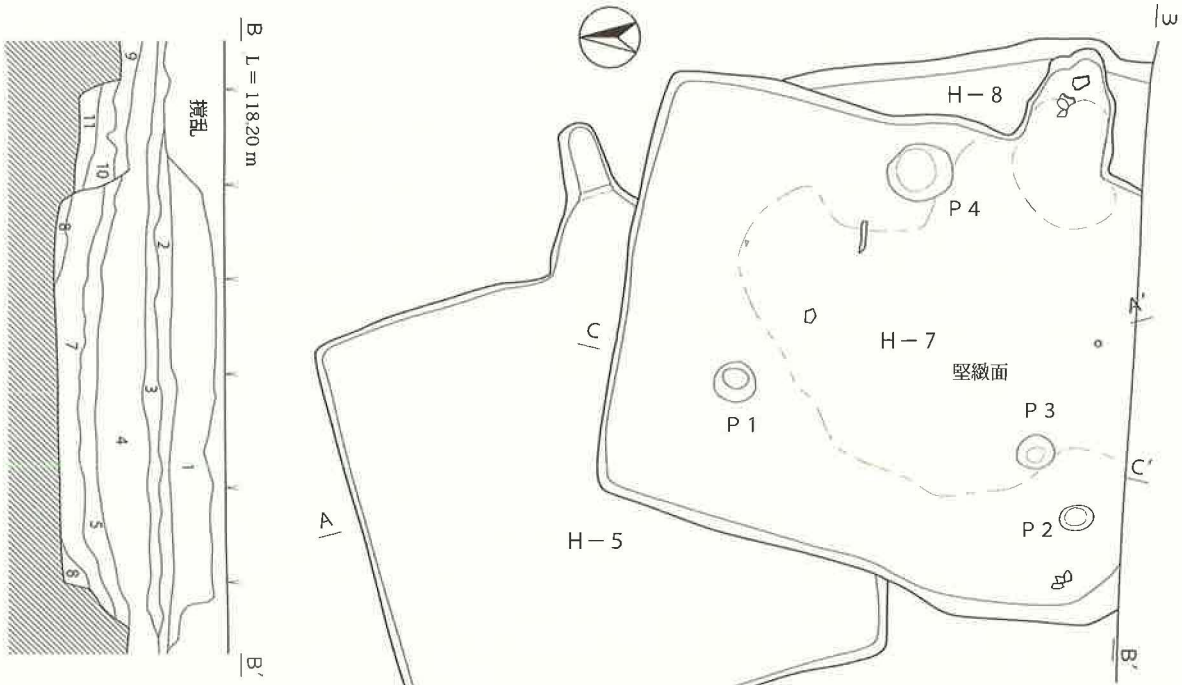


Fig. 8　元総社蒼海遺跡群（56）（61）Ｈ－４



(H-7・8)

1層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。砂質土。As-C。

2層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。砂質土。As-C。

3層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。As-C。

4層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。Hr -FP。

5層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。Hr -FP。

6層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。焼土ブロック。

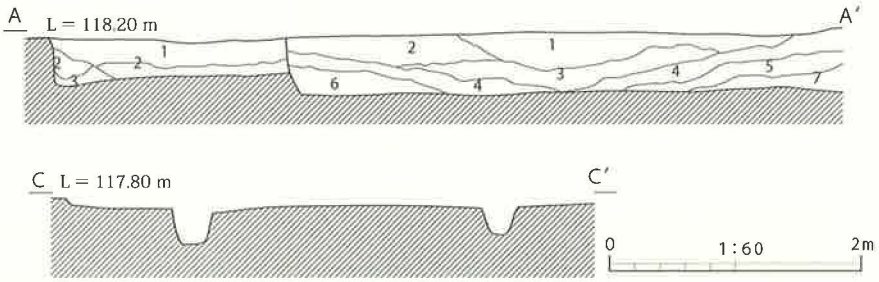
7層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。As-C。

8層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。

9層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。As-C。

10層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。

11層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。



H-5・7

(H-5)

1層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。Hr -FP。

2層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。Hr -FP。

3層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。比較的混入物の少ない層。

(H-7)

1層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。Hr -FP。焼土ブロック。

2層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。Hr -FP。

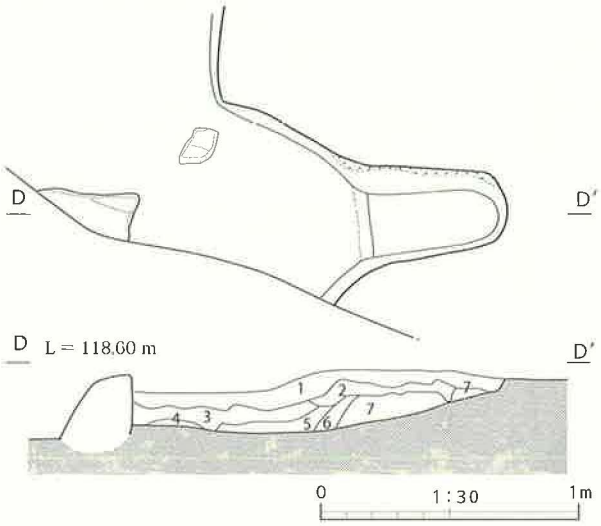
3層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。Hr -FP。

4層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。Hr -FP。

5層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。Hr -FP。

6層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。Hr -FP。

7層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。焼土ブロック。



H-5 竈

1層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。Hr -FP。焼土ブロック。

2層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。焼土ブロック。Hr -FP。

3層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。焼土ブロック。Hr -FP。

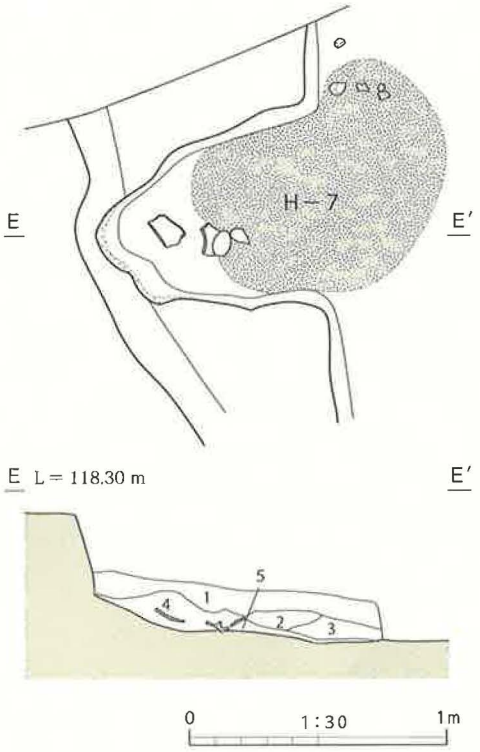
4層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。焼土ブロック。焼成灰。

5層　黒褐色細砂層　粘性無、締り有。焼成灰。カーボン粒子。

6層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。焼土ブロック。

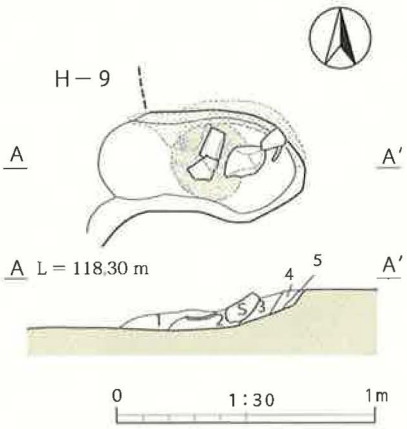
7層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。地山ブロック。焼土ブロック。Hr -FP。

Fig. 9　元総社蒼海遺跡群（56）（61）H－5、H－7、H－8



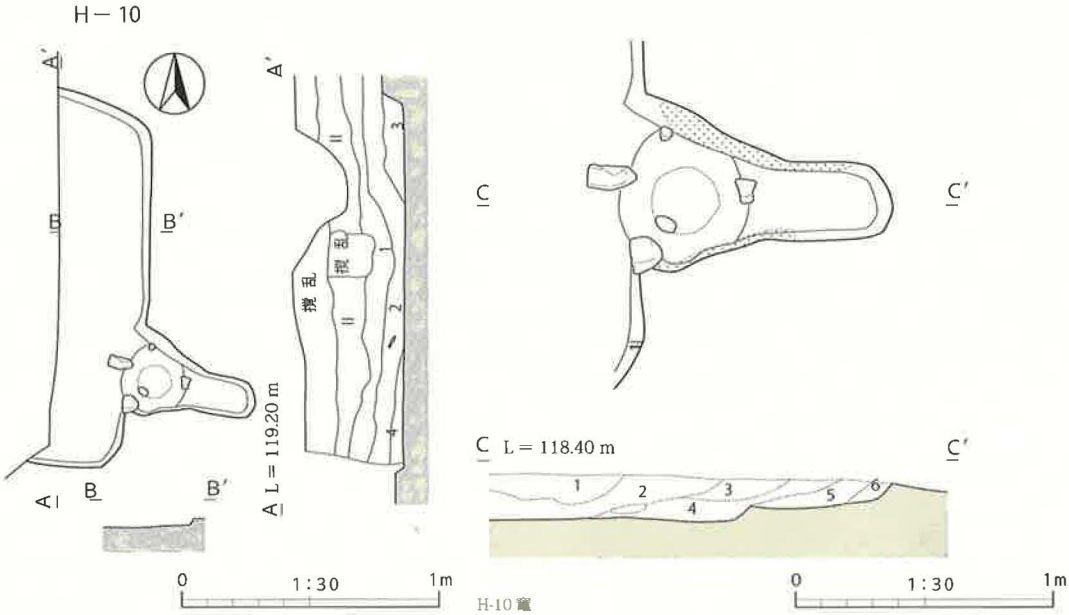
H-7竈

1層　黒褐色細砂層　粘性有、締り有。カーボンブツ。
2層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。焼土ブロック。
3層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。焼土ブロック。
4層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。焼土ブロック。
5層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り有。焼成灰。



H-9竈

1層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。焼土ブロック。
2層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。焼成灰。焼土粒子。
3層　極暗褐色細砂層　粘性無、締り強。焼土ブロック。
4層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。焼土ブロック。
5層　極暗赤褐色細砂層　粘性無、締り強。よく焼けた焼土層。



H-10

1層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。砂質。As-C。
2層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
3層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
4層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。

H-10竈

1層　極暗褐色細砂層　粘性無、締り強。Hr-FP。焼土ブロック。砂質。
2層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。Hr-FP。焼土ブロック。砂質。
4層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。焼土ブロック。焼成灰。
3層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。砂質。Hr-FP。焼土ブロック。
5層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。焼成灰。
6層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。Hr-FP。

Fig.10　元総社蒼海遺跡群（56）（61）H－7、H－9、H－10

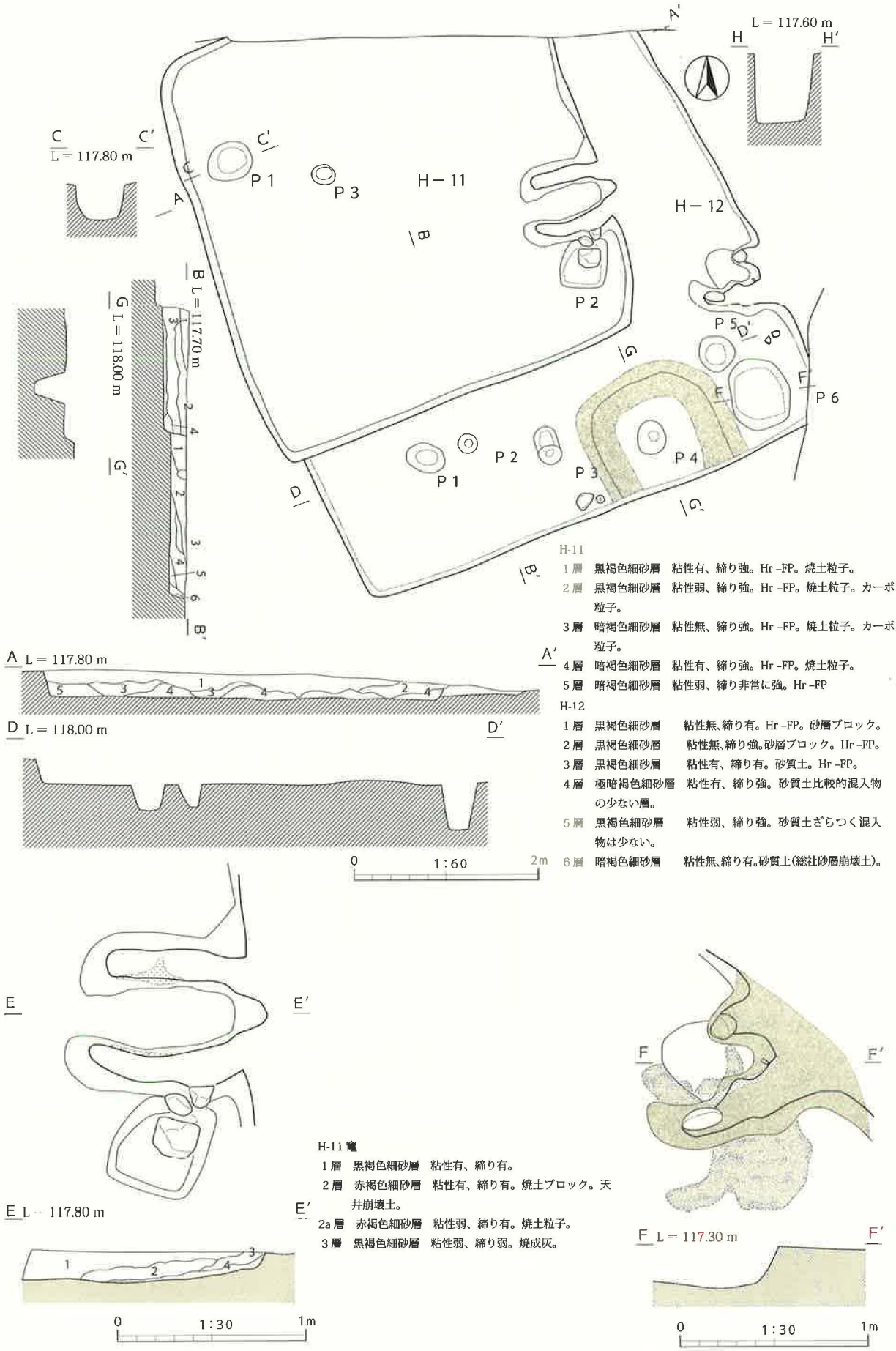
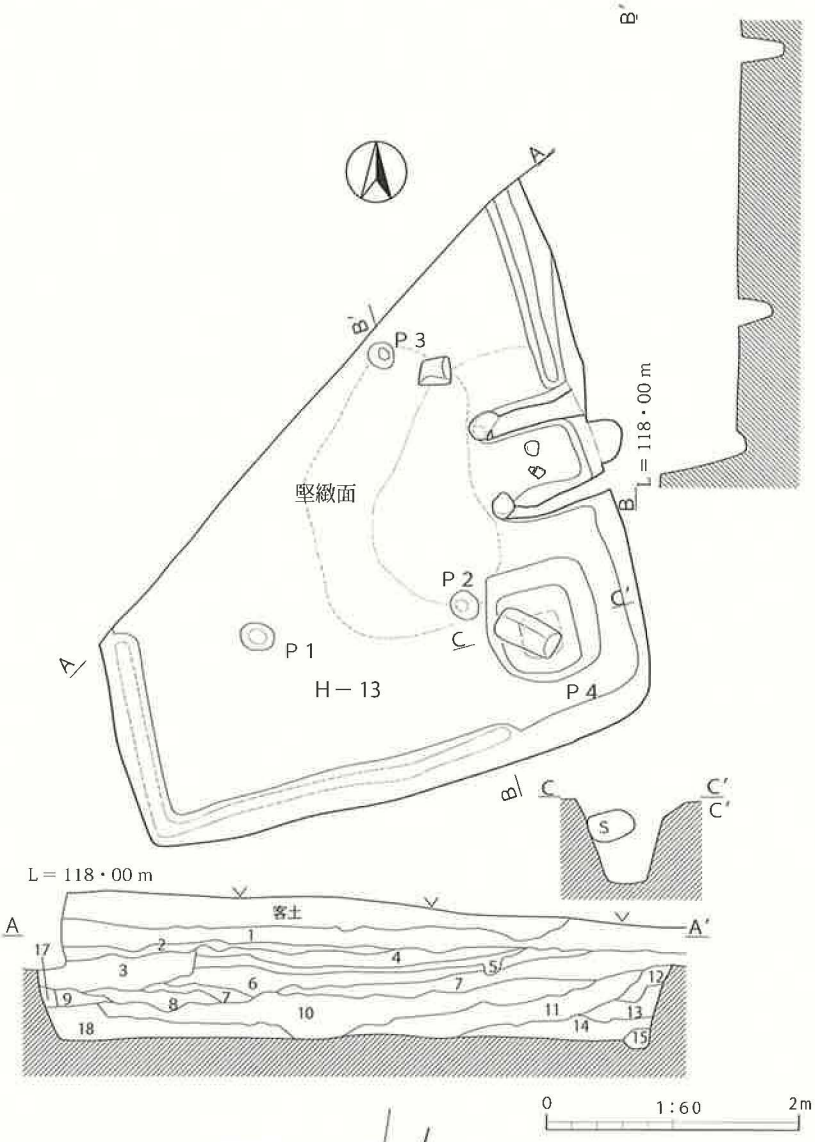
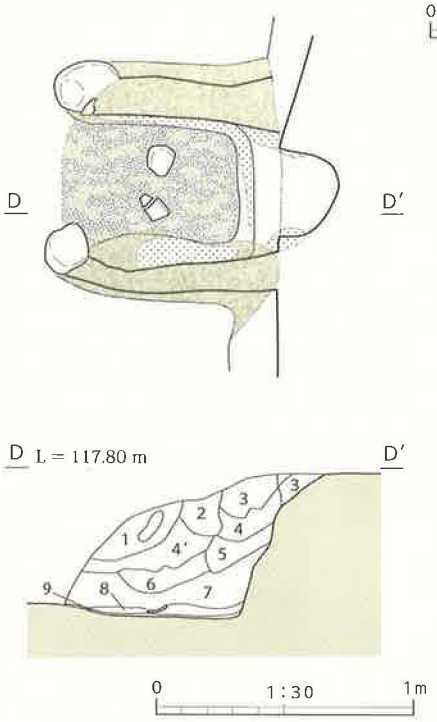


Fig. 11　元総社蒼海遺跡群（56）（61）H－11、H－12



H-13

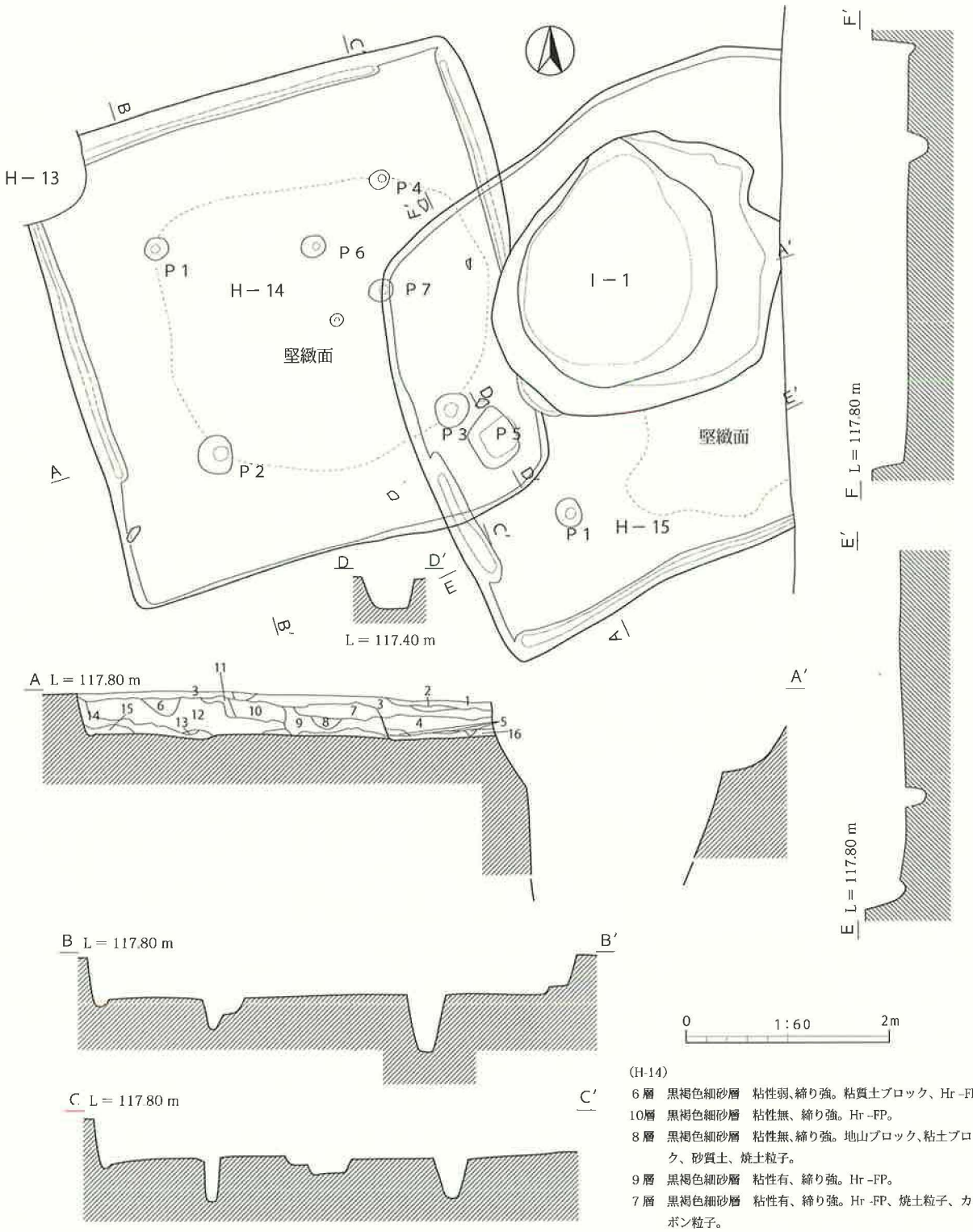
1層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。耕作土。砂質土。
2層　極暗褐色細砂層　粘性有、締り有。砂質土。
3層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。Hr -FP。砂質土。
4層　極暗褐色細砂層　粘性有、締り強。Hr -FP。円礫。砂質土。
5層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。Hr -FP。
6層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。Hr -FP。カーボン粒子。
7層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。Hr -FP。焼土ブロック。
8層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。Hr -FP。
9層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。Hr -FP。
10層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。Hr -FP。地山ブロック。
11層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。Hr -FP。
12層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。地山ブロック。ブロック。
13層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。地山ブロック。
14層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。地山ブロック。
15層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。地山ブロック。
16層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。Hr -FP。
17層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。混入物の比較的少ない均質層。
18層　極暗褐色細砂層　粘性有、締り強。地山ブロック。Hr -FP。



H-13竈

1層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。Hr -FP。焼土粒子。カーボン粒子。
2層　極暗褐色細砂層　粘性無、締り強。焼土ブロック。焼土粒子。
3層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。焼土ブロック。焼土粒子。カーボン粒子。
4層　極暗褐色細砂層　粘性無、締り強。Hr -FP。カーボン粒子。焼土粒子。
5層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。焼土ブロック。
6層　黒褐色細砂層　粘性無、締り有。混入物の比較的少ない層。
7層　黒褐色細砂層　粘性無、締り有。焼土ブロック。焼土粒子。
8層　焼土ブロック
9層　極暗褐色細砂層　粘性無、締り有。焼土粒子。
4'層　極暗褐色細砂層　粘性無、締り有。焼成灰。
8層　暗褐色細砂層　粘性有、締り有。焼土粒子。

Fig. 12　元総社蒼海遺跡群（56）（61）H－13



H-14・15

1層　暗褐色細砂層　粘性弱、締り強。砂質土。Hr -FP。

2層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。砂質土。Hr -FP。粘質土ブロック。

3層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。砂質土。Hr -FP。粘質土ブロック。

(H-15)

4層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。砂質土。Hr -FP。

5層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。砂質土。Hr -FP。

(H-14)

6層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。粘質土ブロック、Hr -FP。

10層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。Hr -FP。

8層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。地山ブロック、粘土ブロック、砂質土、焼土粒子。

9層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。Hr -FP。

7層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。Hr -FP、焼土粒子、カーボン粒子。

11層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。灰白色粘質土ブロック。

12層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。粘土ブロック、Hr -FP。

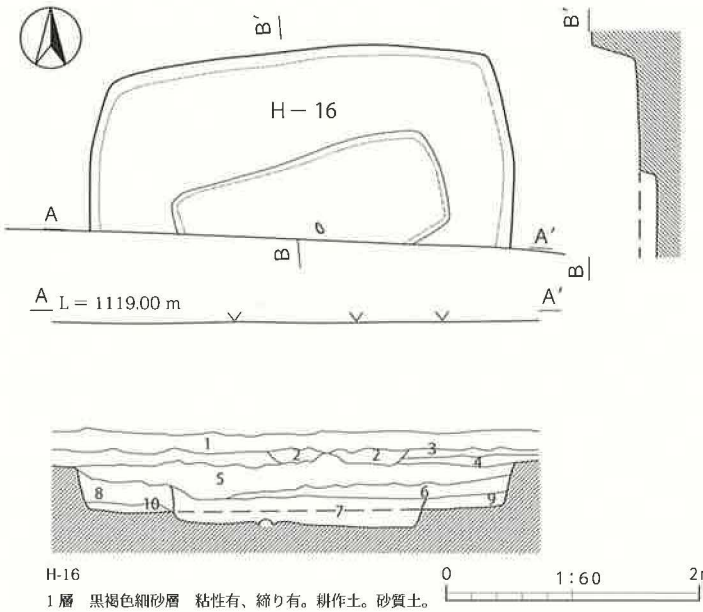
13層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。地山ブロック。

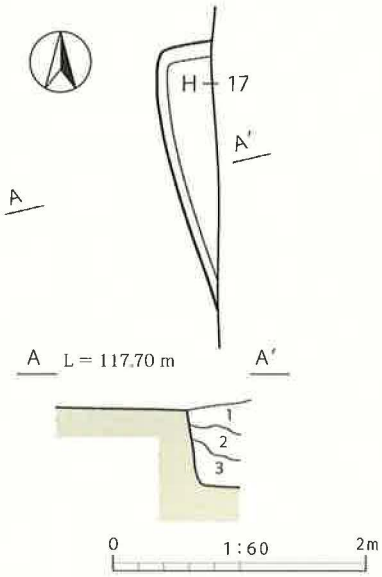
14層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。Hr -FP。

15層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。焼成灰、焼土粒子層ラミナを呈す。

16層　黒褐色細砂層　粘性強、締り有。地山ブロック。

Fig. 13　元総社蒼海遺跡群（56）（61）H—14、H—15



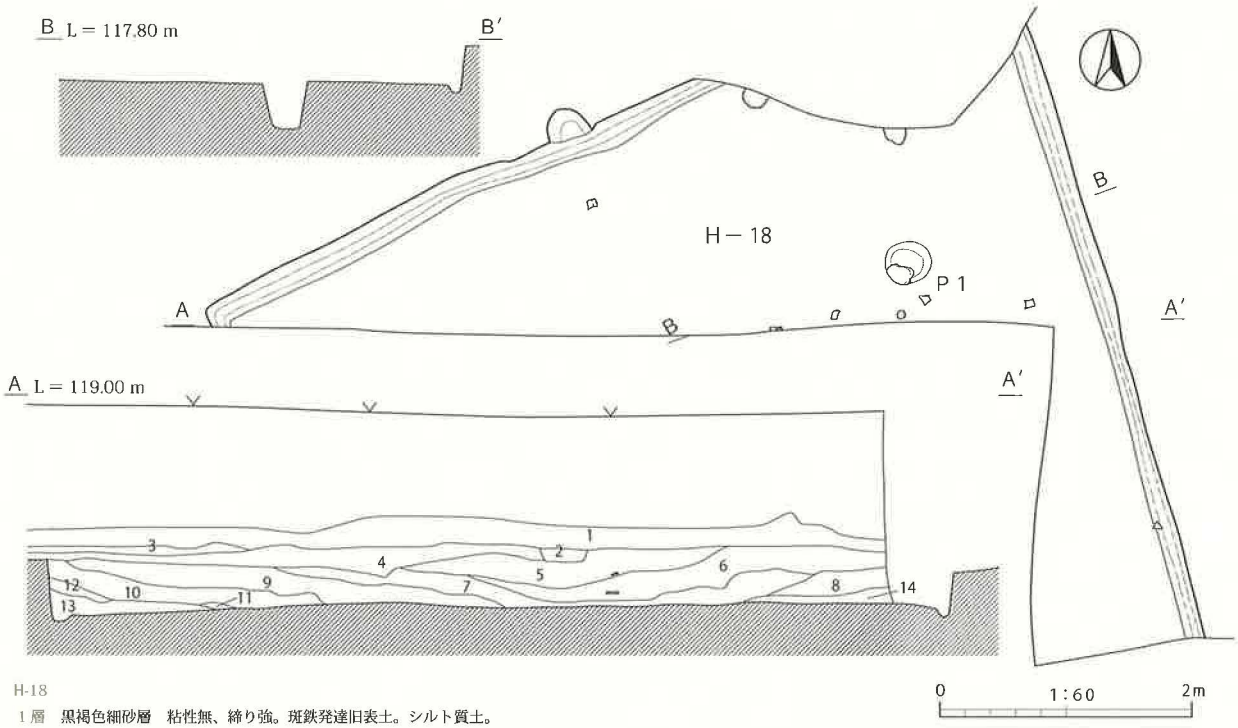


H-16

1 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り有。耕作土。砂質土。
2 層　極暗褐色細砂層　粘性有、締り強。砂質土。
3 層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り有。カーボン粒子。砂質土。
4 層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り有。カーボン粒子。砂質土。
5 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。砂質土。Hr -FP。
6 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。炭化材。焼土粒子。
7 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。カーボン粒子。
8 層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。カーボン粒子。焼土粒子。
9 層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り有。カーボン粒子。
10 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。焼土粒子。

H-17

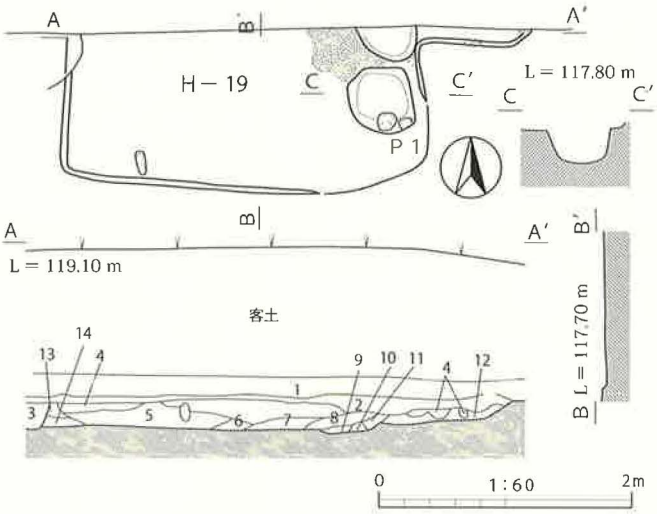
1 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り有。Hr -FA。
2 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り有。Hr -FA。
3 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り有。



H-18

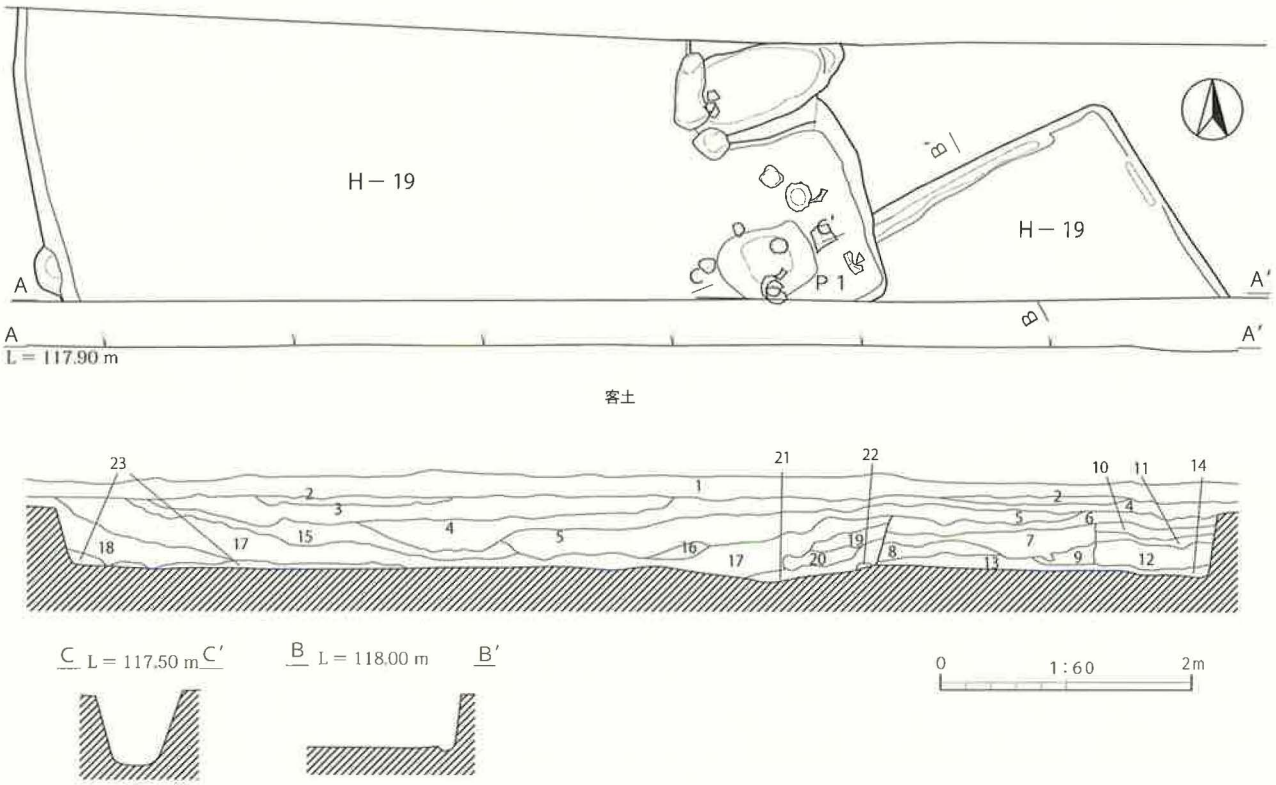
1 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。斑鉄発達旧表土。シルト質土。
2 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。砂質で均質。
3 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。シルト質土。
4 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。砂質。混入物の少ないシルト質土。
5 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
6 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。As-C。Hr -FA ブロック。
7 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。As-C。
8 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。Hr -FA ブロック。
9 層　暗褐色細砂層　粘性弱、締り強。As-C。
10 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。As-C。
11 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。As-C。
12 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。As-C。
13 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。Hr -FA ブロック。
14 層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。As-C。

Fig. 14　元総社蒼海遺跡群（56）（61）H―16、H―17、H―18



H-19

1 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り非常に強い砂質。
2 層　灰黄褐色細砂層　粘性無、締り強。砂質。水成堆積（ラミナ発達）
3 層　極暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
4 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
5 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
6 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
7 層　極暗褐色細砂層　粘性弱、締り強。As-C。
8 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。焼土ブロック。
9 層　暗褐色細砂層　粘性弱、締り強。焼土ブロック。
10 層　極暗褐細砂土層　粘性有、締り強。焼土粒子。
11 層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。焼土ブロック。
12 層　極暗褐色細砂層　粘性弱、締り強。As-C。
13 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
14 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。



H-20・21

1 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
2 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
3 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
4 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
5 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。As-C。

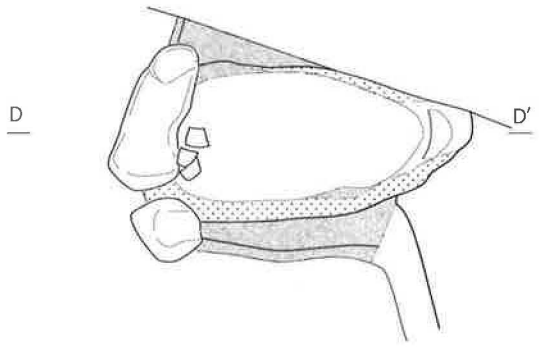
(H-20)

6 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
7 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
8 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。As-C。
9 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。As-C。
10 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
11 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
12 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
13 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。As-C。
14 層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。As-C。

(H-21)

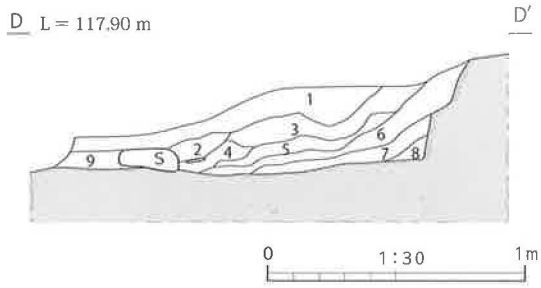
15 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。Hr-FA ブロック。
16 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。As-C。
17 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
18 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
19 層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。As-C。
20 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
21 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。As-C。
22 層　極暗褐色細砂層　粘性弱、締り強。混入物の少ない均質層。
23 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。砂質。小円礫。

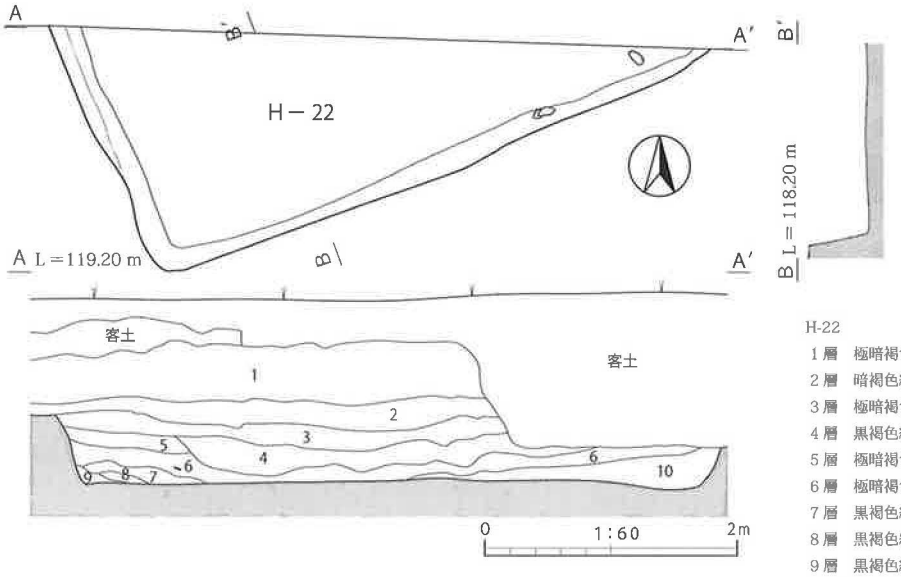
Fig. 15　元総社蒼海遺跡群（56）（61）H—19、H—20、H—21



H-21竈

1層　黒褐色細砂層　粘性有、締り有。As-C。焼土ブロック。
2層　暗赤褐色細砂層　粘性強、締り有。砂層ブロック。
3層　黒褐色細砂層　粘性強、締り有。焼土ブロック。
4層　暗赤褐色細砂層　粘性強、締り強。焼土ブロック。
5層　暗赤褐色細砂層　粘性無、締り有。焼成灰。
6層　暗赤褐色細砂層　粘性弱、締り有。焼成灰。焼土ブロック。焼土粒子の混土（不均質）。
7層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。焼土粒子。焼成灰。
8層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。混入物の比較的少ない均質。
9層　暗褐色細砂層　粘性無、締り有。砂層ブロック。

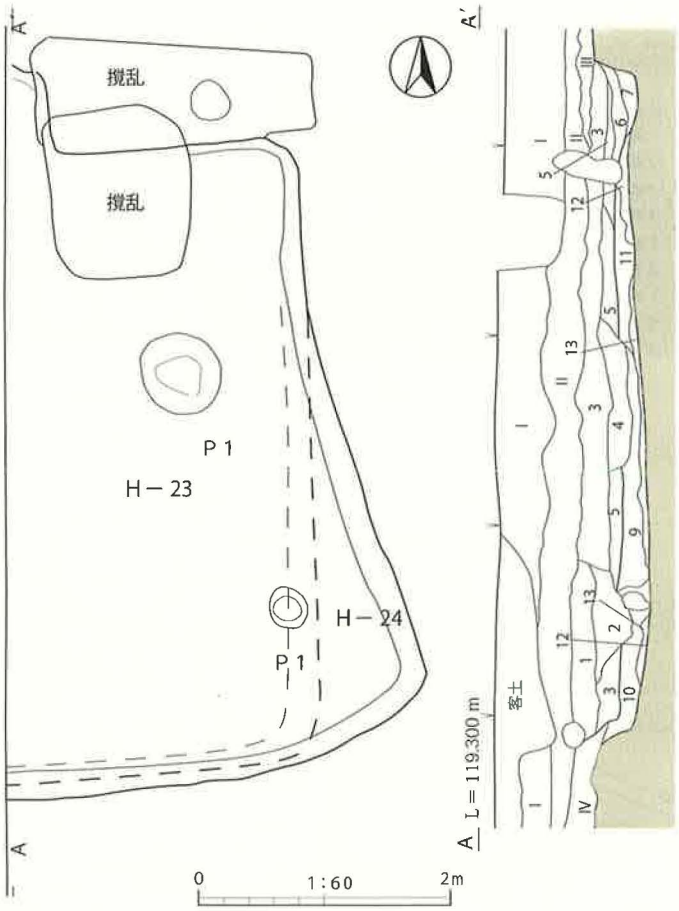




H-22

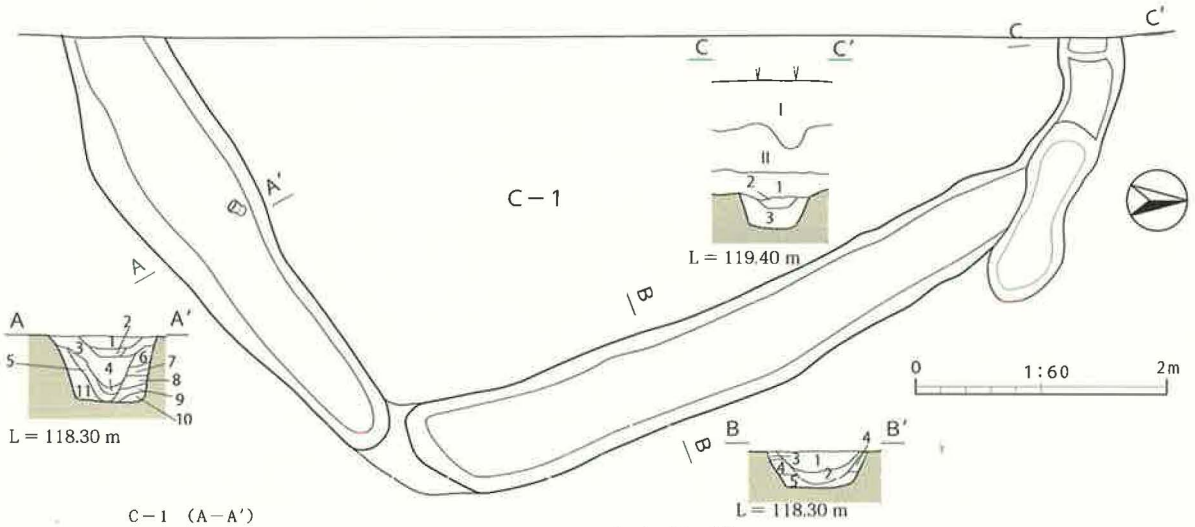
1層　極暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
2層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
3層　極暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
4層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
5層　極暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
6層　極暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
7層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
8層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。As-C。
9層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。As-C。
10層　極暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。

Fig.16　元総社蒼海遺跡群（56）（61）H—21、H—22



H-23・24

1層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。耕作土。砂質土。
2層　極暗褐色細砂層　粘性有、締り有。砂質土。不均質。
3層　黒褐色細砂層　粘性有、締り弱。Hr -FP。
4層　極暗褐色細砂層　粘性有、締り強。円礫。Hr -FP。
5層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。Hr -FP。
6層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。Hr -FP。カーボン粒子。
7層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。焼土ブロック。
9層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。Hr -FP。地山ブロック。
10層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。Hr -FP。焼土ブロック
11層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。Hr -FP。
12層　黒褐色細砂層　粘性有、締り有。地山ブロック。焼土粒子。
13層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。地山ブロック。



C－1　(A－A′)

1層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
2層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
2a層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
3層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
4層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
5層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
6層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
7層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
8層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
9層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C
10層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。As-C。
11層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。As-C。

C－1　(B－B′)

1層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。As-C。
2層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
3層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
4層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
5層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。

C－1　(C－C′)

1層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
2層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
3層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。As-C。

Fig. 17　元総社蒼海遺跡群（56）（61）H－23、H－24、C－1

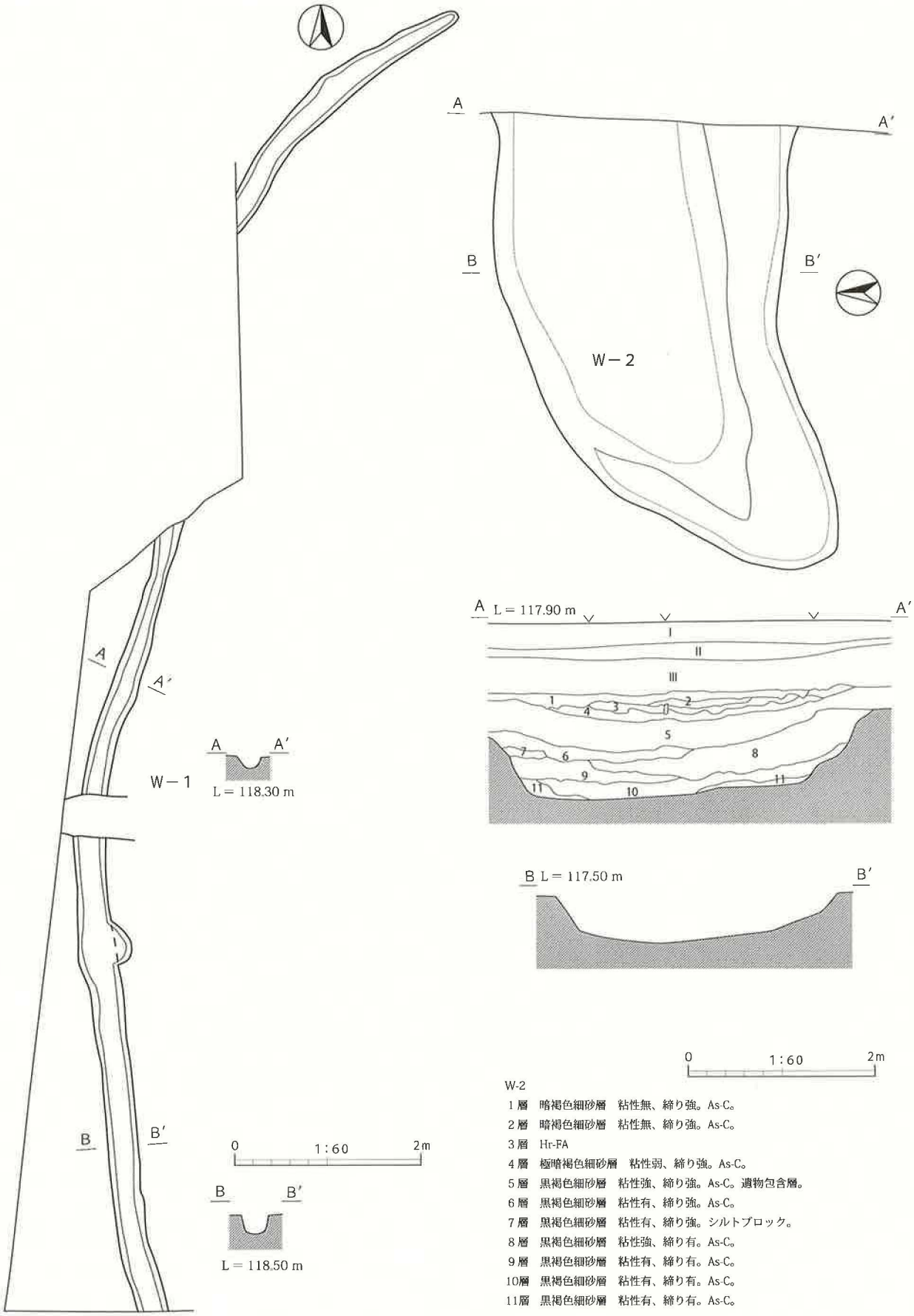
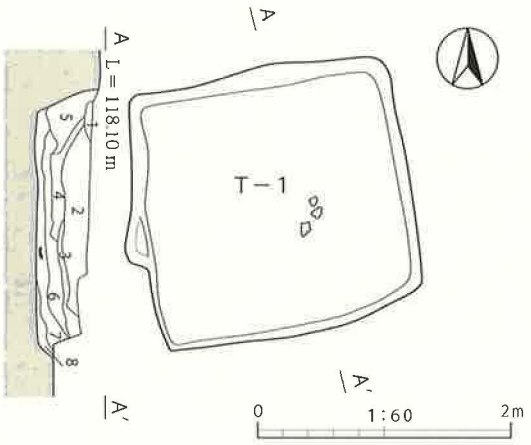
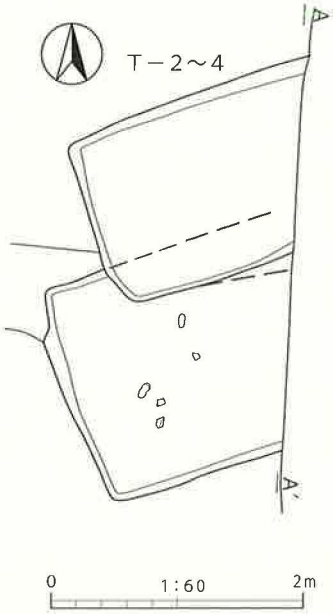


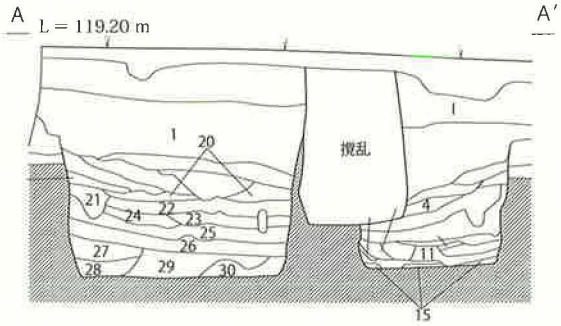
Fig. 18 元総社蒼海遺跡群（56）（61）W－1、W－2



T-1

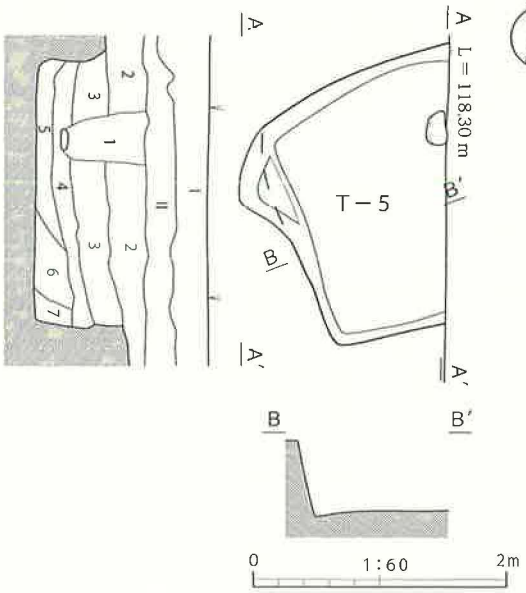
1 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
2 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
3 層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。As-C。
4 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。As-C。
5 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。As-C。
6 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。As-C。
7 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。As-C。
8 層　黒褐色細砂層　粘性有、締り強。As-C。





T-2・3・4

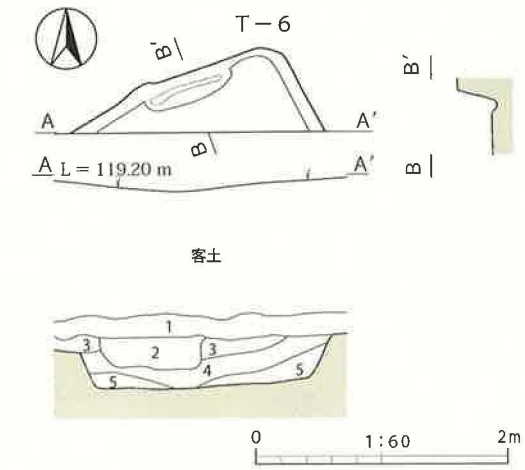
1 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
2 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。砂質土。As-C。
3 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
4 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
5 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
6 層　暗褐色細砂層　粘性弱、締り強。As-C。
7 層　暗褐色細砂層　粘性弱、締り強。As-C。
8 層　暗褐色細砂層　粘性弱、締り強。As-C。
9 層　暗褐色細砂層　粘性弱、締り強。As-C。
10 層　暗褐色細砂層　粘性弱、締り強。As-C。
11 層　暗褐色細砂層　粘性弱、締り強。As-C。
12 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
13 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
14 層　暗褐色細砂層　粘性有、締り強。As-C。
15 層　暗褐色細砂層　粘性有、締り強。As-C。
16 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
16′層　暗褐色細砂層　粘性無、締り有。As-C。
17 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
18 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
19 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
20 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
21 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
22 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
23 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
24 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
25 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
26 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
27 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
28 層　暗褐色細砂層　粘性弱、締り強。As-C。
29 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
30 層　暗褐色細砂層　粘性有、締り強。As-C。



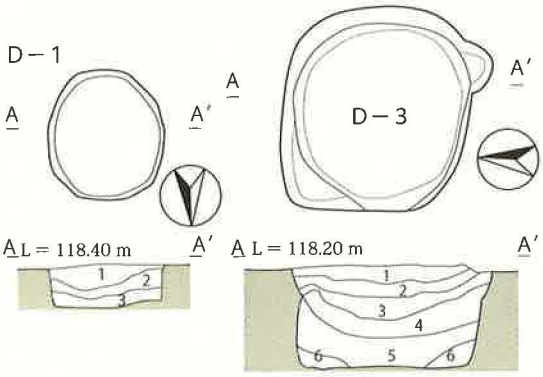
T-5

1 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。砂質土
2 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
3 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
4 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
5 層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
6 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。砂質。As-C。
7 層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。砂質。As-C。

Fig. 19　元総社蒼海遺跡群（56）（61）T－1～5

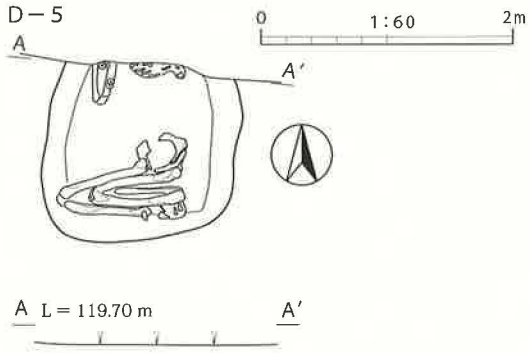


T-6
1層　暗褐色細砂層　粘性無、締り有。As-C。
2層　黒褐色細砂層　粘性無、締り有。砂質。As-C。
3層　黒褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
4層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
5層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。As-C。



D-1
1層　黒褐色細砂層　粘性無、締り有。砂質土。カーボン粒子。Hr-FP。
2層　黒褐色細砂層　粘性無、締り有。砂質土。均質。
3層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り強。砂質土（粒度大きい）。Hr-FP。

D- 3
1層　黒褐色細砂層　粘性無、締り有。Hr-FP。
2層　黒褐色細砂層　粘性無、締り有。やや砂質。
3層　黒褐色細砂層　粘性弱、締り有。砂質土。
4層　暗褐色細砂層　粘性無、締り有。砂質土。砂礫。
5層　暗褐色中砂層　粘性無、締り強。砂礫。
6層　暗褐色粗砂層　粘性無、締り強。砂礫。
7層　暗褐色粗砂層　粘性無、締り強。砂礫。



D-5
1層　暗褐色細砂層　粘性無、締り非常に強砂質土。
2層　灰黄褐色細砂層　粘性無、締り強。水成堆積（ラミナ発達）
3層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。砂質土。
4層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。やや砂質。灰黄褐色軽石。
5層　暗褐色細砂層　粘性無、締り強。As-C。
6層　極暗褐色細砂層　粘性弱、締り強。ややシルト質土。

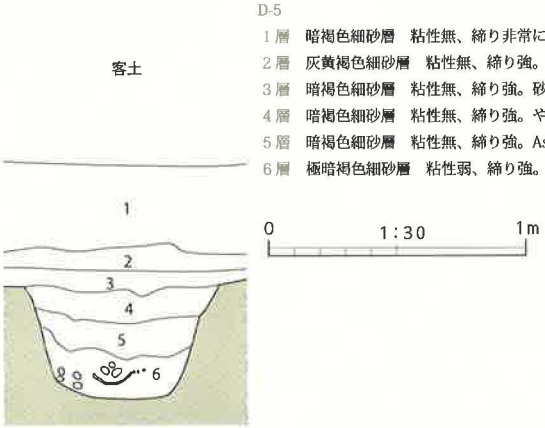
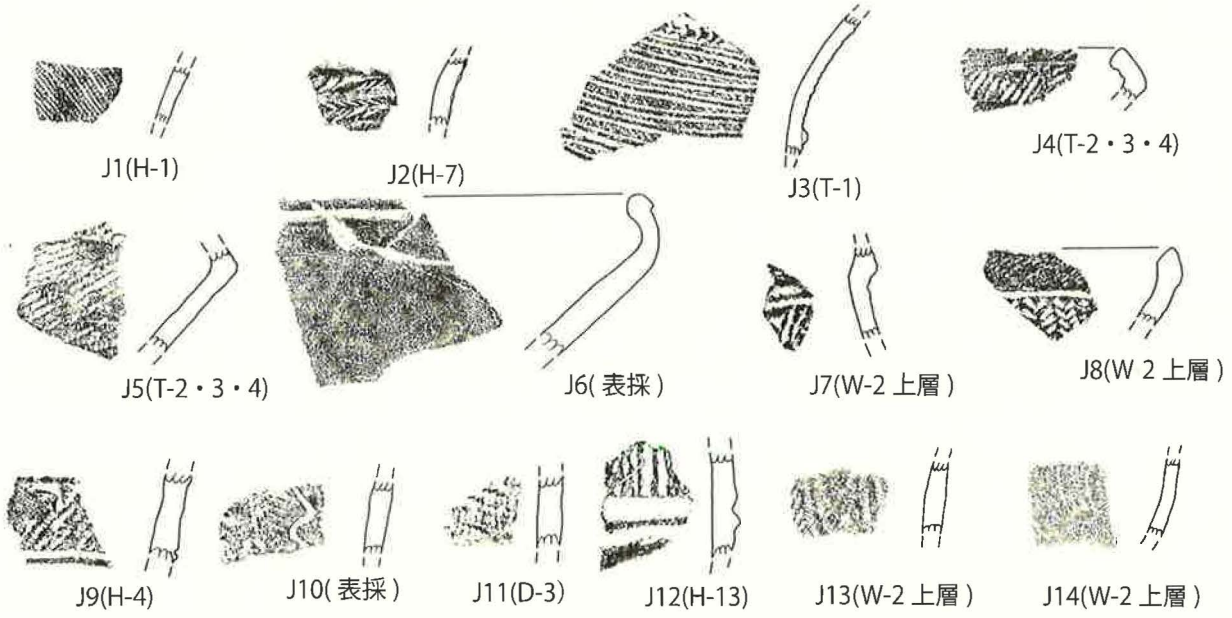


Fig. 20　元総社蒼海遺跡群（56）（61）Ｔ－６、Ｄ－１・３・５



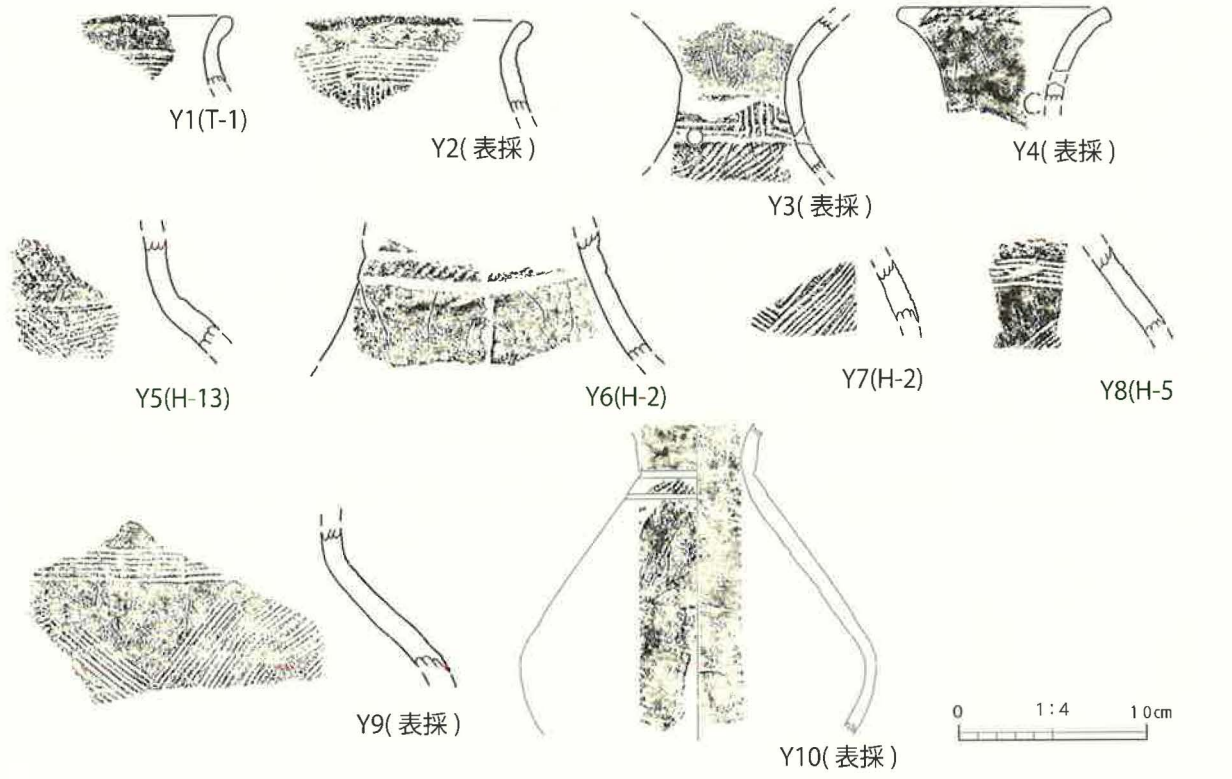


Fig. 21　元総社蒼海遺跡群（56）（61）縄文時代・弥生時代出土遺物

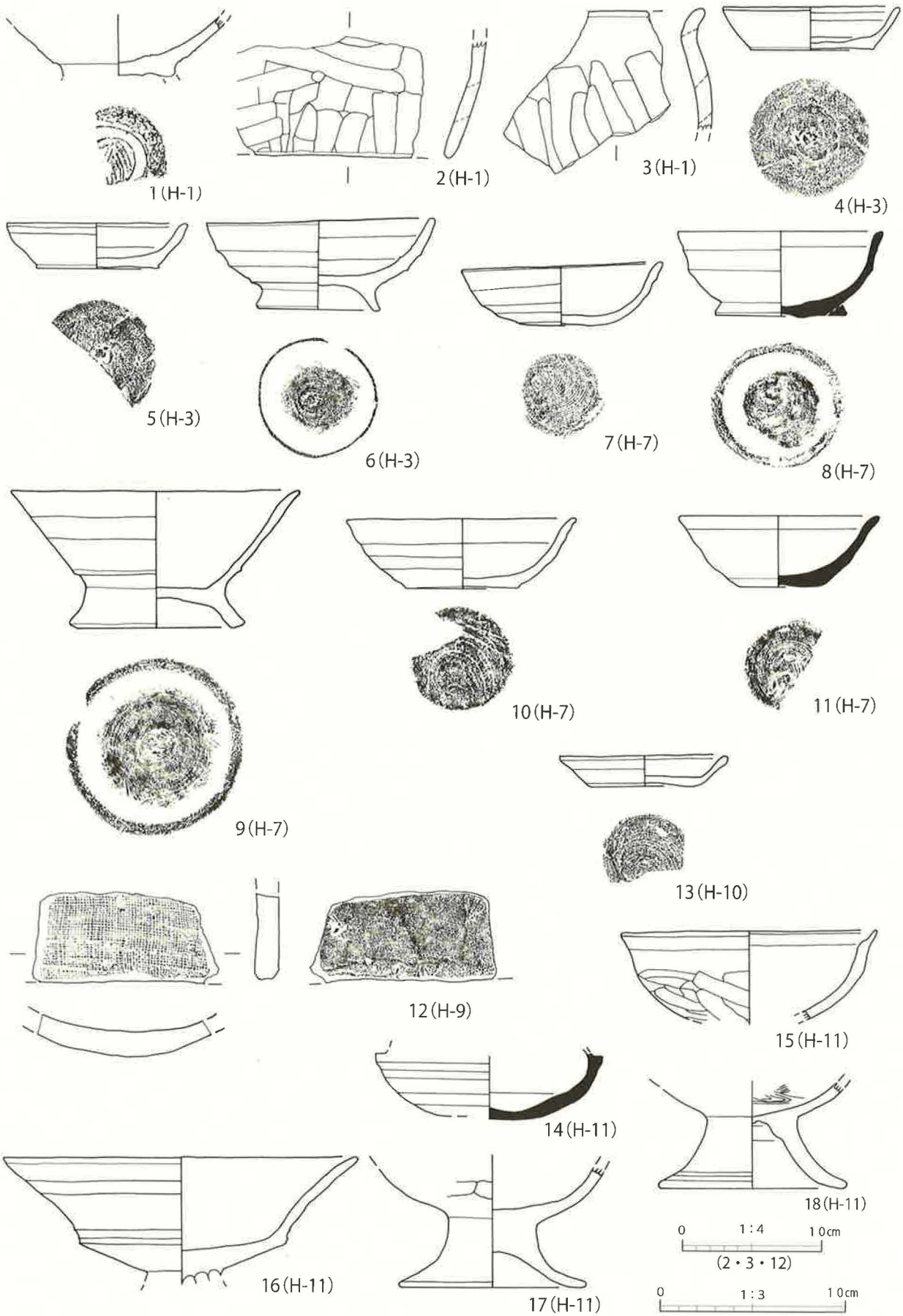


Fig. 22　元総社蒼海遺跡群（56）（61）H－3・7・9・10・11出土遺物

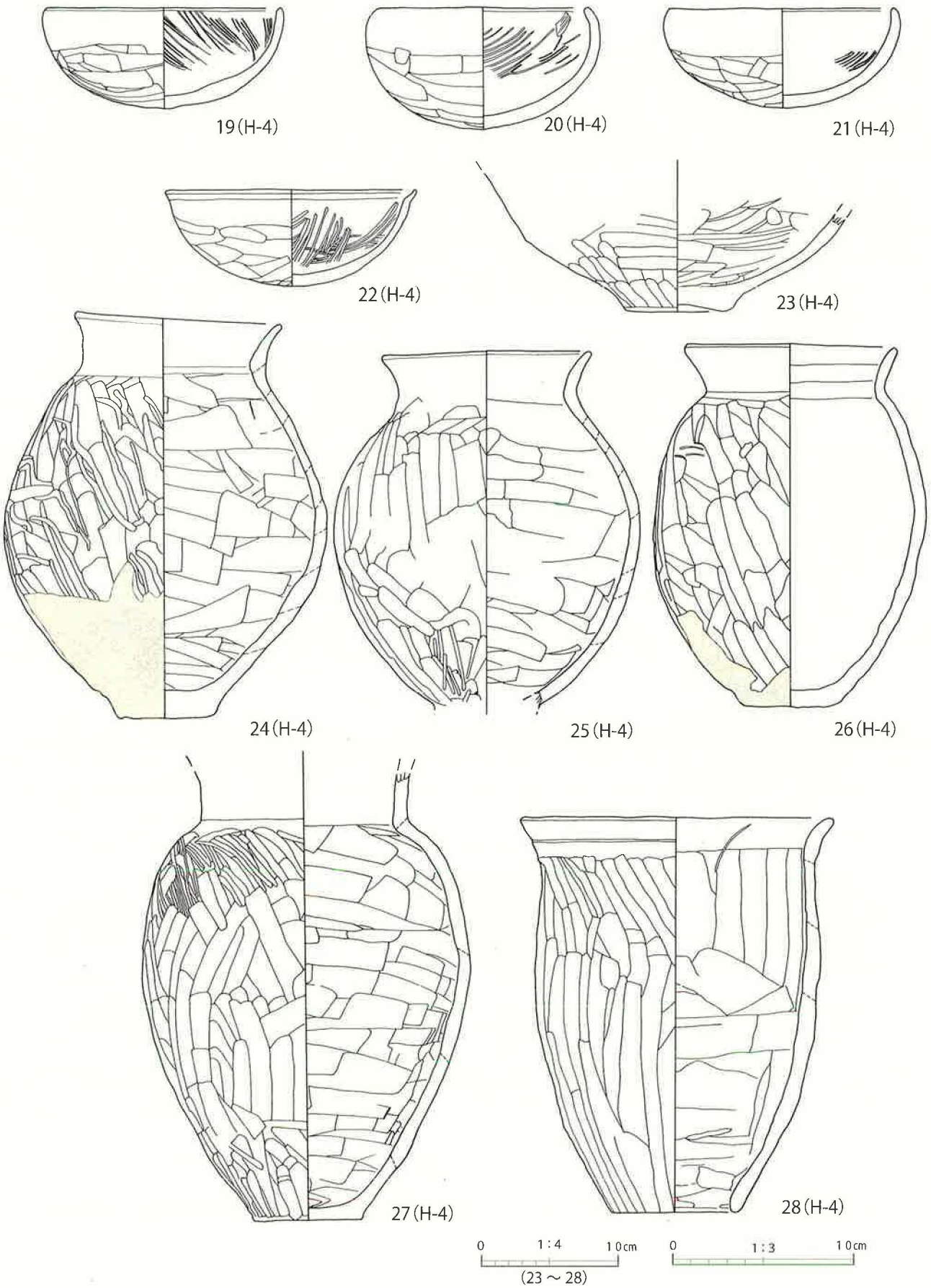


Fig. 23　元総社蒼海遺跡群（56）（61）H－4出土遺物

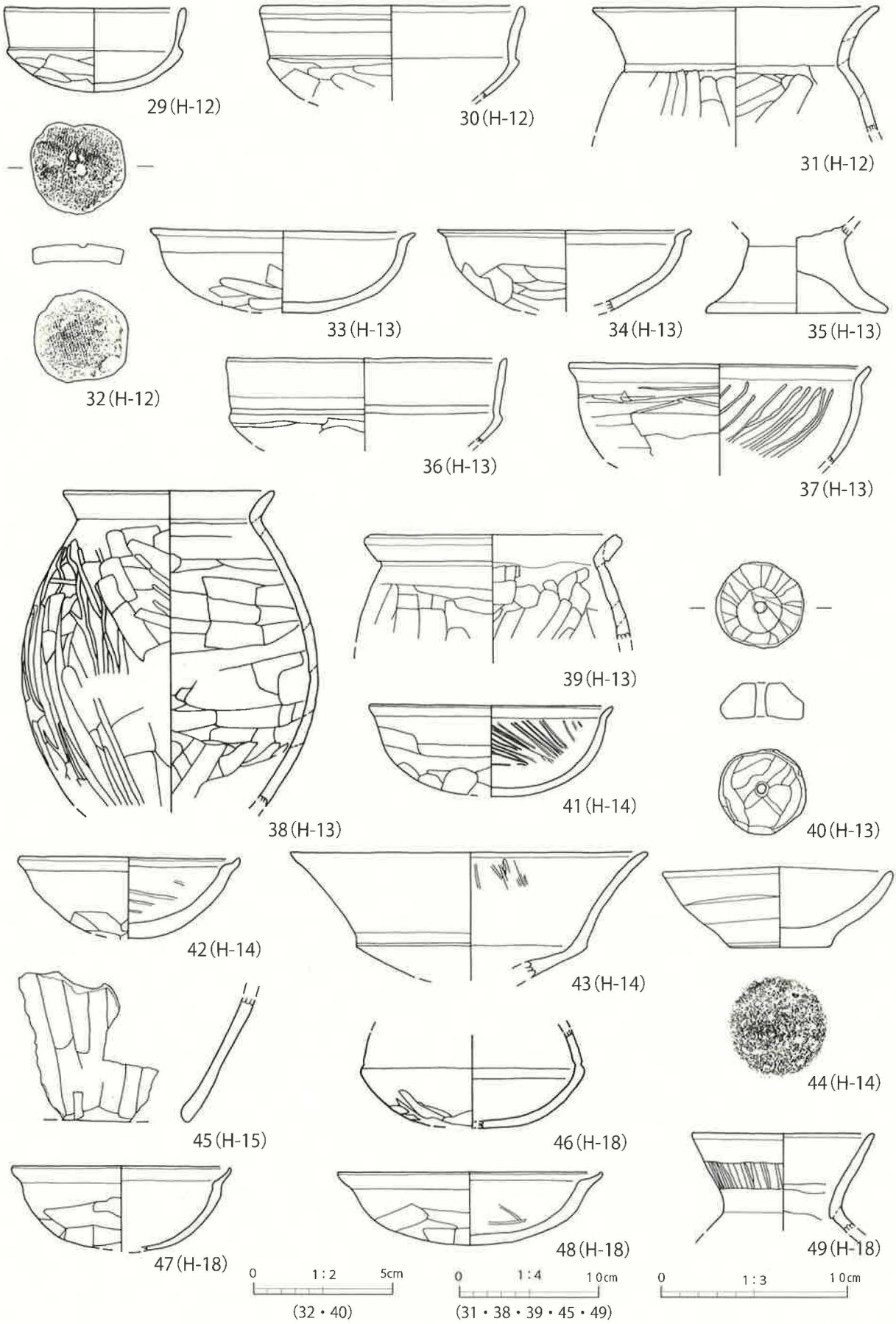


Fig. 24　元総社蒼海遺跡群（56）（61）Ｈ―12～15・18出土遺物

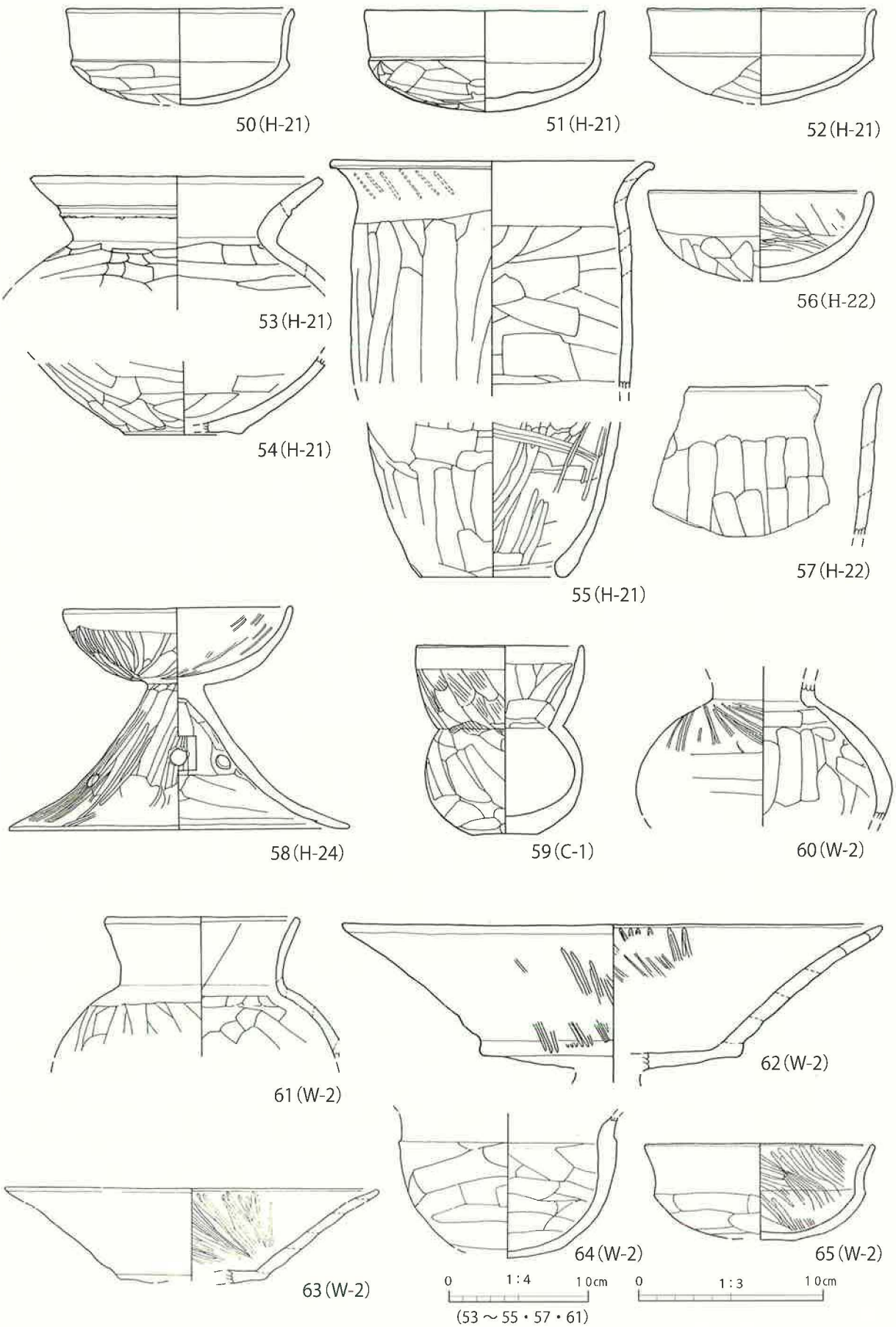


Fig. 25　元総社蒼海遺跡群（56）（61）H―21・22・24、C―1、W―2出土遺物

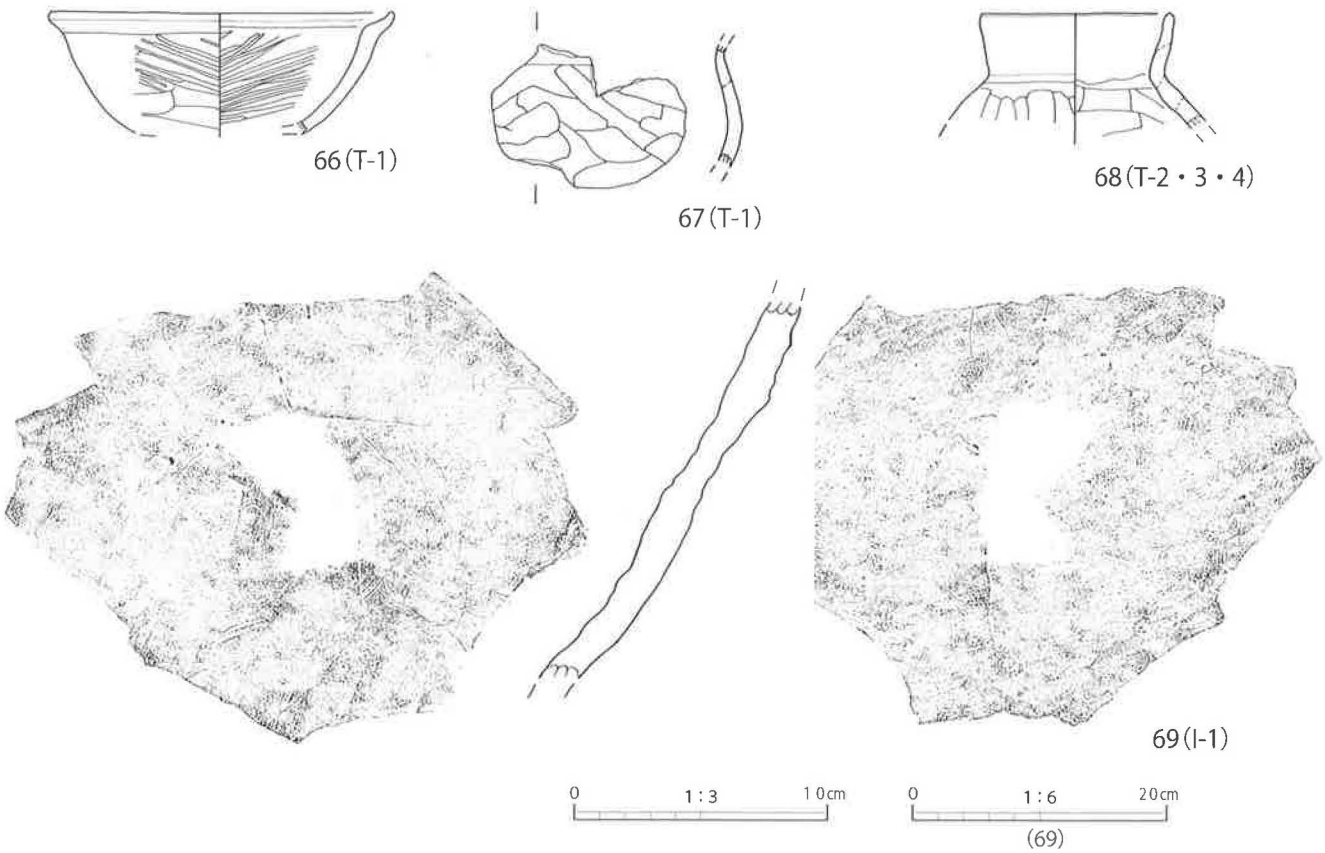


Fig. 26　元総社蒼海遺跡群（56）・（61）Ｔ－１・２・３・４、Ｉ－１出土遺物

V　元総社蒼海遺跡群（72）

1　調査区の概要

本調査区は蒼海遺跡群（61）の西北西約100mほどに位置し、標高約118m程を図る。調査区の北西には五千石用水がかつては流れており、台地の西の縁辺でもあることから、遺構の密度は低い。検出された遺構は、平安時代の竪穴住居跡が１軒、その竪穴住居跡より新しい溝跡１条を検出した。

2　基本層序

Ⅰ層　暗褐色細砂層　現表土。

Ⅱ層　暗褐色細砂層　As-C を混入する砂質土層。

Ⅲ層　暗褐色粗砂層　As-C（Ⅱ層より粒度は大きい）を混入する砂質土層。

Ⅳ層　暗褐色粗砂層　総社砂層起因の砂質土ブロック混入する。

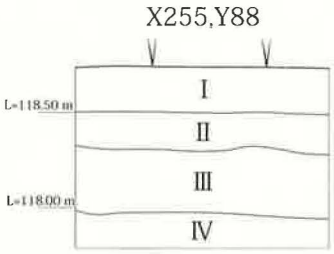


Fig. 27　元総社蒼海遺跡群（72）基本層序

3　遺構と遺物

(1)　竪穴跡住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.28、PL. 8）

位置　X255、Y85・86グリッド　**主軸方向**　N―101°―E　**形状等**　角丸方形　東西(2.02)m　南北3.30m　壁現高14.5cm　**面積**　(5.07)m²　**床面**　ほぼ平坦である。　**竈**　南東部の床面に焼土が確認できるところから調査区外の東壁南東隅に存在するものと思われるが、詳細は不明。　**重複**　W－１と重複しW－１－１より古い　**出土遺物**　土師器・坏、高台椀、灰釉陶器片、瓦　**時期**　10世紀

(2)　溝跡

Ｗ－１号溝跡（Fig.28、PL. 8）

位置　X255、Y85・86グリッド　**形状等**　円形　最大上幅62.0cm　最大下幅30.0cm　深さ9.5cm　**重複**　H－１と重複しH－１より新しい。　**出土遺物**　なし　**時期**　不明

Tab. 5　元総社蒼海遺蹟群（72）出土土器観察表

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
1	H－1	須恵器 杯	①11.2　②3.5 ③―	①細粒　②良好 ③10YR8/4浅黄橙　④1/3	轆轤整形。底部回転糸切り離し後無調整。体部は底部から内湾で立ち上り、口唇部はやや外反気味。	覆土	
2	H－1	土師器 杯	①―　②― ③6.7	①中粒　②良好 ③10YR8/4浅黄橙　④	底部回転ヘラケズリ後高台貼り付け。	覆土	
3	H－1	平瓦	①　② ③	①　② ③　④		覆土	
4	H－1	須恵器 皿	①[11.8]　②1.9 ③	①細粒　②良好 ③2.5YR7/1灰白　④	轆轤整形。底部回転切り離し後高台ケズリダシ。口縁大きく開き底部から内湾気味に口縁に至る。	覆土	
5	H－1	羽釜	①　②(7.8) ③	①　② ③　④破片	口縁部にかけて内傾し、断面三角形の鍔を貼付する。	覆土	
6	H－2	羽釜	①　②(7.9) ③	①　② ③　④破片	口縁部にかけて内傾し、断面三角形の鍔を貼付する。	覆土	

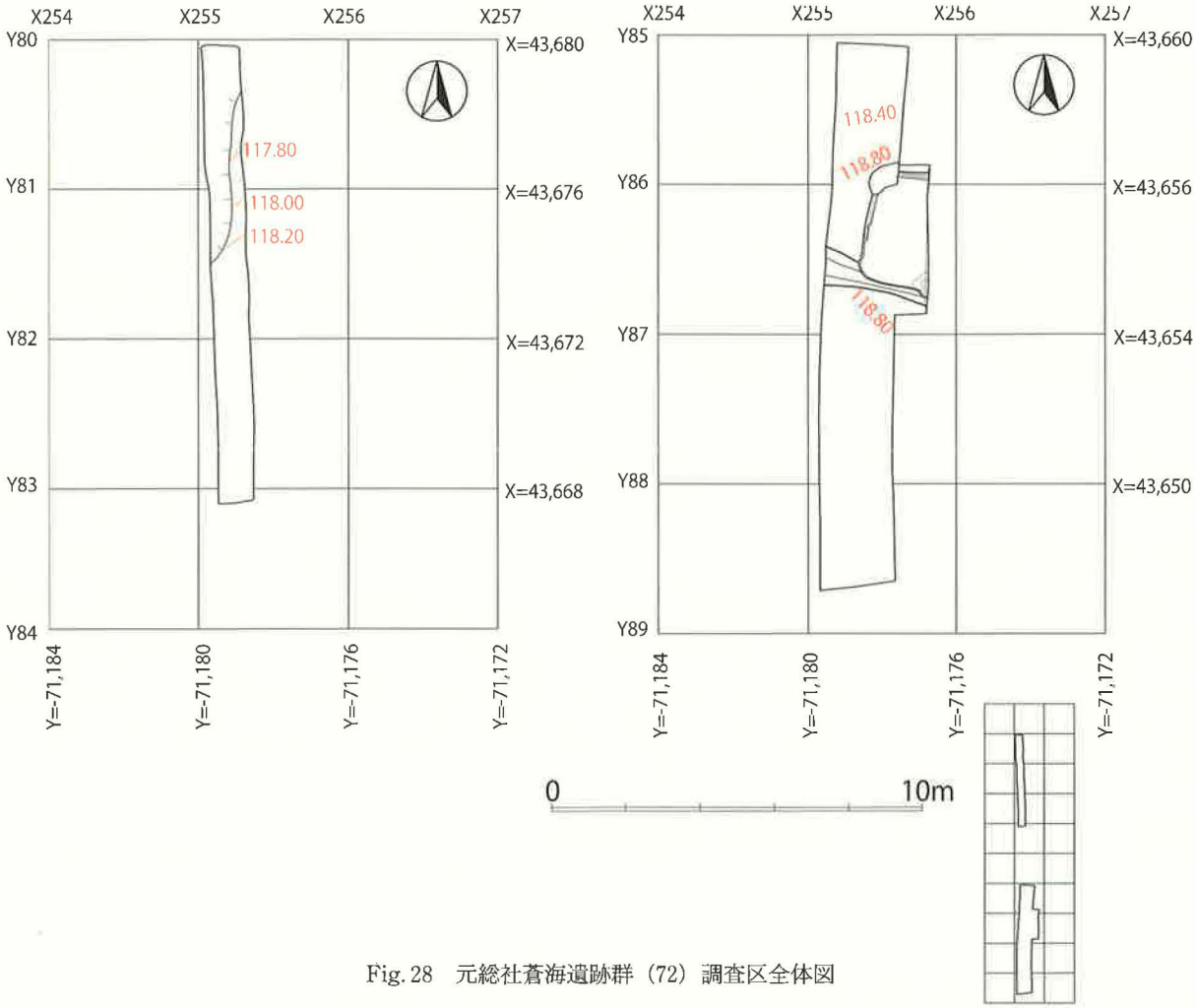


Fig. 28　元総社蒼海遺跡群（72）調査区全体図

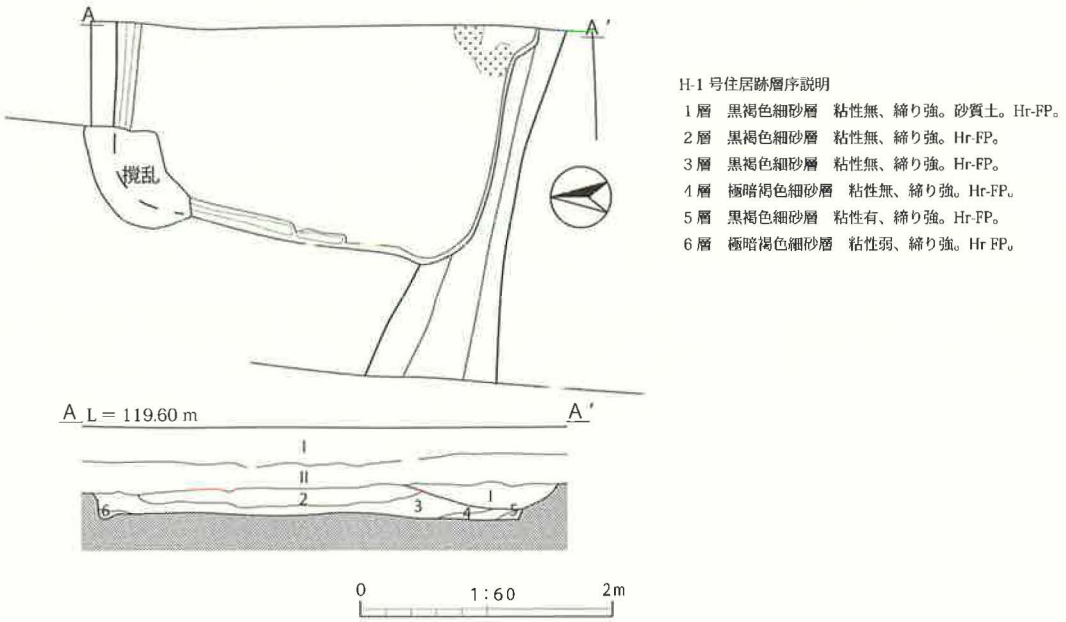


Fig. 29　元総社蒼海遺跡群（72）H－1、W－1

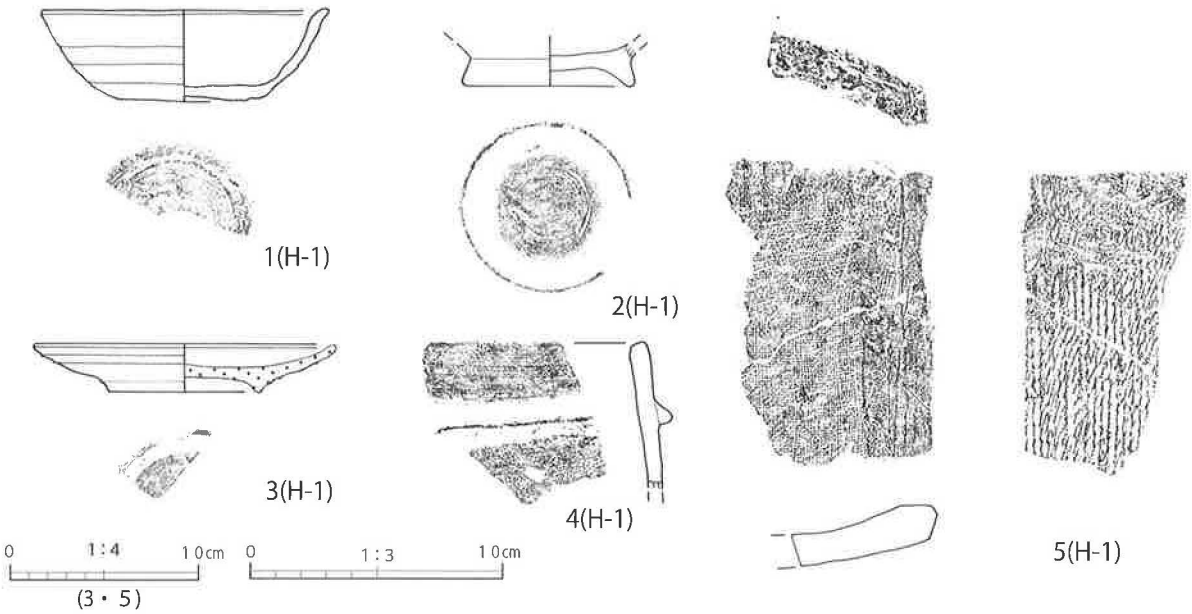


Fig. 30　元総社蒼海遺跡群（72）H－1出土遺物

Ⅵ　元総社蒼海遺跡群（73）

1　調査区の概要

本調査区は蒼海遺跡群（61）の西南西約140mにほどに位置し、標高約118m程を図る。調査前には住宅が建っており、住宅建設・撤去に伴うと思われる撹乱が存在するほか、確認面まで達する木根等により保存状態はよくなかった。また、調査区の北は西に向かう道路が切り通し状に存在し、調査面積は136m²ほどであった。

本調査区の発掘調査は、以上のような状況から遺構の検出は少なく、出土遺物もほとんど皆無であった。

2　基本層序

Ⅰ層　暗褐色（10YR3/3）細砂層　現表土。

Ⅱ層　暗褐色（10YR3/3）細砂層　比較的均質でAs-Cを混入する砂質土層。

Ⅲ層　暗褐色（10YR3/4）細砂層　As-C（Ⅱ層より粒度は大きい）を混入する砂質土層。

Ⅳ層　暗褐色（7.5YR3/4）細砂層　総社砂層起因の砂質土ブロック混入する。

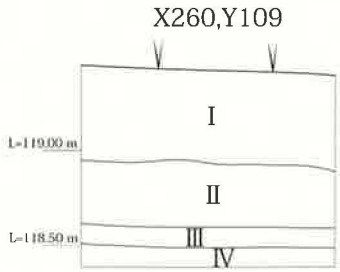


Fig. 31　元総社蒼海遺跡群（73）基本層序

3　遺構と遺物

A－1号道路状遺構（Fig.31、PL. 8）

位置　X259～261、Y108･109グリッド　**主軸方向**　N－116°－E　**形状等**　長さ9.20m　最大幅70cm　**重複**　Ⅰ－1と重複しⅠ－1より古い。　**出土遺物**　なし　**時期**　不明

Ⅰ－1号井戸跡（Fig.31、PL. 8）

位置　X261、Y109　**重複**　A－1と重複しA－1より新しい。　**出土遺物**　なし　**時期**　近現代

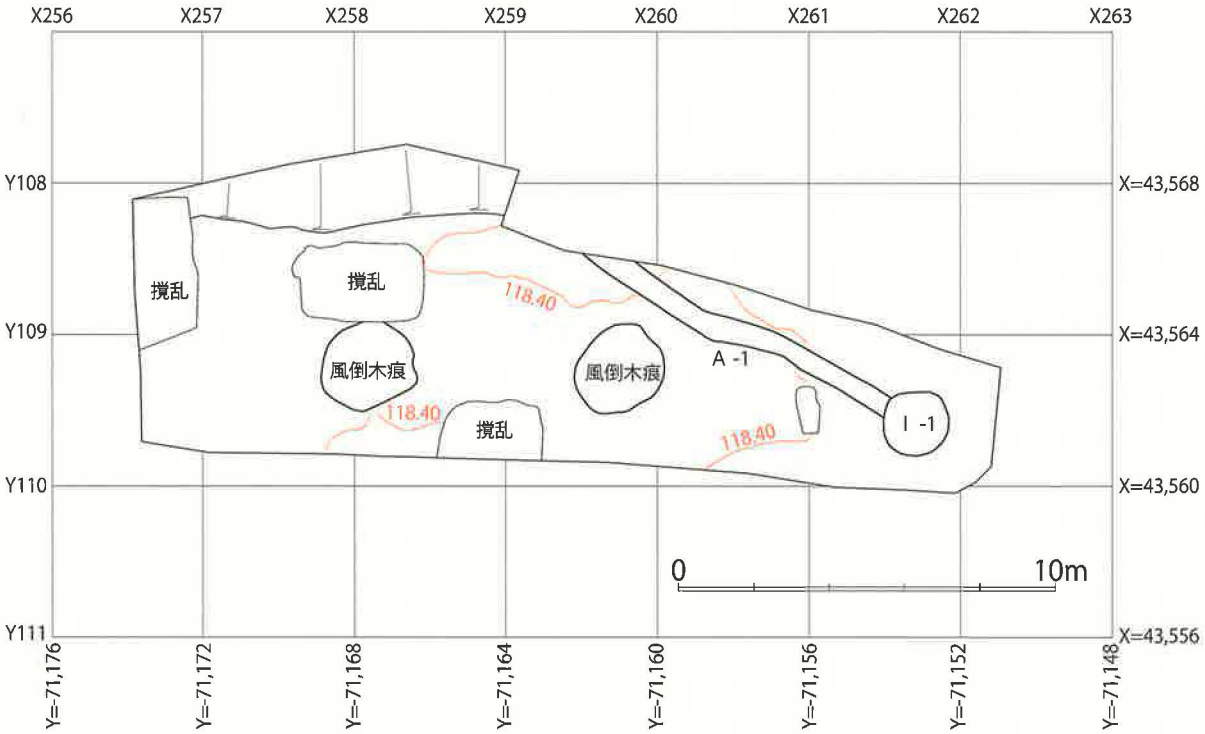
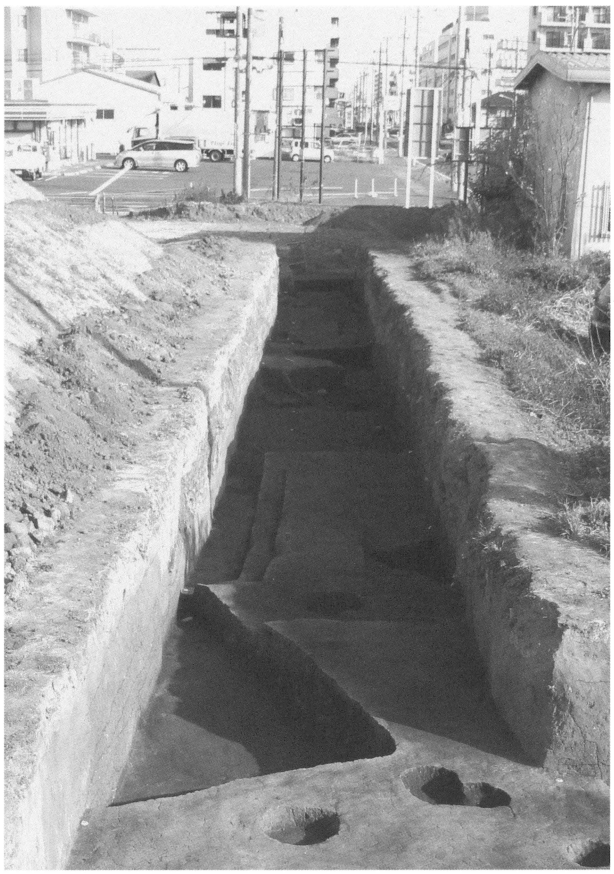


Fig.32　元総社蒼海遺跡群（73）調査区全体図

元総社蒼海遺跡群（61）調査区全景（西から）



元総社蒼海遺跡群（61）調査区全景（西から）

元総社蒼海遺跡群（61）調査区全景（北から）

元総社蒼海遺跡群（61）Ｈ－１号住居跡（西から）

元総社蒼海遺跡群（61）Ｈ－２号住居跡（北から）

元総社蒼海遺跡群（61）Ｈ－３号住居跡（西から）

元総社蒼海遺跡群（61）Ｈ－３号住居跡・竈（西から）

元総社蒼海遺跡群（61）Ｈ－４号住居跡（西から）

元総社蒼海遺跡群（61）H－4号住居跡・竈

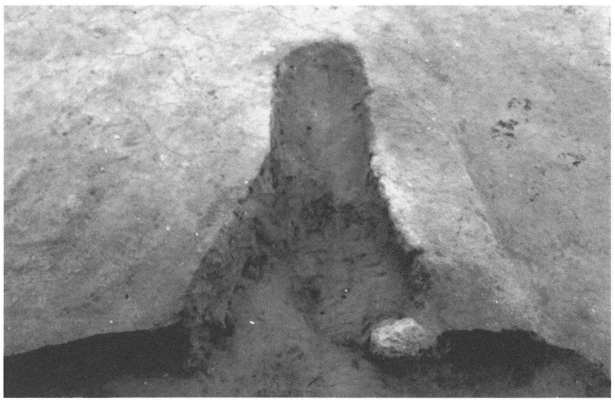
元総社蒼海遺跡群（61）H－5号住居跡・竈

元総社蒼海遺跡群（61）H－5・7・8号住居跡（西から）

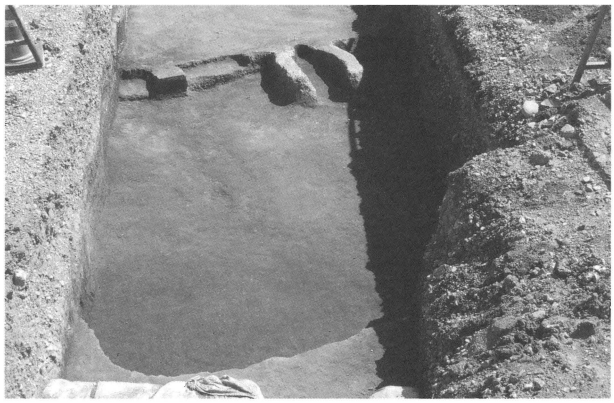
元総社蒼海遺跡群（61）H－7号住居跡・竈

元総社蒼海遺跡群（61）H－9号住居跡・竈

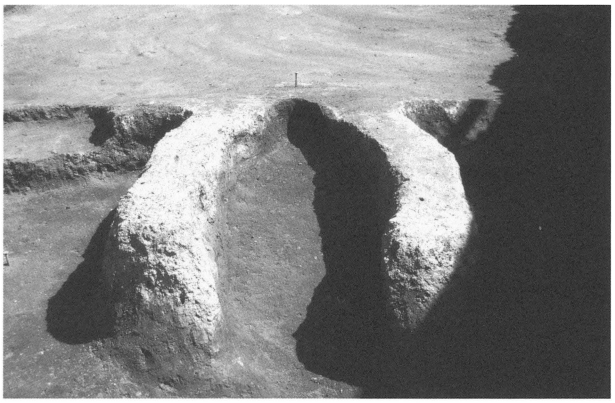
元総社蒼海遺跡群（61）H－10号住居跡



元総社蒼海遺跡群（61）H－10号住居跡・竈



元総社蒼海遺跡群（61）H－11号住居跡（西から）



元総社蒼海遺跡群（61）H－11号住居跡・竈

元総社蒼海遺跡群（61）H－12号住居跡（西から）

元総社蒼海遺跡群（61）H－13号住居跡（西から）

元総社蒼海遺跡群（61）H－14・15号住居跡

元総社蒼海遺跡群（61）H－16号住居跡（東から）

元総社蒼海遺跡群（61）H－18号住居跡（東から）

元総社蒼海遺跡群（61）H－19号住居跡（南から）

元総社蒼海遺跡群（61）H－20号住居跡（西から）

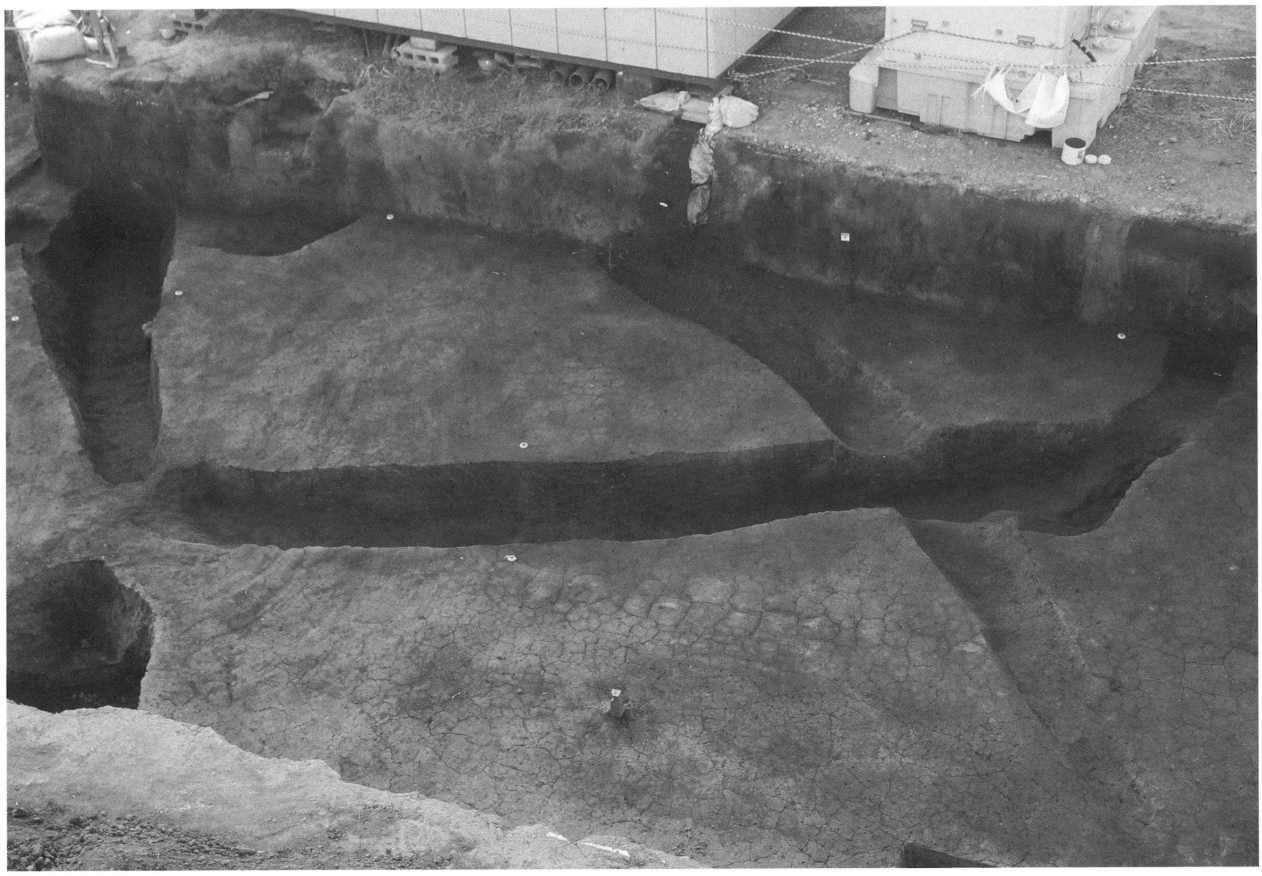
元総社蒼海遺跡群（61）H－21号住居跡（西から）

元総社蒼海遺跡群（61）H－21号住居跡・竈

H－21号住居跡遺物出土状況

元総社蒼海遺跡群（61）H－22号住居跡

元総社蒼海遺跡群（61）H－23・24号住居跡



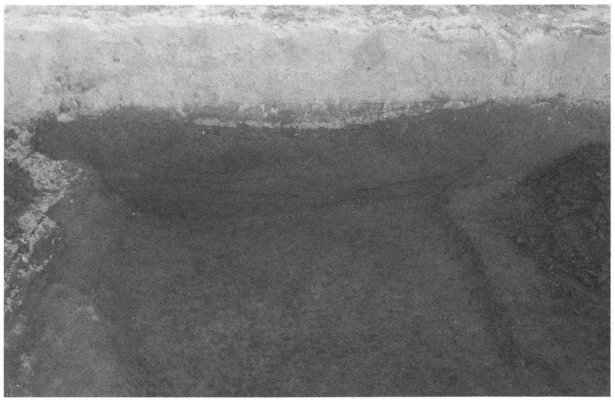
元総社蒼海遺跡群（61）C－1号方形周溝墓（東から）

C－1号方形周溝墓遺物出土状況

元総社蒼海遺跡群（61）W－1号溝跡（南部）

元総社蒼海遺跡群（61）W－1号溝跡（北部）

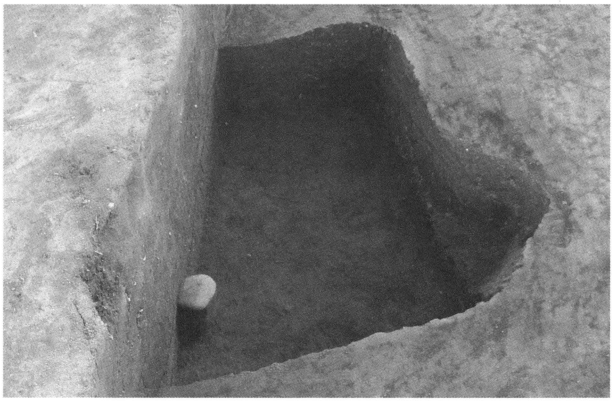
元総社蒼海遺跡群（61）W－2号溝跡（東から）



元総社蒼海遺跡群（61）W－２号溝跡土層堆積状況

元総社蒼海遺跡群（61）T－１号竪穴状遺構

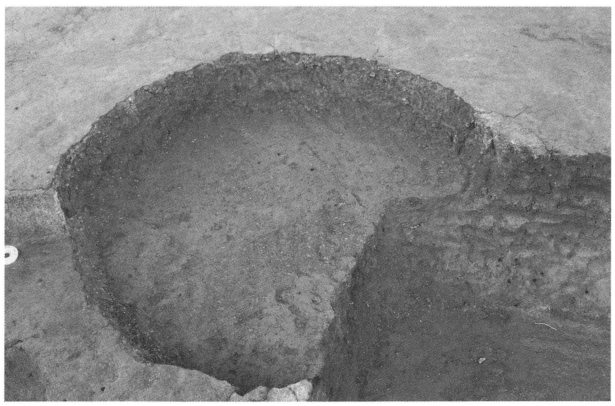
元総社蒼海遺跡群（61）T－２～４号竪穴状遺構



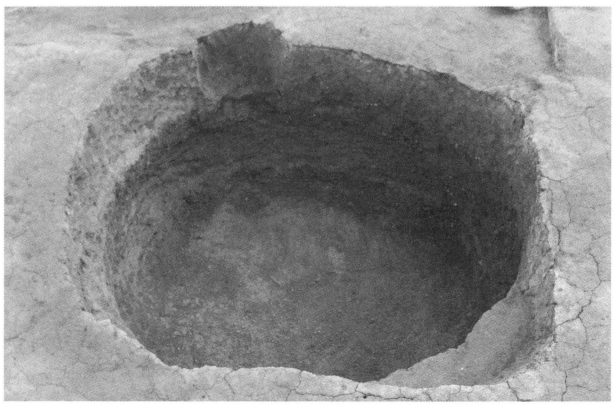
元総社蒼海遺跡群（61）T－５号竪穴状遺構

元総社蒼海遺跡群（61）T－６号竪穴状遺構

元総社蒼海遺跡群（61）D－１号土坑

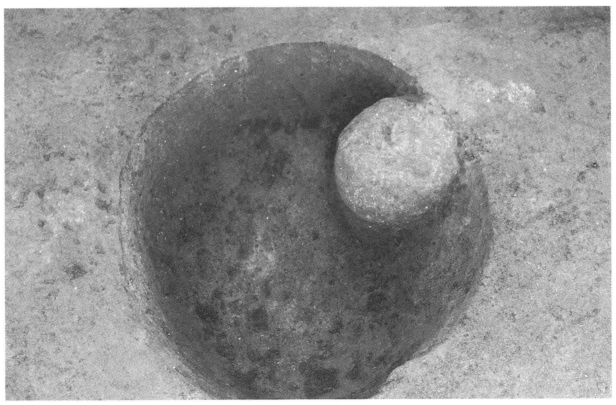


元総社蒼海遺跡群（61）D－２号土坑



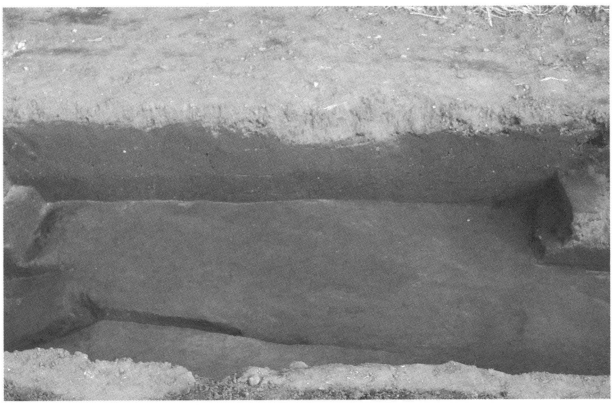
元総社蒼海遺跡群（61）D－３号土坑

元総社蒼海遺跡群（61）D－5号土坑



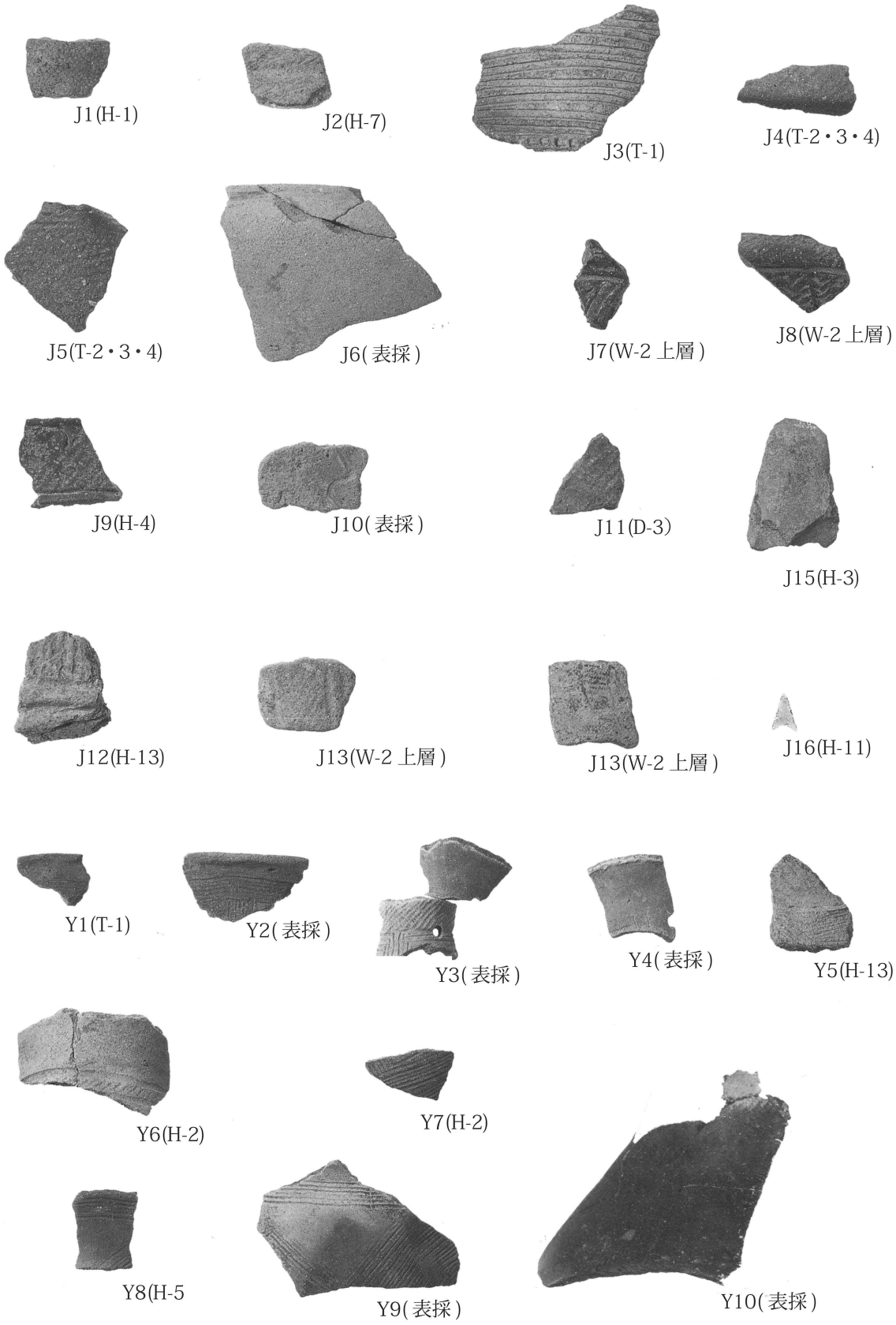
元総社蒼海遺跡群（61）D－6号土坑

元総社蒼海遺跡群（61）I－1号井戸跡



元総社蒼海遺跡群（72）H－1号住居跡

元総社蒼海遺跡群（73）調査区全景（東から）


J1(H-1)
J2(H-7)
J3(T-1)
J4(T-2・3・4)
J5(T-2・3・4)
J6(表採)
J7(W-2 上層)
J8(W-2 上層)
J9(H-4)
J10(表採)
J11(D-3)
J15(H-3)
J12(H-13)
J13(W-2 上層)
J13(W-2 上層)
J16(H-11)
Y1(T-1)
Y2(表採)
Y3(表採)
Y4(表採)
Y5(H-13)
Y6(H-2)
Y7(H-2)
Y8(H-5
Y9(表採)
Y10(表採)

縄文土器・石器、弥生土器

4(H-3)

19(H-4)

20(H-4)

6(H-3)

21(H-4)

22(H-4)

26(H-4)

24(H-4)

27(H-4)

25(H-4)

28(H-4)

元総社蒼海遺跡群（61）出土遺物（１）

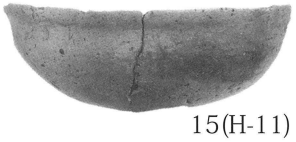
7(H-7)

8(H-7)

9(H-7)

16(H-11)

38(H-13)


15(H-11)

17(H-11)

41(H-14)

53(H-21)

44(H-14)

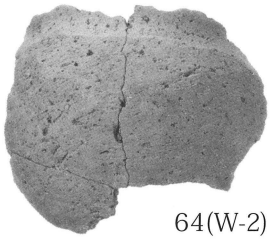
51(H-21)

52(H-21)

55(H-21)

58(H-24)

59(C-1)


64(W-2)

元総社蒼海遺跡群 (72)

1(H-1)

元総社蒼海遺跡群（61）出土遺物（2）

抄　　録

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン（56）、（61）、（72）、（73）
書名	元総社蒼海遺跡群（56）、（61）、（72）、（73）
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	藤坂和延
編集機関	前橋市教育委員会
編集機関所在地	〒371-0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発行年月日	西暦2014年３月30日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群（56）	マエバシシモトソウジャマチ 前橋市元総社町	10201	23Ａ155	36°23′36″	139°02′17″	20130910 ～ 20131210	26	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群（61）	マエバシシモトソウジャマチ 前橋市元総社町	10201	23Ａ160	36°23′36″	139°02′15″	20130910 ～ 20131210	616	
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群（72）	マエバシシモトソウジャマチ 前橋市元総社町	10201	23Ａ171	36°23′39″	139°02′10″	20130910 ～ 20131210	43	
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群（73）	マエバシシモトソウジャマチ 前橋市元総社町	10201	23Ａ172	36°23′35″	139°02′12″	20130910 ～ 20131210	136㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群（56）	集落跡	古墳～奈良・平安時代	竪穴住居跡３軒	土師器、須恵器	
元総社蒼海遺跡群（61）	集落跡	古墳～奈良・平安時代 中近世 時期不明	竪穴住居跡21軒、竪穴状遺構６基、方形周溝墓１基、溝跡２条 墓壙１基、井戸１基 土坑５基	土師器、須恵器、石製品、瓦鉄器 銭貨、陶器	
元総社蒼海遺跡群（72）	集落跡	平安時代	竪穴住居跡１軒 溝跡１条	土師器、須恵器、瓦	
元総社蒼海遺跡群（73）		時期不明	道状遺構１条		

元総社蒼海遺跡群（56）
元総社蒼海遺跡群（61）
元総社蒼海遺跡群（72）
元総社蒼海遺跡群（73）

2014年３月28日　印刷
2014年３月31日　発行

発行・編集　前橋市教育委員会
前橋市三俣町二丁目10-2
印　　刷　朝日印刷工業株式会社